

圓機活法詩學
工之十二

內閣文庫	
三 八 二 〇	一 三 二 九 二 九
函	架

內閣文庫	
番號	漢 1222
冊數	19 (7)
函號	278 206

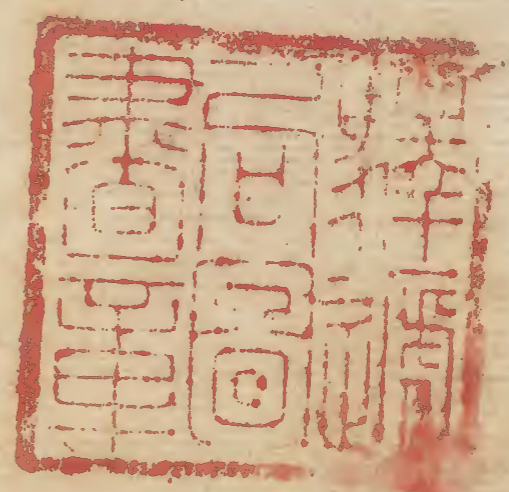
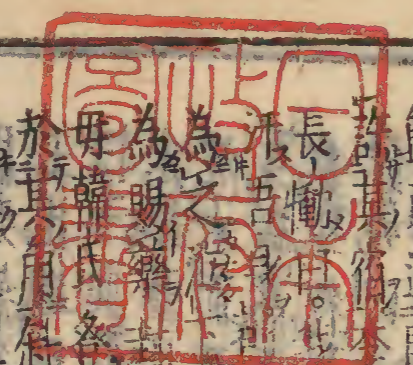
第	
函	
第	
架	冊九十
	九十字和



新刊校正魯補圓機活法詩學全書卷之十一

關之

烈女 節婦同



斷音 五代王凝妻李氏。疑家青齊之間為魏州司戶參軍。以

歸東過開封止旅舍旅舍主人見其婦人獨携一子而疑之不以

長輪舟引斧目斷其臂路人見者聚聚而嗚之或為彈指或

為賜藥封瘡厚血李氏而答其主人夫入城晉朱序鎮襄陽

母韓氏各城行謂西北角當先受難遂領百餘婢并城中女下

於其角斜築城二十餘丈賊攻西北角果潰表便守新城賊遂

引退人謂此娘子軍也周平陽公主嫁葉念初高祖與紹發家

城為夫人城娘子軍貴招亡命渡河由引精兵萬人與秦王會

渭北紹及公主對置幕古井水孟郊云妾心古井宿瘤採桑女

府分定京師號娘子軍古井水波瀾不絕故王正問故對曰妾受

傳初齊王出遊百姓盡觀宿瘤採桑如故王正問故對曰妾受

父母教採桑不受觀大主王命後車載之女曰父母在堂使妾

者至齊主 **別自示信** 房文微時病且死謂妻盧氏曰吾死後
 以為后 示信房云無他 終身 **冒刃救姑** 孔帖鄭義宗妻盧氏夜有盜
 去盧肩刃立姑側為賊捶搥幾死賊去人問何為不懼答曰人
 所以異鳥獸者以其有仁義也今隣里急難尚相赴况姑可委
 棄耶若百有二危我不得獨生姑曰 **守符而死** 列女傳楚昭王
 歲寒然後知松栢之凋今乃見婦之心烈 **守符而死** 夫人齊侯之女也昭
 王出遊留夫人於漸臺江水大至王遣使迎夫人忘持符夫人
 日王與官人約召必以符今使者不持符不敢行使者返取符
 未還臺已壞 **不虧婦節** 列女傳陳仲妻張叔明之妹名芳與
 沉水而死 **不虧婦節** 婢沒賊恐見辱相謂曰婦人以不活
 身為高不虧節為美也 **厄窮不悶** 衛宣夫人者齊侯之女也
 妾身待辱哉於是自縊 **厄窮不悶** 嫁於衛至城門而衛君死
 保母曰可以還矣女不聽遂入持三年之表畢弟立請曰衛君小
 國也不容二后請願同危終不聽衛君使人期諸於齊兄弟皆
 欲與君使人告女女終不聽乃作詩曰我心匪石不可轉也我
 心匪席不可卷也厄窮不悶勞辱不苟然後能自致也言不失
 也然後可 **燕而有化** 齊田稷子之母也田稷子相齊受下使之
 以濟難矣 **燕而有化** 貨金百鎰醋醃醃曰以遺其母母曰子為
 相三年矣祿未嘗多若此也豈脩七大夫之費哉安所得此對
 曰誠受之于下其母曰吾聞士脩身潔行不為苟得竭情盡實

不行詐偽非義之事不著於心非理之利不入於家言行若
 情貌相副今君設官以待子厚祿以奉子言行則可以報君夫
 為人臣而事其君猶為人子而事其父也盡力竭能信忠不欺
 務在効忠必死奉命廉潔公正故遂而無患今子反是遠忠矣
 夫為人臣不忠是為人子不孝也不義之財非吾有也不孝之
 子非吾子也子起田稷子慙而出友其金自歸罪於宣王請就
 誅焉宣王聞之大賢其母之義遂舍田稷子之罪復其相位而
 以公金賜母君子謂稷母廉而有化詩曰彼君子兮不索食片
 無功而食祿不為 **榮義而賤** 齊相晏子僕御之妻也號曰命婦
 也况於受金乎 **榮義而賤** 晏子將出命婦窺其夫為相御擁
 大蓋策駟馬意氣洋洋甚自得之既歸其妻曰宜矣子之驥也
 賤也夫曰何也妻曰晏子長不滿三尺身相齊國名顯諸侯今
 者吾從門間觀其志氣恂恂自下思念深矣今子身長八尺乃
 為之僕御耳然子之意洋洋若自足者妾是以去也其夫謝曰
 請自改何如妻曰是懷晏子之智而加以不足之長也夫躬仁
 義事明主其名必揚矣且吾聞寧榮於義而賤不虛驕以貴於
 是其夫乃深自責奈道遠常若不足晏子性而問其故見以
 實對於是晏子賢其能納善自改非謙景公以為大夫適其妻
 以為命婦君子謂命婦知善故賢人之所以成者其德博矣非
 特師傳朋友相與切磋也妣此亦吾多焉詩云高山仰止景行
 行止言當常 **叔姬能推類** 叔姬者羊舌子之妻也叔向叔魚之
 嚮為其善也 **叔姬能推類** 母也一姓楊氏叔向名時叔魚名鮒

備羊舌子好正不容於晉去而之三室之邑人相與讓羊而遺
乏羊舌子不受姬曰夫子居晉不容去之三室之邑又不容於
三室之邑是於夫子不容也。不如受之羊舌子受之曰為勝與
鮒辜之叔姬曰不可南方有鳥名曰乾吉食其子不擇肉子常
不遂今勝與鮒辜子也隨大夫而化者不可食以不義之肉不
若埋之以明不與於是乃盛以糞埋壚陰後二年獲羊之事
都吏至羊舌子曰吾受之不敢食也發而視之則其骨有焉都
吏曰君子哉羊舌子不與獲羊之事矣君子謂叔姬為能防害
遂疑詩曰無曰不顯莫予云觀此之謂也叔向欲娶於申公巫
臣氏夏姬之女美而有色叔姬不欲娶其族叔向曰吾母之族
貴而無庶吾微舅氏矣叔姬曰子靈之妻殺三夫一君一子而
亡一國兩卿矣爾不微此而反微吾族何也且吾聞之有奇福
者必有奇禍有甚美者必有甚惡今是鄭穆少妃姚子之子子
貉之妹也子貉早死無後而天鍾美於是將必於是大有敗也
昔有仍氏生女髮黑而甚美光可監人名曰玄妻樂正襄娶之
生百封實有永心怨疾母期食其無厭謂之封豕有窮后昇城
之變是用不祀且三代之亡及於天子之廢皆是物也汝何以
為哉夫有美物足以移人苟非德義則必有禍也叔向懼而不
敢取平公強使娶之生楊食我我侍者曰長妙產男叔姬往
視之及堂聞其號也而還曰豺狼之聲也狼子野心今將滅羊
舌氏者必是子也遂不肯見及長與祈勝為亂晉人殺食我羊
舌氏由是遂滅君子謂叔姬為能推類詩云如彼泉流無淪胥

以敗此之謂也叔姬之始生叔魚也而視之曰是虎目而豕喙
有而牛腹駘駘堅可盈是不可厭也必以賂死遂不見及叔魚
侯殺叔魚與雍子於朝韓宗子患之叔向曰三豕晉罪請殺其生
者而戮其死者遂族刑侯氏而尸叔魚與雍子於是叔道一
魚卒以貪死叔姬可謂智矣詩云貪人敗類此之謂也婦道一
而已黎莊夫人者衛侯之及黎莊公之夫人既往而不同欲沈
憐其失意又恐其已見遣而不以時去謂夫人曰夫婦之道在
義則合無義則去今不得意胡不夫乎乃作詩曰式微式微胡
不歸夫人曰婦人之道一而已矣彼雖不一吾何可以離於婦
道乎乃作詩曰微君之躬誰謂無衣微君之躬誰謂無衣微君之躬
侯君破不復圓古詩亦有匣中鏡一破不復圓妾有琴上絃一
命剖與良人瞋目無子側室生兒與夫似兒讀書妾碎鑑空房
良人看良人瞋目黃泉下甄氏歌節婦甄氏年二十配夫張氏
夜夜聞啼鳥兒能成名妾亦卒歿勸其改配者婦哭作歌曰泉
流不歸山雨落不天妾心死不眠金石無全堅白日經中街
飄忽沉西海妾心日不圓圓又圓又圓又圓又圓又圓又圓
如長夜曠曠光不改明月懸清輝三五二八圓又圓又圓又圓
如圓圓耿耿無時妾心一寸鐵不與紅爐煖妾心萬鈞石不

觸洪濤裂妾髮可剪髮頭可截髮心之白不可濯憶妾二十春
結髮事良人焉知三載事天禍綿綿素塵懷中五歲兒
水上浮漚輪白髮蕭蕭老親絲衣零落空悲辛吾聞陳孝婦
夫死養姑心愈固朱暈入奏丹書來黃金北斗高門戶又
聞祀梁妻一哭梁山傾精神變天地黃土非無情君不見章臺
女傾城華去年嫁東鄰今年歸西家顏色皎皎如桃花桃花食
結子紅顏不惜汚泥沙回首天漢上
雙鳳縹緲凌紫霞逢來仰面空容嗟

品題

尚然期晚節青年誰肯棄春光魂歸天上此尋常烈女行白首
草木香我輩豈容輕西海只因千古繫綱常

維一峯節婦詩。金鳳釵飛舞隻鴛石鐫山海誓心酸絲牽愁
緒春風惡竹染斑欄夜雨殘匏斷一聲輕世利土高三尺近峯
巒華因脩短由天命木老西山想
豆寒。此金石絲竹入音體格也

大旨

守節 採桑 築城 別自 衛姑
握符 截髮 築城 別自 衛姑

起句

郎恨葉薄妾水清 鏡破高分失所依
郎說黃金妾不應 潔身寧自守空帷
皓齒終不發 白髮冰霜共
芳心空自持 卅心鐵石如
沉湘何必獨靈妃

聯句

百年烈行神明監 柏舟耿耿臨東逝
一片貞心天地知 萱草萋萋映北堂
寒織猶殘斷後機 英魂不逐烟雲去
風清荒徑菊初老 勁節能令天地知
露冷空山蘭自香 心對鏡天照白晝
夜雨青燈孤枕淚 悲風夜落崩城淚
春風寒食九泉心 寒白秋明化石心
化石早曾聞節婦 鏡中畏見青鴛舞
沉湘何必獨靈妃 琴裡愁聞黃鸝音
不向山頂石 若使偶然通一笑
空有望夫名 半生誰信守孤燈
王節未沾褒表澤 千載綱常一扶起
月明孤魄恨無依 陽秋有筆聖朝旌
少年忍死供姑日 深夜孤燈課子時

結局

不向山頂石 若使偶然通一笑
空有望夫名 半生誰信守孤燈
王節未沾褒表澤 千載綱常一扶起
月明孤魄恨無依 陽秋有筆聖朝旌
少年忍死供姑日 深夜孤燈課子時

才女

事實

女博士 魏文帝甄后九歲喜書每用諸兄筆硯兄曰當作女
博士耶后曰古者賢女未有不覽前世成敗安知之

八歲屬文 團徐孝德女名惠生五月而能言四歲通論語毛詩
八歲能屬文父嘗擬離騷為小山篇云其畧曰何幽

園梅... 麗人門...

岩以流眈... 仰之太宗... 夜寐絕... 後漢蔡琰... 瑛日季札... 知南風不... 得周官義... 書生百餘... 理將屈嫂... 乃露青綾... 道諶聰明... 二家或問... 王映自是... 閨房之秀...

皆情思... 傳經更可... 記室... 置幕... 椒花頌... 林下風... 柳絮才... 閨中秀...

深明閨闈... 磨穿鉄硯... 洞藏古今... 情... 續折金針... 有云...

賢女

公姑皆賀... 盧徹為吉... 州刺史... 下女有... 之德... 無悞... 求之...

其福姆儀... 崔寔之母... 劉氏之女... 也有姆儀... 淑德... 殺雞... 諷...

客... 通鑑漢武... 帝始微行... 嘗夜至... 柏谷... 提... 旅... 主人... 求... 愛... 去... 人... 翁... 貌... 而... 異... 之... 止... 其... 翁... 曰... 客... 非... 常... 人... 也... 且... 有... 備... 不... 可... 圖... 也... 翁... 不... 聽... 姬... 飲... 翁... 以... 酒... 醉... 而... 縛... 之... 少... 年... 皆... 散... 走... 姬... 乃... 獲... 雞... 為... 食... 以... 謝... 客...

品題... 賢叔... 繼... 祭... 贖... 父... 身... 至... 今... 人... 羨... 女... 中... 仁... 斷... 後... 截... 奉... 成... 貞... 婦... 書... 勉... 為... 善... 作... 美... 娘... 父... 制... 所... 從... 生... 德... 理... 母... 言... 尊... 教... 牛... 養... 倫... 荆... 釵... 如... 面... 同... 夫... 隱... 萬... 古... 芳... 名... 未... 不... 泯...

大意... 婉婉... 挽車... 孟光... 之... 德... 和... 樂... 去... 御... 道... 諶... 之... 才... 憂... 家... 何... 似... 先... 憂... 國... 憂... 禍... 自... 能... 辭... 肉... 味... 得... 知... 悅... 悻... 為... 那... 媛... 愛... 子... 爭... 如... 不... 愛... 自... 愛... 琴... 應... 脆... 難... 終... 豈... 止... 偏... 柔... 詠... 雪... 詩...

美入

美入

美入

美入

美入

美入

美入

美入

美入

美入

美入

美入

賞國色

戰國策驪姬者國色也注其色一國之選

傾城 爾漢李延年歌曰北方有佳人絕世而獨立

再傾國佳人國宇知傾城

太喬小喬

喬公二女皆國色孫策納太

女雖流目送

左傳宋孔父嘉之妻美宋華父督心曠神怡

左傳叔向欲娶申公巫臣其母曰吾聞甚美必

有甚惡夫有尤物足以移人苟非德義則必有禍

秀色若可餐降仙者可以療飢矣

香遠山眉

飛燕外傳飛燕妹合德為卷髮號新興善為薄眉

不加黛如畫遠山時人效之號遠山眉

花見羞

五代梁何劉劉侍兒

凝脂

國風碩人章手如柔荑膚如凝脂

白分明也俱言婦人容如脂我收詩錦江水清滑生女白如

解語花

玄宗與楊妃共賞大液池千葉蓮

皓齒宜笑

相如拋擲

嫩管唇皓齒燦爛宜笑的

翠眉雪肌

宋玉賦眉如翠羽肌如

然一笑或感陽

蕙心蘭質

鮑照賦東都好姬南國

盤谷序曲肩豐頰清聲而便休秀外而慧中

不施粧粉

團圓

夫人不施粧粉自有美艷常素面朝天

陳天詩云號國夫人

朱唇皓齒

笑娥犀鬢只容則秀雅樺朱顏只霧鬢

太女霧鬢

高唐神女

宋玉神女賦楚襄王與宋玉遊於雲

髮形容悽悽

西施毛嬌

西施毛嬌人之所美

其狀甚麗

淚成紅冰

揚州初入官與

服虔通俗文南楚以美色為姪

楚姪宋豔

宋豔

成紅眼色媚人

念奴有色善歌官妓中第

秀色

如瓊花

西門秦氏女

秀色如瓊花

李行

品題

泰山眉黛翠微連皓齒朱唇麗色鮮

卷山眉黛翠微連皓齒朱唇麗色鮮

紅粉花帶露

金鳳舞何殊
風拂一枝蓮

大意

蕙性 舞衣

雲髻

蟬髮

傾城

窈窕

一笑

檀口

因色

起句

十才春瘦燕猶輕
霧縠纖羅恐不勝

香薰羅幙瓦成烟
月照華堂燭滿庭

滿額鵝黃金縷衣
翠翹浮動玉釵垂

雲想衣裳花想容
春風拂檻露華濃

自緣多藝用心勞
心路玲瓏格調高

裙拖六幅瀟湘水
髮掃巫山一朶雲

紅粉青娥映楚雲
桃花馬上海榴裙

春風未卷閉娉婷
長使香樓誤得名

相見時難別亦難
東風無力百花殘

酒冷燈昏夢不成
海棠香散亂紅屏

郎情猶在窈窕娘
我年鏡秀在蘭房

雙眸濕秋水
十指露春葱

聯句

如花語更真
曉檻眉猶柳

拂面月生情
理髮雲滿梳

臉比桃猶嫩
肌嫩玉抹香

王肌莹水雪
檀口滴胭脂

春衫臉抹香
錢月成歌扇

翠眉黛度曲
雲鬢飛分行

舞髮金翡翠
歌頭玉螭蟠

柳眉橫遠岫
星眼動秋波

裁雲作舞衣
池月憐歌扇

翡翠釵染碧
碧翠釵染碧

舞髮金翡翠
歌頭玉螭蟠

動衣香滿路
移步襪生塵

山雲愛舞衣
石榴裙裙紅

紅臉曜明珠
紅臉曜明珠

舞髮金翡翠
歌頭玉螭蟠

移步襪生塵
移步襪生塵

水下看游影
眉頭迴月雲

時樣畫眉分八字
新粧掠髮雙雙蟬

霧髮雲髮堆玉頂
水銷霞袂綵金裙

金釵橫處綠雲墮
玉筋凝時紅粉和

玉雪自知塵不染
丹青進寫酒微醺

歌繞夜深珠穿轉
舞嬌春席雪朦朧

皓齒乍分寒玉細
黛眉輕蹙遠山微

已聞佩響知腰細
更辨絃聲覺指纖

盤盤鸞髮堆雲影
淡淡蛾眉掃月痕

若非群玉山頭見
會向瑤臺月下逢

清歌媚臉加桃葉
妙舞輕盈似柳枝

整頓舞衣呈玉腕
動搖歌扇露金鈿

寶髻巧梳金翡翠
羅裙宜着繡鴛鴦

畫圖曾識春風面
環珞空歸夜月寬

一朶鬆雲髮畔垂
胸前瑞雪燈斜照

無言惟識含情意
有句全資背面時

貌態已應天上
歌聲豈冷世間聞

翠娥含粉婢娟
殺盡世間人不知

結句

醉嬌無氣力
風裏牡丹花

從教水滸羅裙濕
疑是巫山行雨歸

胸前空帶宜男草
襟得翳即暖遠遊

他日相思夢
莫教雲雨晦玉臺

揚州寒食春風裏
看遍花枝盡不如

胸前空帶宜男草
襟得翳即暖遠遊

麗情

事實

竊香 韓壽美姿容 賈充辟為掾 充每與會 充女於青瑣中窺 聞之心動 遂潛往 自是充覓女 甚有異於常 後會諸吏 謂壽有 異香之氣 是外國折貢香 香着人 經月不散 充言武帝准賜已

麗情 麗情 麗情

麗情

疑壽與父通乃考問左右琴心挑之

得其實遂以女妻壽琴心挑之前漢司馬相如表與臆叩

間必有貴客為其召之并召令酒酣令前奏琴曰竊聞長卿好

之頭以自娛為鼓一存行時卓王孫有女文君新寡好音相如

謬與公相重而琴心挑之既罷文君夜奔相如與馳歸成都云云

折其兩齒時人語曰狂達不已幼與折御溝桐葉控說顧况嘗

齒鯁聞之傲然長嘯曰猶不廢我嘯歌御溝桐葉於御溝水上

得桐葉有詩云一入深宮裡年年不見春聊題一片葉寄與桐

有情人况復題葉於流泛之後十餘日况得詩甚奇

葉題詩因事詩蜀侯繼圖倚大慈寺樓觀大桐葉上有詩桐

風起天下有心人盡解相思死天下負心人不識相思意

有心與負心不知落何地後數年繼圖上在氏為婚禮

扇歌國中書令王珉與嫂婢情好甚篤嫂鞭撻過苦婢素苦歌

甘障面憔悴無復班羞與郎相見

品題水月精神冰雪履連城羨壁夜光珠玉頰偏是書中有國色

天排定價重應言世上無題葉韓妃思仇儂竊香買女想歡娛佳期本是

逐鹿晉綠珠

大意

起句

聯句

結句

敘事

之藍縷

謂之貧方言曰南楚人貧衣被醜敝謂之須捷或謂之樓裂或謂

之藍縷分餘光列女傳齊女徐吾者與隣婦合燭夜績吾貧而燭不

解佩 破鏡 馬上 玄霜 錦字 絲鳥

春風未卷閉鴉窺 長使青樓誤得名 花邊馬鬣金銜去

樓上人垂玉笋看 怨入清塵愁錦瑟 酒傾玄露醉羅觴

賈氏窺簾幕綠少 空妃留枕魏工才 章臺柳暗春風老

却愛徐妃半面粧 遺情更說何珍重 曉曉蕭娘一紙書

貧女 相見時難別亦難 東風無力百花殘 紅粉尚留香發覆

碧雲初斷信沉沉 封題錦字疑新思 拋柳金梭織舊愁

春蚕到死絲方盡 蠟燭成灰淚始乾 身無彩鳳雙飛翼 心有靈犀一點通

風流才子多才思 腸斷蕭娘一紙書

風流才子多才思 腸斷蕭娘一紙書

風流才子多才思 腸斷蕭娘一紙書

分餘光 列女傳 齊女 徐吾 者 與隣婦 合燭 夜績 吾貧 而燭不

之藍縷 屬隣婦 讀無與 夜徐吾 曰妾以貧故 起常先 去常後

掃陳穉以符來者坐常處下為貧故也今一室之中益一人獨

不為益明去一人獨不為益聞何愛東壁餘光幸分之遂復與
績學畫眉春枝東隣女伴多金翠笑剪燈花學画眉

品題 蓬門未識綺羅香擬托良媒亦自傷誰愛風流高格調其冷
時世儉梳粧砧月下三秋冷机織燈前五夜涼毋恨年年
揜金線為他
人作嫁衣裳

難堪存夜留殘照月蕭聲夢斷久虛寫中饋不黏煩并白散桐
那解穉傲蘭豈因蓬牖傷
憔悴金屋長門取次看

大意 困窮 無面 木樹 守靜 布裙 待良
荆釵 守節 閉門
貧女荆簪髻
無貧妻伯鸞
自分荆釵與布裳
半生机杼夜眠忘
照面盆為鏡
梳頭水作油
瓦瓶泉自汲
茅屋窻常寒

起句 殘粧 滿面 淚闌干 幾許 幽情 欲話 難
裙布荆釵尚未全
取思珠翠作春妍
十指誇纖細
雙眉闌畫長
蟬鬢懶梳愁折鳳
蛾眉羞照孔鸞查

聯句 平生不識綉衣裳 閑把金針亦自傷
畫理系麻夜織機 目苦辛苦効勞勤
困窮其德耀 種德待梁鴻

結句 鏡裡只應誰素貌 小間多是重紅粧
蓬垢不綠終日懶 桑時因是舊時忙
碎繡夜夜餘明日 羞殺鄰姬燈下眠

覽鏡自傷 傾國艷 閉門愁對落花枝
自分蓬蒿其淡泊 不將朱粉汚堅貞
荆釵不假撩蓬髮 敦學隣姬巧画眉

敘事 禮記月令 季春之月后妃齋戒躬桑以勤蚕事 蚕事既登分

繭稱絲効功以共郊廟之服

事實 浴種 周礼夏官馬質掌質馬禁原蚕原再也天文辰為馬春
西大禁再蚕拜簇王建蚕欲老箔頭作繭絲皓皓場寬地高風
者為傷馬欵拜簇日多不同中庭點蒿草神蚕急作莫悠揚年
老為不祭神桑但得青夫不下雨上無蒼蠅下無鼠新婦拜簇
願繭稠女灑糝漿男打鼓二日開箔雪團圍先將新絲送縣官
已聞鄉里催織作
去與誰人身上着羅敷女古詩羅敷善採桑採桑城南知女工

唐玄宗命宮中養蚕綠白雪 荆公詩綠成 執筐微行詩 七月荷
使嬪御知女工之事

使嬪御知女工之事 綠白雪 荆公詩 綠成 執筐微 行詩 七月荷

圓梅... 卷八

執懿筐... 微行... 求采桑

品題

胡老暖... 我來... 送擬貢王公

起句

浴種... 蓮蔭... 桂籠... 分爾... 婦織... 桑壇... 南館

東隣少婦忙... 長釵障地食採桑... 兩多蕭蕭... 倉庚催起... 養蚕娘

聯句

玉簪... 呈纖... 金力帶... 餌香... 鶯啼... 幼婦懶... 蚕出... 小姑忙... 採桑... 不厭... 終朝苦... 分... 瀾... 寧... 憂... 卒... 歲... 寒... 款... 把... 金力... 裁... 嫩... 葉... 緩... 將... 玉簪... 折... 菜... 條... 終... 身... 守... 蚕... 箔... 不... 覺... 髮... 如... 絲... 滿... 身... 羅... 綺... 者... 不... 是... 養... 蚕... 人... 半... 睡... 覺... 來... 無... 一... 事... 滿... 窓... 晴... 日... 看... 蚕... 生... 好... 是... 日... 遲... 風... 正... 暖... 微... 行... 重... 賦... 采... 桑... 詩

移... 蓮... 薄... 小... 徑... 採... 葉... 豐... 深... 筐... 香... 樹... 清... 涼... 羅... 裳... 採... 桑... 從... 有... 終... 朝... 苦... 採... 桑... 應... 無... 一... 月... 勞... 雲... 髻... 鬢... 鬆... 寧... 弗... 整... 玉... 頰... 清... 淡... 未... 為... 粧

結句

村舍煮煙... 綠... 蠶... 處... 好... 是... 日... 遲... 風... 正... 暖... 微... 行... 重... 賦... 采... 桑... 詩

織婦

事實

列女傳... 孟軻... 既學而歸... 問學所至... 軻自若也... 母以刀斷... 其織日... 子之廢學... 若吾斷織... 軻懼勤... 孳不息... 遂成... 不食... 投杼... 織自若也... 三告其母... 投杼... 下機... 而走矣... 拋梭... 祿... 來... 公... 燕... 有能歌者... 贈... 一束... 花... 綾... 意尚... 未足... 公有罷妾名... 舊... 桃... 乃作... 詩... 以呈... 詩云... 一曲... 清歌... 一束... 綾... 美人... 猶... 自... 意... 嫌... 輕... 不... 知... 織... 女... 寒... 寒... 下... 幾... 度... 拋... 梭... 織... 得... 成... 又云... 風... 動... 衣... 單... 手... 屢... 呵... 幽... 窓... 軻... 軻... 動... 寒... 梭... 臘... 天... 日... 短... 不... 盈... 尺... 何... 似... 妖... 姬... 一... 曲... 歌... 公和之云... 將... 相... 功... 名... 終... 若... 何... 不... 堪... 光... 景... 似... 奔... 梭... 八... 間... 萬... 事... 勿... 須... 弄... 弄... 女... 軻... 軻... 弄... 機... 杼... 晚... 猶... 織... 卷... 系... 吳... 都... 賦... 泉... 客... 鳴... 機... 雞... 鳴... 機... 應... 秋... 節... 杜... 詩... 寒... 機... 卷... 系... 潛... 織... 而... 卷... 絲... 鳴... 機... 季... 白... 詩... 魯... 女... 聞... 亦... 晚... 猶... 織... 絲... 絲... 愁... 緒... 雜... 春... 機... 呀... 軻... 聲... 中... 日... 又... 西... 冷... 落... 霜... 朝... 猶... 弄... 杼... 寒... 涼... 月... 夜... 更... 披... 衣... 頗... 將... 玉... 指... 織... 織... 露... 輕... 擲... 金... 梭... 款... 款... 飛... 織... 到... 花... 枝... 連... 理... 處... 玉... 駮... 門... 外... 一... 嬌... 嘶

杜詩... 寒機... 卷系... 吳都賦... 泉客... 鳴機... 季白詩... 魯女聞亦... 晚猶織... 絲絲愁緒... 雜春機... 呀軻聲... 中日又西... 冷落霜朝... 猶弄杼... 寒涼... 月夜更披衣... 頗將玉指... 織織露... 輕擲金梭... 款款飛織... 到花枝... 連理處... 玉駮... 門外一嬌嘶

杜詩... 寒機... 卷系... 吳都賦... 泉客... 鳴機... 季白詩... 魯女聞亦... 晚猶織... 絲絲愁緒... 雜春機... 呀軻聲... 中日又西... 冷落霜朝... 猶弄杼... 寒涼... 月夜更披衣... 頗將玉指... 織織露... 輕擲金梭... 款款飛織... 到花枝... 連理處... 玉駮... 門外一嬌嘶

杜詩... 寒機... 卷系... 吳都賦... 泉客... 鳴機... 季白詩... 魯女聞亦... 晚猶織... 絲絲愁緒... 雜春機... 呀軻聲... 中日又西... 冷落霜朝... 猶弄杼... 寒涼... 月夜更披衣... 頗將玉指... 織織露... 輕擲金梭... 款款飛織... 到花枝... 連理處... 玉駮... 門外一嬌嘶

杜詩... 寒機... 卷系... 吳都賦... 泉客... 鳴機... 季白詩... 魯女聞亦... 晚猶織... 絲絲愁緒... 雜春機... 呀軻聲... 中日又西... 冷落霜朝... 猶弄杼... 寒涼... 月夜更披衣... 頗將玉指... 織織露... 輕擲金梭... 款款飛織... 到花枝... 連理處... 玉駮... 門外一嬌嘶

杜詩... 寒機... 卷系... 吳都賦... 泉客... 鳴機... 季白詩... 魯女聞亦... 晚猶織... 絲絲愁緒... 雜春機... 呀軻聲... 中日又西... 冷落霜朝... 猶弄杼... 寒涼... 月夜更披衣... 頗將玉指... 織織露... 輕擲金梭... 款款飛織... 到花枝... 連理處... 玉駮... 門外一嬌嘶

杜詩... 寒機... 卷系... 吳都賦... 泉客... 鳴機... 季白詩... 魯女聞亦... 晚猶織... 絲絲愁緒... 雜春機... 呀軻聲... 中日又西... 冷落霜朝... 猶弄杼... 寒涼... 月夜更披衣... 頗將玉指... 織織露... 輕擲金梭... 款款飛織... 到花枝... 連理處... 玉駮... 門外一嬌嘶

大意

寒機... 金梭... 弄杼... 呵指... 理絲... 織織... 玉軸... 拋梭... 飛梭... 織素...

卷八... 月一

起句

曉織誰家女，玉手金梭一擲過。錦字添愁織不成，飛梭不暫停。流年不覺去如梭，工夫猶欠手中生。

雲鬢不理手不停，從織催人急整機。理絲何日得成衣。

聯句

軋軋金梭擲，霜朝猶弄杼。玉露織纖指，不堪呵玉指。纖纖玉手翻，月夕不停梭。霜飛細細絲，頻從度金梭。

結句

只恐輕梭難作疋，因疑參母猶投杼。勞將玉笋穿絲緒，豈辭纖手遍生肌。為學軋親尚斷機，且把金梭織錦紋。到曉機聲猶軋軋，洛陽三月春如錦。其為貧賤辛勤婦，夢中猶想是莎蘿。多少功夫織得成，日理殘絲上錦機。

妓女

叙事 管妓古者以待軍士之無妻者

事實

紫雲 本事 杜牧為御史分司洛陽時李聰罷鎮閑居管妓豪華為當時第一嘗宴客妓百餘人皆殊色牧瞪目注視問李有紫雲者孰是宜以見意李俯而笑諸妓皆回首破顏自飲三爵朗吟而起曰華堂今日綺筵開誰喚分司御史來忽發狂言驚滯座兩行紅粉一時回意氣閑逸旁若無人後有詩云落魄江湖載酒行楚腰纖細掌中輕十年一覺揚州夢贏得青樓薄紅兒詩 鹿州李孝恭籍中有紅兒善歌聲羅虬章臺柳伴名 挑之不答遂作絕句百篇號此紅兒詩

異聞錄 韓幼少負才名有娼柳氏名色也窺韓雖貧往來皆時賢遂就之來歲名成當青節度使使希逸奏為從事三歲不果逐寄詩曰章臺柳昔日青青今在否縱使長條似舊垂也應攀折他手柳谷曰楊柳枝芳菲節可恨年年贈離別葉隨風忽報秋絕使君來豈堪折後為番將沙吒利所劫能之專房初隨希逸入觀見柳氏在輜轎中始不勝情虞候許俊曰當為足下力致之乃衣縵胡佩雙鞬夜一騎造沙吒利第伺其出排闥大呼曰將軍中使召夫人僕侍辟易遂升堂挾柳氏馳馬而至時沙吒利思寵殊甚矧懼禍訴於希逸 杜常娘 劉禹錫罷蘇州過逸希逸以事聞諸朝廷詔柳氏歸 杜常娘 揚州帥杜鴻漸飲大醉宿傳舍既醒見二妓在側驚問之乃曰郎中席上與司空詩因遺某來問何詩曰高髻雲鬟宮樣粧春風一曲杜常娘司空見慣渾閑事惱翠翹 名妓也奇詩與進士左公曰一點芳亂蘇州刺史腸 翠翹 尚未灰那知浪性效王魁楊花有力隨風舞蔡藿留心向日開萬斛愁懷疑畫錦兩行珠 張達淚溫香腮幾回謾把簾高捲不見尋巢舊燕來 燕子樓 封節制武寧軍納舞妓昭昭於 國色無雙 天寶遺事都下名妓楚蓮香燕于樓 不薨不亡適 國色無雙每出則蜂蝶相隨慕其 綠葉成陰 名妓殊不愜意牧曰頭張水嬉使人畢觀牧當香也 間行寓目使君如其言觀者如堵忽有老姥引髮髻年十餘歲與國色也將至舟中姥女皆懼牧曰且不即納當為後期吾

國色無雙 卷八 月十一卷

國色無雙 天寶遺事都下名妓楚蓮香燕于樓 不薨不亡適 國色無雙每出則蜂蝶相隨慕其 綠葉成陰 名妓殊不愜意牧曰頭張水嬉使人畢觀牧當香也 間行寓目使君如其言觀者如堵忽有老姥引髮髻年十餘歲與國色也將至舟中姥女皆懼牧曰且不即納當為後期吾

十年後為此郡若不來即從他適因以重幣結之後十四年此

至郡所約之妹已後入三年生三子矣使召之毋日向約十年
不來而後嫁之已三年牧後首曰其辭直強之不祥矣乃遣之
為恨別詩曰自是尋春去較遲不須惆悵怨芳時狂風落盡深
紅色綠葉成
鱸魚之句又注曰
戀鏡湖春色
青樓怨
古今詩話元稹無訪浙東喜官妓劉
探春嘗題詩有因循歸未得不是戀
濮陽傳詩朱唇結遍當途客的歡
多苦更多何如羞遊蓬鬆相華戶荆

品題

二十八佳人巧樣粧洞房夜夜換新郎一雙玉手千人枕半點
朱唇萬客嘗做畫成般嬌體態粧成一片假心腸送舊
知多少故作
相思淚兩行

大意

朝雲飛絮當爐翠蛾清歌鼻息
暮雨落花送酒丹臉妙舞輕盈
小桃破夢未勝春春風未巷閉娉婷
羅綺叢中第人長使青樓誤得名
楊柳葉酒落千年調浴上春似海
楊柳小蠻腰

起句

銀燈帶笑吹
蕭娘臉下難勝淚
已煩仙袂來行雨
莫遣歌聲便駐雲
紅酣春色飛花臉
翠鎖朝烟柳葉眉
但應報道金釵落
彷彿嬋娟露精火
喚起一聲腸斷處
落花枝上鷓鴣啼
黃鸝久住漸相識
欲別頻啼四五聲
願得化為紅綬帶
許教雙鳳一時飛

結句

言語巧偷鸚鵡舌
文章分得鳳凰毛
纖腰怕束金蟬斷
鬢髮宜簪玉燕高
歡生錦帳春如海
夢入陽臺夜似年
步襪輕盈蓮出水
丰神清素玉為肌
揚州近日渾成美
一朵能行白牡丹
生憎平望池亭水
忍照鴛鴦兩上飛
三生杜牧真緣薄
不見秋娘未嫁時
說與傍人須早計
隨宜梳洗莫傾城
若得時將紅袖拂
也應勝似碧紗籠
愁倚翠蛾分八字
笑回丹臉剩雙
翠袖長垂玉筍
羅裙輕襯金蓮
管絃樓上呈高妓
羅綺叢中動少年
歸來不用封侯印
只問君王百愛卿
洛陽才子知多少
管領春風及不知
回首當年青鎖夢
日憐不及卷中人
裙拖六幅瀟湘水
髮掃巫山一尺雲

事實

莫愁歌
古今樂錄石城有女子名莫愁善歌
直千金
正明皇
對奏歌絲竹之聲莫愁過帶
皓齒歌
李賀詩皓齒如神
當謂左右曰此妾歌直千金
皓齒歌
歌細腰舞如如神

莫愁歌
石城有女子名莫愁善歌
直千金
正明皇

妙入穿雲鬢杜牧張好上歌最集不能忘情白樂天有樊素善歌既老將放之素

神然不能忘去遂動梁塵公發聲動梁塵博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

作不能忘情歌動梁塵公發聲動梁塵博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

聲振林木餘響繞梁去而餘響繞梁三日不絕左右以其不

過也旅人辱之韓娥因漫聲哀哭一里老幼悲愁涕泣三日不

食娥復漫聲長歌一里老幼歡作舞唯唯不能自禁厚賂而遣

之故雍門之人至今善聲傳九陌樂府雜錄開元中內人詩子

歌哭夜娥之遺聲也和永新縣樂伶女也入宮因

名永新縣變新聲高秋明月喉轉一聲響傳九陌十日木蘭於

勤政樓方衆誦誦莫得聞魚龍百戲之音永新乃擦髮李秋在

奏漫聲廣揚衣濮陽傳妓語詩恩愛難深罪易求即情似鳥

歲無入聲翼風林全憑味語珪衾枕一段逢人是怕心

新聲忽變秋檀枝輕管鸞舌巧絳唇嬌轉鳳聲柔錦娥妙曲

蓋輕只許五侯清唱妙曲嬌聲察曉檀枝繞梁清楚

陽春絕詞妙曲嬌聲察曉檀枝繞梁清楚

白雲清唱妙曲嬌聲察曉檀枝繞梁清楚

微破朱唇清唱妙曲嬌聲察曉檀枝繞梁清楚

起句花月樓臺近九衢唱得新翻聽貼腔一聲屢玉穿簾幕

清歌一曲倒金盞阿誰能得背雙上一聲屢玉穿簾幕

玉人頰整石榴裙細敲檀枝轉鸞舌一聲屢玉穿簾幕

和氣輕融座清聲亞絲竹檀枝輕敲一聲屢玉穿簾幕

香塵暗繞梁雅調合官商櫻唇嬌轉一聲屢玉穿簾幕

清際如敲玉雅韻輕清調白雲一聲屢玉穿簾幕

未終一曲王連鎖輕上舞汗微沾袖一聲屢玉穿簾幕

滿勸十分金屈卮細上歌聲欲繞梁一聲屢玉穿簾幕

羅綺筵中時間入東風度入窗東去一聲屢玉穿簾幕

舞妓

結句

聯句

起句

事實

品題

白樂天有樊素善歌既老將放之素

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

博物志昔韓娥東之齊糧匱鬻歌假食既

陽臺旁。願拂
餘音到綺筵

大意

起句

娟容 纖手 蓮步 犀雲 宛轉 嫩柳 越拍
弱志 細腰 柳腰 飛仙 踟躕 輕盈 窺人
深粉濃朱眉 眉 當年曾弄 柘枝詞 落鳧 江湖載酒行
羅衫玉帶 帶 腰圍 人道 腰肢似 柳枝 楚腰纖細 掌中輕
一握精神 寒 百嬌 玉為 肢 舞 柳 為 腰

終句

力扶花 猶 轉 趁 階 身 窈窕 歌 扇 翻 秋 月
腰纖 柳 正 柔 應 節 影 婆 娑 春 衫 拂 曉 風
低回 鸞 觀 影 繁 絃 奏 翠 木 歌 扇 翻 秋 月
死轉 絮 因 風 長 袖 轉 回 舞 扇 翻 秋 月
梅花 體 志 香 微 雪 紫 羅 衫 卷 尊 身 處
楊柳 腰 肢 瘦 怯 風 紅 錦 花 柔 踏 節 時
低 帽 起 鼓 鈴 速 轉 三 敲 畫 鼓 催 急
垂 身 招 拍 腕 頻 轉 下 朵 紅 蓮 出 水 遲

結句

今日春風亭上春
柳枝全不似腰肢
醉迷 八公子王孫輩
鎮日 淹漚 玳瑁 進
蓮步 急 越 初 催 交
笑 覺 傍 人 拾 墜 光
技 傲 京 州 蓮 步 緊
好 花 風 裡 一 枝 蓮

閨感

事實

參家春閨詩 閨中少婦不 曾 愁 終 日 疑 粧 上 愁 多 夢 洗
翠樓 忽 見 陌 頭 楊 柳 色 悔 教 夫 婿 覓 封 侯
兵馬行 日城南 閨愁萬斛 招山 閨 怨 詩 陽 臺 雨 歇 行 雲 吞 天 闥

紅鉛

周美成 閨怨詞 愁 橫 挑 燈 淚 班 班 李 白 閨 情 詩 流 水 去 不 歸
淺黛 淚 洗 紅 鉛 云 云 因 浮 雲 罷 故 闕 木 或 綠
前浦 雲 猶 歸 舊 山 恨 君 流 沙 去 棄 妾 魚 陽 間 玉 第 夜 垂 天 雙 雙

鏡

不 識 况 不 忍 看 寫 真 荆 公 死 生 難 有 知 回 身 不 忍 重 看 舊
乃 征 夫 還 焉 真 暮 去 朝 來 顏 色 改 四 寺 天 氣 總
恨 更 長 願 可 山 詩 雪 晴 梅 破 鏡 幽 香 驚 作 春 聲 入

品題

王 泉 詩 燕 子 南 來 鴈 北 飛 遠 人 何 事 竟 忘 歸 一 腔 心 病 難
形 口 萬 種 愁 情 盡 展 眉 試 掠 金 釵 臨 曉 鏡 落 垂 玉 筋 清 春 衣

恨

願 可 山 詩 雪 晴 梅 破 鏡 幽 香 驚 作 春 聲 入
乃 征 夫 還 焉 真 暮 去 朝 來 顏 色 改 四 寺 天 氣 總
恨 更 長 願 可 山 詩 雪 晴 梅 破 鏡 幽 香 驚 作 春 聲 入

品題

王 泉 詩 燕 子 南 來 鴈 北 飛 遠 人 何 事 竟 忘 歸 一 腔 心 病 難
形 口 萬 種 愁 情 盡 展 眉 試 掠 金 釵 臨 曉 鏡 落 垂 玉 筋 清 春 衣

只有西窓夜月知

虎聲攪妾來暗問長江水不流時淚始乾

不意

起句

寒食月明雨 幾度春眠覺 閉山征戍遠 露淡月華白
 落花香滿泥 紗窓曉望遲 闌閣別離難 悠悠萬寸心
 西風吹夢楚江秋 紅粧浦面決闌干 幾許幽情欲話難 百年心事付東流
 鴈正來時妾正愁 燕知春社亦歸梁 郎去天涯歲月忘 不成佳夢只孤眠
 翠城紅錦豈為貧 獨自支頤倦綉絨 簾捲東風燕子來 支願幾度綉鴛鴦
 綠窓無伴最愁人 寸心天外未曾回 獨期暗數抽新蕊 愁入天涯恨轉深
 東風吹恨滿春山 更怯薰風一味涼 歸期暗數抽新蕊 柳帶誰能結
 晝長幾度熱中腸 鴉鳴秋殿曉 人靜禁門深 曉日臨窓久 難銷守宮血
 春風入夢長 芳草牽愁遠 丁香結恨深 易斷舞雩腸
 秋風生昼扇 翠黛愁低斂 重簾遮密雨 風暖鳥聲碎
 明月滿綉衣 紅珠淚墮銷 孤夢隔秋宮 口高花影重

聯句

鴉鳴秋殿曉 人靜禁門深
 曉日臨窓久 春風入夢長
 秋風生昼扇 明月滿綉衣

險過楚雨臨風落

頭上秦雲向日消

睡融春日採金縷

狂發秋霞顛翠靚

月照石泉金點冷

鳳醜簫管玉聲微

玉枕夜殘魚信斷

金闈秋盡鴈書遙

蕭疎不礙黃昏月

酒薄難禁冷淡秋

展轉綉衾慵袖卧

深沈朱戶懶重開

玳瑁玉珮三更雨

平帖金閨一覺雲

忍看楊柳愁眉展

看殺櫻桃笑口開

游絲悶見隨飛絮

浪蝶愁看逐落花

綉被留歡香未滅

怨殘夜月人何處 簾捲東風燕後來 閑聽鶯語移時立 思逐楊花觸處飛
 舞臺鏡匣收殘黛 睡鴨香爐換夕薰 春瘦已寬連理帶 夜長惟有碎寒犀
 綉被謾閑天馬錦 赤庭空吊海犀燈 乍雨乍晴花易老 閑愁閑悶日偏長
 臨風有客吟秋扇 拜月無人見晚粧 玉鴈喚回千里夢 銅龍滴碎五更心
 節物有閑空過眼 春愁無限只攔胸 銀牀夜冷應憐妾 玉壘霜寒每念夫
 殘夢裡 苦戰應惟悴 寒衣不要寬 飛過大江西

結句

無鴈寄征西 獨自在遼西 寒衣不要寬 飛過大江西

坐聽南宮樂 無情玉蝴蝶 可憐閨裏月 徘徊花上月
清風舞翠裙 春盡一雙飛 長在漢家宮 空度可憐宵
羨他蝴蝶 一雙飛 可憐無定河邊骨 天街夜色涼如水
惆悵深閨獨寢處 寂寞繡屏人未見 却看牽牛織女星
曉鶯啼斷 綠楊枝 杏花疎雨在黃昏 却恐青青有盡時
花間忽見 雙飛蝶 一瞬青春疾如電 認得蕭郎馬過時
眉鎖 春愁 画不成 春寒翠被無人共 兩顰秋波多少恨
深院無人 獨倚門 閉却熏爐 一字香 凭闌強笑 教青梅
敲斷 王釵 紅燭 冷 相思極處 翻相恨
詩程 應說 到常山 雲海深深 尚有期
十一 一闌干 新月上 安能化作 烏衣燕
後看 花影 過初更 一度花開 見君
巫山 雲 斷人何處 試問雙飛 新燕子
胡鴈 啼 霜又 過 樓 今朝社日 為誰來
君看 湘水 祠前竹 倚闌 惟殺 東風急
豈是 男兒 淚 點 班 重整金釵 壓翠鬟

宮怨

題紅怨 唐詩云 聞知葉上題 紅怨 葉上題 詠奇 阿誰

嬋娟誤人

柳龍輔詩 十年不識君王面 始信嬋

娟解 蛾眉有人妬 羊祜軒詞 長門事 準擬佳期 又誤蛾眉 曾紅

顏多薄命 歐求叔則如曲 紅顏勝人 寂寞守長門 柳公權詩 不

恩亦耳 寂寞中 長門 今草却 買相如賦 徐王泉詩 靜看殘花落

得君主 顧重人 椒房 拭淚痕 買相如賦 徐王泉詩 靜看殘花落

年年欲買 相如賦 羊車不過 賈龍章詩 咫尺天顏 隔九重 夢魂

未肯干 金畢竟 休 羊車不過 賈龍章詩 咫尺天顏 隔九重 夢魂

滿美蓉 夜雨 紅龍 袞袞 懷椒室 冷羊車 不過 賈龍章詩 咫尺天顏

竹籬空 若教 彈盡 琵琶 怨買箇 青鋒 斬盡 工 賈龍章詩 咫尺天顏

又恐 春秋 筆 幾行 欲 門 紅葉 題 詩 句 一世 準期 詩 德鳳 半生 還未 識明主

又恐 春秋 筆 幾行 欲 門 紅葉 題 詩 句 一世 準期 詩 德鳳 半生 還未 識明主

又恐 春秋 筆 幾行 欲 門 紅葉 題 詩 句 一世 準期 詩 德鳳 半生 還未 識明主

又恐 春秋 筆 幾行 欲 門 紅葉 題 詩 句 一世 準期 詩 德鳳 半生 還未 識明主

大旨

題紅

買賦 承恩 長門 翠華 思事

買賦 承恩 長門 翠華 思事

買賦 承恩 長門 翠華 思事

買賦 承恩 長門 翠華 思事

買賦 承恩 長門 翠華 思事

買賦 承恩 長門 翠華 思事

長門花泣一枝春

閑倚闌干聽作歌

樹頭樹底一頁殘紅

爭奈君王別處新

傷春無奈試春寒

一片西飛

棄綉停針

一道甘泉接御溝

花落深宮畫漏停

焚香整頓

十皇行處不自秋

王階春草喚愁生

夜月長明

禁上詩魯寄

宮中愁愈添

秋風團扇悲

心知人不

知

當年曾入選

風清玉簫愁

故枕

到老未承恩

月滿珠簾

上鉤

錯把黃金買賦

自古紅顏多薄命

如今白髮對深宮

且恨紅葉自題詩

整日蛾眉

從恨

班女因情下長信

終年翠輦

不曾過

甄妃為妬出層宮

黃金錯買

相如賦

十載幽思滿素懷

紅葉愁題

韓氏詩

雨過玉階長夜靜

翠掩春闈

花雨冷

風吹金鎖漏聲多

紅題秋怨

葉雲香

望幸徒焚百和香

銀鑰却收

金鎖合

珊瑚枕上千行淚

月明花落

又黃昏

不是思君是恨君

君主未失

無人妬

曾緣王貌君王寵

雖不承恩

却感恩

准擬人看似舊時

年年花落

無人見

似將海水添宮漏

空逐春泉

出水煮

共滴長明一夜長

經年不見

君王面

錯把黃金買詩賦

花落黃昏

空掩門

相如元是薄情人

鳳輦不來

春欲盡

羊車漸上

空留鶯語

到黃昏

又對孤燈

空留鶯語

到黃昏

倦繡

日轉針絲

金針

畫衣裳之妖妍

櫻桃樹下行

紫文表

去而裏素

長與芳樹

既徒倚

於丹墀

馬之光飾

既徒倚

於丹墀

徊於青閣

既徒倚

於丹墀

百結春愁

既徒倚

於丹墀

綉愁盡日

既徒倚

於丹墀

春思

既徒倚

於丹墀

工夫

既徒倚

於丹墀

鴛鴦

既徒倚

於丹墀

大意

紗窓 心閑 御羅 玉指 徙倚 春困 蠶眉
畫閣 意懶 官線 金針 徘徊 日長 隱几

起句

紗窓停繡針 獨在紗窓刺繡遲 香玉春來困不勝
針線懶拈不稱情 紫荊枝上轉黃鸝 啼鴛喚夢幾時醒

聯句

五色天衣綉未成 門閉幽花一院深
落花香鎖楚雲深 綉床空倚綉無心
自別畫砧後 淚頻垂玉筍 聽得鶯聲巧
懶將針線拈 線懶度金針 懶將章線拈

結句

燕子日長唯破睡 綉線半餘還起思
楊花風起更愁人 回文將就復慵觀
倦倚綉床秋不動 王筍倦分階
緩垂綠帶香還低 金針懶刺上林花
近添愁眼凭朱几 楊花影逐春心亂
那得歡娛整翠茸 燕子聲催午夢長
日高幽窗懶梳妝 停針睨看蝶雙飛
滿院飛花未捲簾 不似春庭花日暖
不似春庭花日暖 蝴蝶游心苦未量
停針睨看蝶雙飛 可憐刺到雙飛鳳
欲知無限傷春意 又商相思淚幾行
盡在停針不語時

大意

紗窓 心閑 御羅 玉指 徙倚 春困 蠶眉
畫閣 意懶 官線 金針 徘徊 日長 隱几

起句

紗窓停繡針 獨在紗窓刺繡遲 香玉春來困不勝
針線懶拈不稱情 紫荊枝上轉黃鸝 啼鴛喚夢幾時醒

聯句

五色天衣綉未成 門閉幽花一院深
落花香鎖楚雲深 綉床空倚綉無心
自別畫砧後 淚頻垂玉筍 聽得鶯聲巧
懶將針線拈 線懶度金針 懶將章線拈

結句

燕子日長唯破睡 綉線半餘還起思
楊花風起更愁人 回文將就復慵觀
倦倚綉床秋不動 王筍倦分階
緩垂綠帶香還低 金針懶刺上林花
近添愁眼凭朱几 楊花影逐春心亂
那得歡娛整翠茸 燕子聲催午夢長
日高幽窗懶梳妝 停針睨看蝶雙飛
滿院飛花未捲簾 不似春庭花日暖
不似春庭花日暖 蝴蝶游心苦未量
停針睨看蝶雙飛 可憐刺到雙飛鳳
欲知無限傷春意 又商相思淚幾行
盡在停針不語時

慵粧

事實

鬢慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳

天氣困人

天氣困人 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳

眉不掃

眉不掃 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳

兒扶掖

兒扶掖 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳

再拜上皇笑

再拜上皇笑 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳

羞照恐驚

羞照恐驚 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳

難復舊為

難復舊為 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳

憔悴帶圍寬

憔悴帶圍寬 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳

淺淡

淺淡 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳

愁悵

愁悵 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳

酒困

酒困 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳

殘粧

殘粧 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳

無言

無言 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳
梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳 梳慵梳

結句

瘦減花容不同舊
曉粧羞滿懶窺鏡

春睡醒來無意緒
雲斜曉不似梳

寄遠

事實

寄遠衣

張說寄遠衣
深閨乍冷開香篋
玉筋微濕紅頰
獨下關城轉
寒切祗知抱杵搗秋砧
不知高樓已無月
時聞塞

斷細想
雁聲相喚
斜窓只有燈相伴
幾展齊紈
又懶親
離腸恐逐金刀
無入試
寬窄時時舉袖
勻殘淚
紅牋謾有千行字
書中不
中事一半愁

書成和淚封
張孫佐輔寄書
夜得書字盈紙
揮刀就燭裁紅
綉結作同心
蒼千里君寄
遠書莫絕
妾蒼同心
心自結
同心
再解心不離
離字頻看
字愁城結成
一夜和淚封
斯書只在懷
袖中莫如
書字固難
久頭學同心
長可

一行書寄
夫在蕭關
妾在吳西
風吹妾
妾憂夫
一斤書寄
教行淚寒到
君是衣
誤封白紙
三山吳仁叔在
大學附家書
誤封白紙
一幅
落緘封一紙
從頭徹尾
空料想
仙郎懷
別恨憶
人全在不言中
仁叔見之
亦復詩云
一幅空箋
聊達意
佳人端的
巧形言
聖朝
若也
科詔
應作人間
寄衣侑詩
洞庭劉氏有
夫葉正甫
夕客
女狀元
妻笑而藏之

牛女隔天河
又喜秋來
得一
過歲歲
寄如身上
服絲絲是
妾
中梭剪
聲自覺
和腸斷
線脚那能
抵淚多
長短只依
先上
樣不
知肥瘦
近如何
正甫見之
遂歸

品題
疑愁
一別
兒夫
歲屢更
吹雲
巫甫
杏無
情金
錢
下羞
開語
錦字
心中字
聊為
題詩
寄遠行

大意
錦字
同心
魚書
白練
金刀
遺霜
紅牋
封淚
馬字
齊紈
玉杵
塞月
錦字
憑誰
送
望斷
蕭郎
馬足
塵
碧玉
釵
綴
綉
絲
紅粧
滿面
淚闌
杆
西風
吹夢
楚江
秋
樓上
誰家
燒
夜香
幾許
幽情
紗
誰
難
馬正
來時
妾正
愁
玉笙
哀怨
弄
初涼
深院
沉沉
照
春暉
聞草
歸來
上
玉階
織素
縫衣
獨
苦辛
寶香
熏徹
舊時
衣
香塵
微
凝
合歡
鞋
遠音
回使
寄
征人
寶轂
香輪
不再
逢
西風
吹
鴈
落
東吳
剔盡
香
閣
幾
夜
燈
映雲
巫雨
杏無
踪
自整
寒衣
欲寄
夫
挑成
錦字
寄
遠情
夜長
燈影
寂
蟬
髮
相
將
盡
蜘蛛
也
解
傷
心事
天遠
鴈聲
孤
此
香
黑
在
無
蝴蝶
猶能
入
夢
魂
愁
怕
子規
聲
夢
回
海
燕
年
年
却
有
情

聯句
天遠鴈聲孤
此香黑在無
蝴蝶猶能入
夢魂
愁怕子規聲
夢回
海燕年年
却有情

結句

王閔此去三千里
爭得夫君似春色
一年一度一歸來
相思不敢悲憔悴
意恐即聞又見憎

奴婢

事實

滅獲

風俗通古制本無奴婢即犯事者或原之滅者
申無字曰人有十等王臣公臣大夫士
士臣皂皂臣輿與臣隸隸臣僚僚臣僕僕臣臺
養_注折薪為廩以養為
養又皮曰休茲斯走養
張耳陳豨其厮役
莫_注天十英傑
門幹
卓氏富家
奴星
脚
馬走

被滅罪沒入官為奴婢獲者逃亡獲得者
左傳馬有圍牛有牧以待百
事又云負羈絏以從在圍牧
應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

應門
李令伯表內無家僅
應門五尺之僅
家僅

漁童樵青

唐肅宗嘗贈高士玄真子張志和奴婢各一人玄真
配為夫婦名曰漁童樵青人問其故漁童使捧釣於
蘇蘭新桂竹裏煎茶

僵覆毒酒

列女傳周大夫仕於周妻淫於
主父還恐費之為毒藥使
婢進之婢私曰進之則殺主父告之則殺主母因置覆酒主父
怒而盜之妻恐婢言之因他過欲殺之婢就杖之婢就杖將死
而不言主父之弟聞之直以告主父放其

家婢讀書

鄭文家奴
皆讀書

紅錦牋表

小名錦路川
節度使薛嵩
有青衣曰錦嵩常
遺掌牋表號肉記室

老嫗吹簫

陶侃家僮千餘人嘗得奴不
善言常默坐侃一日出郊外
吹簫簫聲流涕服降語

海山使者

善言常默坐侃一日出郊外
吹簫簫聲流涕服降語

蒼頭廬兒

軍出入蒼頭廬
兒下車趨門傳呼甚寵因諸給事

耕織當問奴與婢

宋書曰虜
殿中所居為廬蒼頭侍役呼廬兒

耕織當問奴與婢

宋書曰虜
殿中所居為廬蒼頭侍役呼廬兒

耕織當問奴與婢

宋書曰虜
殿中所居為廬蒼頭侍役呼廬兒

耕織當問奴與婢

宋書曰虜
殿中所居為廬蒼頭侍役呼廬兒

耕織當問奴與婢

宋書曰虜
殿中所居為廬蒼頭侍役呼廬兒

耕織當問奴與婢

宋書曰虜
殿中所居為廬蒼頭侍役呼廬兒

既遺善報萬而主裁奴或盜之嘗貯孟孟一符騰緘如故

而器皆亡奴妄言不測者公權曰銀盃羽化矣竟不復詰
名士 晉王士字季孫為兵在大將軍幕府洛中名士王登胡奴
母輔之皆與尼交木將軍聞之因與尼長假遂得離兵奴

價倍婢價 祖訥字士言貧常自炊爨養母將軍王敦聞之遺以
奚何必輕於助薪水之勞陶潛為彭澤令不以家累自隨送之

五段皮耶助薪水之勞陶潛為彭澤令不以家累自隨送之
難今遺此力助汝薪水之奉孤兒如長君後漢李善不同縣李

繼死及唯有孤兒續始生數旬而貴財千萬諸奴婢欲殺續分
其財產善潛負續逃親自哺養乳為生童續在懷抱奉之不懈

長君續十歲善與歸本縣修理
舊業告奴婢於官悉收殺之

品題 古制奚奴為犯刑烹茶汲水古伶行韓文已載長髮像坡語
嘗稱赤脚形老嫗吹簫胡虜服健兒揮戟寇兵寧當年亦有

封侯董萬古 濮陽傳遺伶詩分付家中意莫過好生補我
英名足衛青 舊蓑衣報知鴟鹿還相悉整頓琴山待早歸

大意 蒼頭 臧獲 愛才 四星 鼓世 籠鳥
赤脚 輿臺 覆毒 海使 採薪 風花
籠鳥無常主 鴛鴦拂瓦去 白頭忠信可專城

聯句 風花不戀枝 鸚鵡透籠飛

繡袂尚為前主服 金盆已覆誰家水
錦衾已屬別人床 玉軀長拋不續絃
自非車騎將軍勢 侯門一入深如海
愧使王尼常作兵 從此蕭郎是路人
日暮東風怨啼鳥 漁童能使收綸釣
落花猶似墮樓人 更有襟青煮茗茶

結句 伐薪汲水猶堪用 奉養孤兒繼神枝
結柳為車亦可論

醜婦 濮陽傳詩魯施脂粉闌妝臺 擬奪昭容寵幸來
柘席還憐歡尚隔情懷 報死那能花面貼 羞澁空頻寶鏡開

品題 只索新然甲舍婦 效顰反惹淚 顯頭

苦婦 濮陽傳詩貌醜情真 襟綬襟合家承直 賦
昏侵郎君 嘆喜還 進粉背地 低頭事關心

品題 濮陽傳詩貌醜情真 襟綬襟合家承直 賦
昏侵郎君 嘆喜還 進粉背地 低頭事關心

卷之六 魏人傳上卷 五

文學門

勤學

雪膏 唐韓愈字退之勤學焚膏

油以繼晷注晷日影也

漂麥 後漢高鳳讀書書夜不

息妻曝麥於庭令鳳護

雞時暴雨鳳讀書

囊螢 晉車胤字武子精勤不倦博覽多通家

貧無油夏月練囊盛數十螢火以照讀

不覺水漂其來

鑿壁 晉漢匡衡勤學家貧無油隣舍有

燭而不見乃鑿壁引其光而讀之

隨月 江必少貧夜讀

書隨月光斜升

映雪 孫康家貧無油常

刺股自刺其股而流至

刺股自刺其股而流至

警枕 范祖禹集司

馬溫公以圓

磨鐵杵問之曰欲作鐵白感其言遂空業

木為枕少睡則枕藏火此史相登小歲就書父母恐成鑄鐵硯

轉而覺乃起讀書

五代 桑維翰人有勸其不必舉進士維翰乃

鑄鐵硯以示人曰硯弊則改業卒進士及第帶經鋤

鋤倪寬帶經

讀求免貧賤

呂氏春秋甯越少時苦耕友人謂曰君學十五年

五年可以成

牛角挂書 唐李密以蒲韞乘牛挂書

於角上且讀揚素見而奇

三冬文

矣遂學成

史足用 漢東方朔十三歲

史足用

書三冬文史足用

品題

胡敬齋詩黃昏燈火五更雞正是男兒篤志時黑髮不能勤
學早白頭方悔讀書遲狀元本是人間子宰相原非天上兒
好把六經功畢勉
朱衣自有點頭期

大意

勸學 映雪 舌耕 鑿壁 鏡底 黃卷帶經 錫
篤志 引錐 獨整塵編 靜掩門 年少光陰 似過駒
學豈儒冠誤 知繁燈火正宜親 芸窗正好 苦攻書

起句

十年窓下業 篤學居顏巷 休嘆五經笥 味道心千古
萬卷腹中書 潛心下重帷 全勝萬籟金 披文目五行
黃卷橫鋪几 壯志初嘗膽 道究天人奧 左對聖賢語
青燈近對床 吾生豈繫匏 若教仙桂在平地 全無車馬喧
簡編韓氏少 竟日閉孫戶 更有何人肯苦心

結句

詩禮伯魚庭 無心窺董園 那時得遂平生願
鄙哉牆面輩 城南燈火夜 始信書中祿萬重
何異馬牛裾 惟羨小韓符

勸學

實

無物比倫 宋仁宗勸學文朕觀無學人無物堪比倫若比於
有麟若比於糞土糞滋五穀土如禾如稻宋徽宗勸學文學也
養民世間無限物無此無學人如禾如稻好不學也

自悔

公勸學歌勉旃汝等各公卿庶人 柳中田勸學歌學則
早脩莫待老來定身悔 庶人之子為公卿不
學則公卿之子為庶人

品題

吳夢舍詩慙慙習讀莫勝此成器皆因肯琢磨凡遇詩書須
力勉每逢花酒莫相過聞人得失先量已見彼非為莫學他
多少時人慵懶者
老來無耐一身何

起句

聖明天子重英豪 王侯寧有種 喜對聖賢語 將相本無種
好把文章教爾曹 將相本無門 羞對牛馬襟 男兒當自強

聯句

黜隙應堪惜 功業當勤鳳閣榮 老歲功名豈過人
童窓宜勉旃 詩書日殫螢窓苦 少年學問不勤力
白日莫閑過 文章體格還從漸 蟻誠竭怕時光速
青春不再來 文章體格還從漸 蟻誠竭怕時光速

結句

三冬文史足 興亡千古事 富貴必從勤苦得
班馬未須誇 歷歷在胸中 男兒須讀五車書
人家不論貧和富 世上萬般皆下品 有日青雲騰奮起
總有讀書聲便佳 思量惟有讀書高 世人空笑我先前

員外 卷之六 文學明世卷 二十一

若到廣寒宮裡過
渾身都是桂花香

博學

事實書淫

劉峻字孝標博極群書文藻秀出謂帳中烟跡晝夜燒
業置燈帳中夜分不寢帳中書淫時不見用者辨命論以見懷
頂如墨夫人收之以示子書麓李邕詰貴有今然不能行秘書
唐太宗出幸有司請載秘書以從考定五經類師古唐初為秘
帝曰不須虞世南在此行秘書也

五經多所釐正
又注班固漢書五經論
設踐歎博學賀知章號之為五經龜龜
五鹿折角前漢朱雲與五鹿充宗論易連柱五鹿君諾
儒語曰五鹿岳岳朱雲折其角遂為博士

五鹿折角
北齊德源字孝基劉勳薦之曰德源
枕籍六經漁獵百氏除散騎侍郎
明習憲章馬周贊曰由
天下事明習憲章若素官于
朝以明佐聖君幸不膠而固
南暗疏之無一字繆上每稱其五絕
文詞五書翰上嘗出行有司請載書以從上曰虞世南在行秘
書也

書亡書三篋
前漢張安世傳武帝幸河東亡書三篋
唯安世識之其作其事後得亡書校無所遺上奇

史學
劉道原幼穎悟先皇初授司馬溫公為
春秋大義對擢第一英宗詔光修通鑑光曰專精史學
劉恕一知古以古事問中舒今事問崔琳姚崇亦曰欲知古事
人而問舒今事問齊幹

品題
養就良知理最明古今博覽義尤精
文章貫九經細密如微窮動靜品題物色
致論評千年下問
皆能對五經
龜名本性靈

大意
歷厨漁獵
三篋
五經庫
邊笥枕籍
五車
九經庫
難窓滿五車
積學三冬富
總龜騰美譽
不經不與聖賢語
建陽萬卷餘
武庫播芳聲
萬古誰知天地心
理窮古事燕今事
志業直須窮六籍
覓句忍飢食已來
語對賢人與聖人
光陰何啻惜三餘
抄書得趣老何傷
筆底詞源三峽水
有餘才智漢匡時
不知太乙遊何處
東中事業五車書
明習憲章馬周

結句
定把青藜獨照

經籍

三篋
五經庫

五車
九經庫

總龜騰美譽

武庫播芳聲

志業直須窮六籍

光陰何啻惜三餘

有餘才智漢匡時

明習憲章馬周

定把青藜獨照

經籍

三篋
五經庫
五車
九經庫
總龜騰美譽
武庫播芳聲
志業直須窮六籍
光陰何啻惜三餘
有餘才智漢匡時
明習憲章馬周

叙書 尚書序 伏羲始造書契代結繩之政由是文籍生焉

黃卷 唐祝欽明能八風舞屬藏黃卷用黃紙以藥染之所以

殺青 如向別錄殺青者直用青竹簡書取汗簡後漢靈帝

石經 後漢靈帝詔諸儒定五經刊于石

亥末 家語子夏見史志三豕渡河曰已亥

漆書 後漢杜林於西州得漆書古文尚書一卷科

石渠閣 前漢劉向傳召受穀梁白虎觀後漢章帝會

教國子 周禮地官氏教國子以道及以六藝

鼓吹六經 和甫傳鼓吹六經

品題 地燦上光貫斗牛大道不即秦火成遺言當向孔明求于

今四海多英俊校宏開力進脩

大意 經書 九經 斷簡 黃卷 五經 五車 史籍 萬卷 殘編 赤軸 三史 四庫 至教遺千載 詩著溫柔教 詩逸篇何逸 道義窮今古 微言播六經 書垂軌範文 書焚道未焚 包藏在六經 禾下經書債 篤學賢君子 脫了秦坑灰燼餘

起句 窓前剔蠹魚 群書務講明 聖經賢傳果何如

詩書雖自灰秦火 人世還憑帝上傳

千古常存道不磨 古今未滿四千年

優冠四民貴 簡脫秦灰冷 說却包宇宙 古字傳科斗 精通六藝功 書求魯壁藏 心畫炳丹青 新編剔蠹魚 度日一編裏 迅速當知為樵事 勤勤自可窮今古 懷人千載前 荒疎莫比結繩時 疊疊非惟記姓名

聯句 富貴多因筆墨致 蠹魚自曬閑箱篋 先天一畫無餘卦 古今誰謂簡編疎 科斗長收古鼎鍾 六籍千年有冷灰 史籍始終明治亂 欲與聖賢齊事業 棟架有時防用齒 經書表裡見安危 須從方寸著工夫 道網摠束跡天地 愚者因賢從此學 天教魯壁道常存 文燭高騰貫斗牛 富家欲貴向斯求 吾欲忘言觀道妙 古今倫載無窮事 豈是世間文字少 六經俱是不全書 造化尤人各自脩

結句 新編後傳逐年開

讀書

讀書

讀書

讀書

讀書

讀書

讀書

事實萬卷

神又年少初開萬卷餘

心醉文中子事君篇

孫敬好學閉戶讀書不堪其睡乃以繩懸勤乃有南木之就規
之呈梁嘗入市人皆曰閉戶先生來也
有社後焉何必古人糟粕
君之所讀為何言耶公曰聖人之言也曰聖人在乎
公曰已死矣曰然則君之所讀者古人之糟粕也
秋仁傑為見時問人有何書可讀曰篇篇黃
卷皆聖賢心也何書不可遂力學後至相位
不壁真難換寸陰寸陰須競在儒林風淫芸紫香生玉月印
花窓影漏金一鐸喚醒千古夢五經鑿破半生心惺惺法守
渾無寐任報
桃都雞幾聲

品題

大意

起句

汲汲 藜火 短檠
孜孜 筆花 絃誦
發憤 時習 披卷
廢寢 日益 研思
身入群經作蠹魚
斷編殘簡伴閑居
茅屋誰家絃誦聲
未曾日夕掩山窗
短髮蕭蕭老日侵
遺編未敢廢研詩
擔頭琴劍勢凌空
鄒魯門高有路通

聯句

我愛明經治事翁
道中休用本蕪該
心常落大業 指日三冬足
手不釋群經 存心萬古情
詩書資博約 休辭連夜讀
禮樂致中和 也勝帶經鋤
清墨窟舊史 經笥進窺底
磨丹注前經 詞源幸被深
沉涵內蘊多文富 遠大誰同儒志苦
講貫旁通萬物情 堅剛方識聖門高
寧教人笑五經笥 無窮生意窓前草
慎勿學辜三尺紫 不工工夫架上書
閣束九師新得妙 山鬼吹燈听夜誦
妻吞三畫舊題靈 秋兔獻頰供晨哦
我完虛言相賢聖 荷簣那知夫子者
獨守遺編當友朋 負苓曾笑伏義來
芸草楷前時展卷 恩分夜雨滋蘭室
芝蘭室內夜焚膏 顏帶春風入杏壇
舊書不厭百回讀 不隨當世師章句
熟讀深思子自知 頗識揚雄善讀書
他年慎勿加張禹 應知多事空多事
帝明床前謔不知 只教兒曹讀孝經

結句

他年慎勿加張禹
帝明床前謔不知

滿腔添得清明氣
坐待晨光尚未眠
他時仰止力何在
桂棹秋香出廣寒

任是雞鳴天外曙
精神不入睡魔籠

直將努力撐樁去
不到源頭不肯休

借書

事實

書曰

黃庭堅字魯直號山谷道人聞致政胡朝請多藏書籍以詩借書自古詩云萬事不理問伯始聲名藉甚南郡胡表孫白頭坐窮巷乞身歸來猶好書手抄萬卷未開筆心醉經還何鐵頭公借我藏書目時送一鱖開鑿魚請覽秘閣時能言相邑固請乃假直秘書未幾辭去嶠驚問與篇隱如響非閱市肆書後漢王充家貧常於洛陽市肆閱所進有賜書桓譚欲借書班嗣不進借書成誦先賢傳延篤從唐寫傳本無紙乃借本誦各作借書不識字家富多書乃與客作久之辭去曰已誦之矣發憤曰異日若貴當板以錄之遺書編讀之主感嘆給以書後成大儒

借書刊謬

手刊其謬然後反之

借書緝壞

借人編簡壞者緝

送書一車

皇甫謐自表就武帝借

借書四癡

黃李濟

翁資叢集云借書籍云借一癡不借二癡索三癡還四癡又王有新書杜元凱遺其子書云書勿借人古語云借書一啞還書一啞後世更生其詞至於三四因訛為癡焉

品題

有胸中愧我甚空虛四痴莫謂遺言在一諾頂開笑口餘武帝昔憐皇甫謐蒲

大意

未見聖賢多志閱市與篇替窺求聞藏經笥

起句

萬卷吾今一字無草萊心徑失耕鋤欲整行囊下講帷

聯句

胡潛克伐寧通許方欲編蒲希路氏河間加賜在留本

班嗣高明不進談莫令閱市效王充皇甫蒙恩更載車

常思天下無窮事公子藏山真富有古史今文俱有利

願讀人間未見書小儒捫腹正空虛殘編斷簡豈無餘

望濟吾濟一腹虛

父聞使府五車富

結句

短繁未盡，殘年債，欲問班生試借書。

何時管籥入吾手，為理牙籤機盡魚。

儲書

事實

紹京

天帖云：紹京寶書畫如王羲之獻之，楮遂良真跡藏家者至數十百卷。

插架

爾詩：勤侯家多書，插架三

萬軸。一垂牙籤，嘗有手未觸。

五車

莊子：惠子多方，其書五車。四部聚書，四部皆令以甲乙

丙丁為號，次列經史子集四庫。

縹囊

梁統：縹囊卷盈於細帙，中魏徵虞世南顏師古為秘書監，請求天下書，選五品以上子弟工書者為書手，繕寫藏于內庫，以宮人掌之。

正為魏徵度使沂國公，樂聞前代忠孝之事，於府舍此書樓聚書萬餘卷，視事之際與賓佐講論古今賢否。

石渠閣

三輔黃圖：石渠閣蕭何造，其無一錢，但有書益數百軸。下龍白為渠，以導水，若今御

清，因為閣名，所藏入閣所得圖籍至成帝，又於此藏秘書焉。

三十乘

晉張華好書籍，身死之溢於几筵，常徒居載書二十乘，天下奇秘，八萬卷，齊金樓子聚

世所未有，悉在華所，由是博洽無與比。

八萬卷

齊金樓子聚書八萬卷，河間之行秘書，如相如卷藏天祿，吞石渠，豈惟勤侯

作漢室，頗謂過之。

東坡題張競辰

萬卷堂云：君家四壁

二萬軸，家有世南行秘書，兒童拍手笑何事，笑人空攜漢史

未許中郎得異書，且與楊雄問奇字，清江紫山碧土樓，自有老

龍千古閑知君好事，家有酒化為老人夜扣門，留侯之符書

滿腹，王函寶方向，用讀濠梁定復五車書，北上從來一編足。

樓孫氏

孫析六世祖長孺喜藏書，為樓置其上，人謂

魚豢典畧云：書為不孝，杜進聚書萬卷，後題云：請俸寫未手

芸香辟蠹

不聚書後必興，丁度祖顯盡其家貲以置書，至八十卷，且曰：吾

收謄文簡

夜雨寒窓細講論

傳家即此苗裔產

品題

夏桂州詩：往昔秦坑一炬焚，故家尤喜簡編存，文章足可師

賢聖，事業期將訓子孫，架插牙籤三萬軸，篋收蠹簡幾千春

大意

牙籤 書府 千金 俱收 收藏 芸香 學海 發底

竹簡 儒林 萬卷 並蓄 積壓 墨庄 書府 開風

盈庭 蠹魚

精案 科斗

起句

老翁無物付孫兒，讀書不見行間墨，可嗟秦政在焚

樓上牙籤滿架垂，始識當年教外心，後世依然簡冊存

後古

文

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

卷

竹簡分今古

牙籤冠丙十

絕學繼顏孟

浮風反虞唐

專房一竹几

列屋萬牙籤

倒架牙籤亂

鋪庭竹簡光

月生安世篋

日射却隆庭

今日遺編皆見集

當年秘閣未為多

不

是儂家真寶藏

不應更羨滿籬金

力餘儘把細評論

老我藉斯為厚產

牙籤積壓散芸香

竹簡縱橫排笋迹

緜緜山去絕蠹魚

緜緜山去絕蠹魚

牙籤積壓散芸香

竹簡縱橫排笋迹

緜緜山去絕蠹魚

緜緜山去絕蠹魚

曬書

散帙

困散帙

終蠹

邵康節蠹魚

形狀類于魚

撲蠹魚

山谷詩云

何時管籥入

曬腹中書

晒腹中書

下物無年年當盛
夏發子又如初
郝隆七月七日人皆曬衣
惟隆乃於庭中
晒且仰晒人問其故
答曰我曬腹中書耳

品類

盛夏乾坤日正中
呼童宜晒蠹書虫
風生几案芸陰潤
雲散

清往士胆曠
當天是郝隆

大意

篇章 牙籤

翻經

斐篤曬

聯句

日映龍蛇動

雪楮隨風卷

風生安世篋

香敷芸葉潤

風飄簡帙橫

仙去越日香

日射却隆庭

書久蠹魚穿

文章賦

事實

三絕

李揆門第人物

腰藁

王勃每屬文磨墨數升則隄飲

不易一字時人

閣筆

王粲才高鍾繇王

文中虎

扁田録謝希

本年中日此

錦繡腸

李太白送仲弟令問序曰心肝五臟皆錦

愈

頭風

疾發

讀林所製起曰此愈我病

生白

而運揚

成夢生吞丹蒙

具人傳

韓文公少時夢人與丹蒙

如物

如物

乃夢中筆生花天寶遺事季白少時夢筆如椽晉王珣為相

以大手筆如椽與之既竟曰此當有木手蘇頌封許國公

以文章顯時號謝廷皓以詞賦錦繡堆王楊盧駱有文

駱好用古人名謂之點鬼簿文陣雄師王堂遺事文章司

命子太白集序云韓文瑞朝廷唐張鷟為見時夢

章瑞朝廷也五色鳥六帖晉羅含夢吞五色筆

人授五色筆由是文藻日新後夢詠曰吾有筆在

還淹探懷中得五色筆以還爾後絕無佳句又云淹夢張景陽

數尺與之其人志曰那得割截都盡江水浣腸

引江水浣之自是文章日文如傾河常人所及盧照鄰揚盈川

造有詩百篇號西江集文如傾河常人所及盧照鄰揚盈川

可以企之不然盈川文如字挾風霜烈二十一篇云字中皆挾

風篇連月露隋李諤書連篇累牘不出月露干將莫邪李邕文

難與爭鋒但虞傷缺王佩瓊歸祭柳州王佩瓊大故歌

心繡口柳子文抽黃對意外驚人語非尋常所賦也錦

開舌怖駭驅湧雲包則越羸並同股拔地倚天孫權書

效活讀之如赤手搏長蛇不施控勒騎生馬日光玉潔李漢

之為文汗灑白碑齋深詭然而蛟龍翔蔚然而麟鳳躍正

聲勁氣正歸田錄歐公云有山林草野之文有朝廷臺閣之文

官樣文章山林之文其氣枯槁志不得行著書立言者所尚也

臺閣之文其氣溫潤曹繹乃得位於時者所尚也王安

後唐文藝傳王勃英揚炯盧照鄰駱賓王皆以文章名天下

衙官屈宋杜審言云吾之文奴僕命駱賓王

可論唐人文章

張說典徐堅論近世文章說曰李嶠崔融薛稷

也論唐人文章宋之問之文如良金美玉无施不可富嘉謨如孫

峯絕岸壁立萬仞濃雲鬱以振雷其聲誠可畏也若施之廟觀

則駭矣閣朝應如麗服靚粧燕歌趙舞觀者忘疲若類之風雅

則罪人矣堅問今世說曰韓休之文如大美文酒有典刑而薄

味許景仙如豐肌膩髓雖濃華可愛而乏風骨張九齡如輕練

素練實濟時用而寤遠幅王翰如瓊盃

王帝雖爛然可觀而多玷缺堅謂篤論萬斛泉源

源不擇地而出滔滔汨汨一日千里无誰一家機杼

及其與石曲折隨物賦形而不可知也

一家機杼(唐)皇甫湜裴度碑

文學見重嘗云文章須自出機杼不羈之才

自出一家風骨何能共人同生活

立碑求文於白居易退怒曰近舍是而遠取居易高茲此驕度

謝之混請斗酒飲酣援筆立就度贈以車馬縉紙退大怒曰自

吾為顧况集序未嘗許人今碑字三千一字三

既成而向北斗告備忽有赤虹自

天而下化為頃刻文孔子授之夢吞金龜

一夕夢吞小金龜自後大有文思孟氏朝為

學士有玉堂集百夢吞金龜投水中不久卒

公之文如錦繡屏風

之文如泉冰迅急至於汪洋則不及文公也

縛麒麟手

黃生學術

新急手疾口如翻盆

字穩且勻徑源赤手縛麒麟

敲吹三都二京五經之鼓吹也

力可獨扛光焰萬丈

山正始之音

五典為五經

笙簧二皆為金

笙簧

文章曰姦職金石曰

擊撞龍文百節與筆

李杜文章在光焰萬丈長

乎生千萬篇金雞垂

琳琅山官執六丁雷雷下

取將流落人間者太

正始魏齊二年號時何晏好

莊老作道德論及

文賦王洵好論儒道文詞不

如晏天下翕然

尹元勳右補闕時又有富嘉謨

吳少微皆知名

彛諱累轉晉陽尉少微亦尉

晉陽尤相友善有魏

彛諱累轉晉陽尉少微亦尉

晉陽尤相友善有魏

彛諱累轉晉陽尉少微亦尉

晉陽尤相友善有魏

彛諱累轉晉陽尉少微亦尉

晉陽尤相友善有魏

彛諱累轉晉陽尉少微亦尉

晉陽尤相友善有魏

彛諱累轉晉陽尉少微亦尉

晉陽尤相友善有魏

彛諱累轉晉陽尉少微亦尉

晉陽尤相友善有魏

把筆自餘驢鳴 狗吠括耳而已 紙筆為貴 謝莊作貞淑妃哀策文 宋文帝卧覽

都下傳寫紙 大手筆 蘇頌唐武后朝 與張說同 以蔡邕 輟翰 王

筆為之貴 造此賦 未成 及見 又書 所為 甚奇 遂輟翰 文無加點 黃祖大

人有戲鸚鵡者 祖舉 厄於 衡曰 願先生賦之 桂苑叢珠 曹憲公

以煥嘉賓 衡擲筆 而作 文無加點 辭未甚麗 桂苑叢珠 卿多從

之將 於小學家 尤遂 自漢 杜林 備宏 以後 古文 亡絕 至憲 復因

煥帝 今與 諸儒 議 桂苑叢珠 視正 文字 又註 廣雅 學者 推其 功

秘書 造五鳳樓手 韓浦 韓洎 能為 古文 洎常 輕浦 語人 曰吾 兄

鳳樓 手浦 聞其 言 作詩 與洎 洎曰 上謀 查時 出 益州 寄 離騷 數

來新 自浣溪頭 老兄 得此 全無 用助 尔添 修五鳳樓 做離騷 數

十篇 柳宗元 為文章 卓備 精緻 一時 流輩 推尚 既窳 斥地 又荒

路鼓 出于土鼓 備孤 及皇甫 冉文集 序緣 情綺靡 之功 至是 乃

上鼓 篆籀 備 裂綺 繡攀 日月 柳宗元 答友人 求文章 書且 自孔氏

生于 鳥跡 裂綺 繡攀 日月 以來 茲道 大闡 家修 人所 冠精 竭慮

及後 代越 不述 數十 人耳 其餘 誰不 欲爭 裂綺 繡攀 日月

高視 於萬物 之中 雄峙 於百代 之下 乎 率皆 綴史 而不 有相如

克嚙 嚼而不 進力 賦思 窮吞 志而 沒故 曰得 之為 難

揚雄 風李尤 以文章 顯和 帝時 侍中 賈逵 薦尤 有相如 揚雄 之

哀典 凡一 賦 雕蟲 刻俄 而曰 壯夫 不為 也或 曰霧 教之 組麗

日女 上八 吟 賦 溫庭 筠敏 於為 文未 嘗起 草每 登高 前藝 文

之靈 矣八 吟 賦 謝賦 謝靈 運影 滅時 稱謝 賦八 义手 披言 溫庭

而雅 謂之 賦登 高謝 賦謝 靈運 影滅 時稱 謝賦 八义 手披 言溫 庭

能賦 可以 為文 謝賦 謝靈 運影 滅時 稱謝 賦八 义手 披言 溫庭

筠工 賦每 入試 凡有 凌雲 氣司 馬相 如奏 大人 賦帝 大日 五

八义 手而 八韻 成有 凌雲 氣司 馬相 如奏 大人 賦帝 大日 五

色賦 披言 李程 試日 五色 賦破 題云 瑞動 天德 祥開 日華 歸為

取本 現破 題云 麗日 燦爛 中洛 陽紙 貴都 繡思 十稔 門庭 藩溷

含瑞 光程 喜曰 李程 在裏 洛陽 紙貴 都繡 思十 稔門 庭藩 溷

昔着 紙筆 遂得 一旬 師便 疏之 自以 其作 不讓 班張 華見 而

為中興冠

詞賦為中央冠

摸地作金聲

成示范榮期曰卿賦

品題

文章經世濟時雍官樣雖教與衆同筆下生花唐李白口出
吐鳳漢揚雄凌雲志氣芳名重抑地金聲譽望崇字挾風霜
連月露鳳毛應美謝超宗

大意

錦心 有神 辭鋒 其雅 穿天心 三都賦 栖王露
字挾風霜 無敵 筆力 縱橫 出月齋 入斗才 動清嵐
篇連月露 賦 凌雲 五色 金聲 吐鳳 千金
觸目非論 賦 青錢李士妙文章 道散斯文体尚浮
新文尚起 便台含毫侍帝旁 韓曾力與化土降

起句

先生當代文章祖 古木森森白玉堂 誰開天地秘密藏
孔思周情幸未泯 長年來此試文章 今古人間用不窮
有客推能賦 天典規模神與功 一吟一韻思無窮

賦

敏捷詩千首 夙有凌雲筆 九梁綴橫字 百川傾滄海
漂零酒一盃 方乘犯斗槎 詩書典雅文 三峽倒詞源
自有波瀾勢 三都賦好人爭奪 不勞筆下三古蹟

聯句

飛翮豪飲知無敵 詩健每能橫傑賦 筆鋒雄健千人敵
下筆成文似有神 曲豪長愛擊雷歌 談陣風流四座傾
文思直從心上出 清談落落筆一干字 詩篇落落風雷動
筆花新向夢中生 白眼稱稱三白篇 筆力停時造化開

謝鋒穎利疑無敵 袖裡虹霓衝霧色 烟上錦心才越俗
筆力縱橫似有神 筆端風雨駕雲霄 稜稜玉骨秀橫秋
麗句妙於天十白 李白歌詩堪應詔 高名千古陳驚座
高才俊似海東青 陳琳書檄偶從軍 好句當年趙倚棹
詩如靈運雖鋪錦 山頭杜甫長年瘦 翰林風月三千首
賦似相如不直金 樓上元龍向日豪 吏部文章二百篇
汪洋渾厚杜二十部 豈特魏珠能照乘 高思金堂栖玉露
雅健雄深太史公 直將趙璧擬連城 遺音綠綺動清風
人品无瑕玉介尺 乍有凌雲氣 吐鳳才無敵
文章有海綉屏風 時聞按地聲 雕虫思有餘
詞章春藻麗 未羨八叉手 蘇老猶迷日五色
聲律古詩流 何須下載功 文章自是一時傑 温子徒窮手小叉
雕虫手段天之巧 句調何勞十稔心 八叉八就何神速
吐鳳言辭世所珍 揚雄更有河東賦 一韵一吟在逆奇
燈前草就平南策 佳傳吹虛送上天

結句

燈前草就平南策 佳傳吹虛送上天

事實詩史

至千言不少當特選詩史 詩筒 林通旦元白唱和以筒
搜得詩窟 元稹 和子美詩上薄風騷下該沈宋言奪蘇

織鹿蓋得古七步魏文帝嘗令弟曹思王七步作詩如不成行

人之休勢大法子建乃應聲曰莫且然且舞且舞在傘中

泣本是同根生十步後魏彭城王勰後幸上黨有大松上行而

相煎何太急賦詩謂曰汝可作詩至五行折而令就也

時賜上餘步至帝所而就詩曰問松經

幾冬年年不改容山川何如昔風雲與古同

日朕有一喜邊成賜衣久不時今仲春已給當賀我以詩宮人

迫之即應聲成文再詔賦之復無停思帝悅曰子建七步爾乃

三奪錦袍厚異記武后遊龍門命群臣賦詩先成者賜錦袍左

馬史東方虬詩先成拜賜坐末宋之問詩成文理兼美

乃就奪錦古錦囊

出心相梁體

用耳相梁體

雞林售白居易工於詩時人爭傳雞林價售

文喜晏元獻劉子儀為詩皆宗李義山

號西崑體後歐公矯之專以氣為主

平淡不流於堯俗奇占不流於俚俚題詠不窘於物象氣事不

用於聲律比與深通於物理用事工者如已出格見於成篇渾

然不可涯氣出於

言外浩然不可屈交股法

蓋欲以少對密疎對觀江朝宗謂思決不曉古人句格折句格

此一聯以密對疎以多對少正交股用之所謂賤對也

歐公詩云龍愛竹時來野寺獨尋春偶過溪橋俗謂之折句促

盧贊元雪詩想行客過梅橋澗老農憂麥隄乾效此格

句格於下商有促句格三句一換韻三疊而止山谷觀李伯時畫

疾縱橫木穿石隙未深透生念不令人瘦禽馬百費逢一且

眼明見此王花駘徑思首轍隨詩翁城西野苑尋小念是也

敲推字賈島在京師時騎驢一日得句自宿池邊樹僧敲月下

推之勢時韓愈為京兆島不覺衝至第一節左右擁至尹前島

具道所得句云云韓謂島曰敲字佳矣遂與並轡而歸為布衣

之五言長城劉長卿自謂五言長城系以備師攻之

志林云李杜之後詩人雖有遠韻而才不逮意獨常應物

柳子厚癸鐵穠於簡古奇至味於淡泊非餘子所及也

詩祖黃山谷東坡薦之曰瑰奇之文絕

居易言其詩在

處有神物護持得江山助

成文周書建安所詩律屢變至沈約以音韻相婉付及宋之鍾

問沈佺期文加靡麗句忌聲病如錦綉成文學者

文學月七卷三十四

文學月七卷三十四

文學月七卷三十四

文學月七卷三十四

文學月七卷三十四

文學月七卷三十四

嶸評詩

潘安仁詩出於仲宣細如翔禽之有羽毛張先詩

純憲章潘岳變平淡之體故稱中興第一陶彭澤詩出於應雲

又協左思風力古今隱逸詩人之宗一王袁謝五賢出於張華

才力苦弱務為清淡殊得風流頌趨謝玄暉在古無上李觀論

詩出於謝靈微傷細密一章之內自有五石

高處在古無上蜂腰鶴膝沈約曰詩有八病三曰蜂腰謂第二

字不得與第五字同聲如君其皆平聲欲飾皆入聲也四曰鶴膝謂第五

字不得與第十五字同聲如客從遠方來遺我一札書上言長

想思下言久別離雙聲疊韻上官儀曰詩有六對四曰雙聲對

來思皆平聲也又王謝雙聲云園籬眩紅蕩胡荈黃華又杜句

得放曠是也又王謝雙聲云園籬眩紅蕩胡荈黃華又杜句

甫平枝低結子接葉暗襲鶯樂天量大無甜酒打高天小詩句

中響字潘郊老云七言詩第五字要響如反照入江翻水石馬

圓何浮小葉細麥落輕花浮字落字皆響字謂致力處也

留人耶山谷猶愛刻燭擊鉢王夜集賦約四韻刻燭一寸又

其深遠閑雅也

曰何誰之有乃與江拱共

擊鉢音韻響絕而詩成

二百年無此

謝眺長五言沈約

張

張

張

張

張

張

張

張

張

芸叟評

石曼卿詩加亂鷹作歸飛不可言歐永叔詩如春服

既成春酒醺登此山之水元日七言詩王介甫詩如空中有

聲相中有色欲有執着曾不可得蘇子瞻詩如五庫乍開干戈

森然不覺令人神懼子細點檢不無利鈍每聖俞詩如深山道

人草衣葛屨王公大人見之不覺屈膝郭少師詩如言用不言體

如大排筵席終日揖遜而趨曰者少世以為

陳本明論詩云前輩詩言用不言體石曼卿詩則云可無不可

其名惟荆公東坡山谷知之荆公云風鳴綠鱗鱗起弄日揚

黃長長垂山谷云管城子無食肉相和方凡有絕交書荆公又

云纒成白雪系重綠條筆冰既雪枕揚微之能詩僧又贊云必

雪枕中方於此王荆公論老杜於不可故其有平淡簡易者有

詩神骨相副綿密精越者有嚴重威武若三軍之師者有風流醜籍若貴介

公子者蓋緒密而思深所以光掩前人而後世無繼者出詩說

濮陽傳論老杜嘗觀杜子美詩云蜀主窺吳幸三峽崩年亦在

曹霸云將軍魏武之子孫於今為庶為清門英雄割據雖已矣

文采風流今尚存觀此語則觀魏之意已見可以稱詩史歟

品題

羅洪先詩若手詞鋒發秘藏

發燦剪下天机錦綉香白雪陽春歸卸筆清風明月入詩囊

後古云

三五

班陽李杜曹劉輩
磨戰風騷翰墨場

大意

起句

聯句

麗句 清新 筆陣 元白 壘 江山助 珠璣唾
 物華 如陣 筆如鋒 收拾從來古錦囊 池塘春草謝家春
 沈謝曹劉是十雄 今知老將敵難當 萬古千秋五柳新
 筆倒三江水 五七字中苦 吟成七箇字 句坐中得
 詩專五字城 百十詩後清 然斷數莖鬢 心天外來
 忽吟佳句 詩消暑 鑄鏡物象三千首 律管和聲皆適正
 表勝前人 傲愈風 照耀乾坤四百州 春風吹水自成文
 霜鷗露鶴元無俗 六朝一洗繁華盡 胸中蘊籍藏今古
 雪竹風松本自清 四始重剛雅頌分 筆下詩章泣鬼神
 狂吟跌宕 無風雅 金玉鏗鏘 韻藻富
 醉墨淋漓 不整齊 波瀾揮洒 墨花香
 須知深得者 請君忙改藝 惟有詩懷元不愛
 不假夢池瘴 詩好共終身 豪吟依舊舊春生
 惟有詩魔降未得 石壁露涼 山月小
 每逢風月一聞吟 孤舟人在半江吟

覽友詩

書畫

高雅閑談 唐白樂夫云 常蘇州其歌行之外 頗近興調 五言詩又皆高雅 閑談自成一家 今之秉筆者 誰能及

一日三復

園何遜 八歲能賦詩 沈約愛其文 當謂遜曰 吾每喜卿詩 一日三復 猶不能已也

鏗金戛

玉

傳文鏗金戛 主千餘篇 膾炙人口 丈夫氣不 是綺羅人 語言

品題

履朗溪詩 曲盡敲推 句法工 按篇琢玩 趣無窮 清新李杜羞 前步超絕 曹劉耻 下風 氣帶芝蘭香 不減 懸成錦綉 何 縱橫筆陣 知無敵 濮陽傳詩 不及當年 和英句 今於故紙面 受鉞吟壇 主將雄 商評 從頭讀罷 將何似 三月青山雨後晴

大意

起句

聯句

白雪不容 和 一字含風雅 數篇吟可老 典規縵上 詠
 消風空暢懷 千篇費琢磨 一字買堪貧 如對座中談
 眼前飛白雪 文似銀河千丈馮 愛玩固勝千鎰貴
 紙上布陽春 氣如溫玉九天浮 秤量畢竟萬鈞重
 魯聞姓字爭先覩 楚騷攀駕魯無媿 再味暗疑水入齒
 今見文章更老成 陶艷爭衡未易降 冥搜消得雪為影
 青山各有幽棲志 木落千山秋骨瘦 愧我胸中無蘊藉
 白雪遙傳寡和章 月涵孤蚌夜光明 羨君筆下有珠璣

未怕元劉爭，狄步不妨陶謝與同遊。誰知長慶元和日，又見閑睡麟趾風。西京風月開編見，十重雲漢翔丹鳳。九重雲漢翔丹鳳，萬頃波濤現玉蛇。

結句

新詩比舊仍，曾信若許道攀莫太高。陽春一曲應進和，弄到詩家第一籌。

吟詩

六義

詩序故詩有六義焉。一曰風，二曰賦，三曰比，四曰興，五曰雅，六曰頌。

排鬼

排鬼詩，杜詩成。有鬼神無敵，李百篇。

杜千首

杜詩千首，敏捷三百篇。

五言漢時始，蘇李首更號。東都漸瀟灑，派別百川道。建安能者，卓犖變夙操。迺近抵晉宋，氣象日相耗。中間效鮑謝，比近最

清與齊梁及陳隋，教作等。騁譽樓春，摘花卉，公襲傷到。其國朝盛文章，子昂始高。雖勃與得李杜，萬數因陵暴。後來相繼生，亦各臻闢。與有窮者，孟郊受村實。雄教真，現洞古今象。外逐幽六，橫空盤硬語，交帖力排。果敷桑，律行余。奮盤卷，海濤榮華，俯天下。

東閣官梅

杜詩東閣官梅動詩，只浪愁。十年空夢到揚州，窮通有數天。

大意

修月窟，工部格。排悶，泣鬼。

起句

豈止筆端求，夜吟曉不休。此生精力盡於詩。

聯句

自古賦詩例，合肌。老業猶存是苦吟。可愛詩人古愛名。

君看飯所豈能肥，或投野店想寒林。吻間常作候虫鳴。山川千古氣，搜疑滄海竭。若非現外物，思飄雲物外。風月一時情，得恐鬼神驚。安得動搜真，律中鬼神驚。吾才三鼓竭，磨礱雙鬢改。豈有詩名世，與吟梅下月。君思九江寬，收拾一編成。而無鬼作窮，醉臥柳邊。尤癯始是仙，麗如花圃對春風。縱吟一夜鬼神哭，看卷蒲天星斗寒。

密移造化 駭吟筆
細織雲霞 上彩牋
山頭客遇 謫仙日
馬首人衝 大尹時
架雲作句 本天巧
鏤冰生花 無手痕
方知筆下 文章力
奪却人間 造化工
忽有好詩 生眼裏
安排句法 已難尋
西風何處 無詩料
水際山巔 亦去尋

翠西風烟飛 月魄
剪裁花草 弄春樵
得句可傳 千古意
搜奇正恐 百年身
字於拙處 工夫進
詩向淡中 滋味長
為人性癖 耽佳句
句不驚人 死不休
政使古今 傳不朽
不知身世 竟何求
詩星入腹 肝腸裂
吐作春風 百種花

孤山訪鶴 窮和靖
風雪騎野 老浩然
截來雲錦 花無樣
倒瀉珠胎 海亦貪
律令合時 方帖妥
工夫深處 却平夷
興來行過 山城去
詩典梅花 一樣清
傳得一窮 來歷好
淵明子美 不吾欺
寒蛩供料 成詩句
贏得清宵 一枕閒

結句

書簡

事書簡畢 尔雅釋名簡謂之畢。簡書編也。廣書版也。札機。咫尺書也。編之如齒相比也。○版長三尺。即牘也。

史廣武君謂韓信曰。君若使一介奉咫尺之書。青泥書。後漢鄧訓故吏知訓好青泥。封以遺訓。代兼金。選陸云愧無雜佩。寄飛燕。江淹袖中有短雲錦。李白青島海上來。今朝發何處。口。悔雲錦書為我。忽飛鴈足去。鳥去凌紫烟。書留箭窓前。開絨方。了笑乃是故人傳。鴈足

繫帛 前漢蘇武使匈奴。留十九年。昭帝與匈奴和親。武等詭足有繫帛。言武死。後漢使至常惠夜見使。教言天子射上林中。得鴈如惠。讓單于。單于驚謝。武等遂還。疎密得體。黃祖作書其輕重疎密各得。體。昔祖持其手曰。處士皆正得。祖意如祖腹中之欲言也。誤達空函。晉桓溫將以啟書告之。浩欣然。許焉。答書恐有謬誤。孫郎兒讀。典粵。荆州等開閉者十數。竟達空函。大作溫意。無吟簡繒。韓詩。伯符以示。彌正平。正平嘆之曰。如是之作。欲使孫郎帳下兒。讀之。耶。將使張子布見之。耶。無吟簡繒。書惟在簡。無吟。珠玉盈把。杜詩。夕客多。抵友朋。書素書。一凡。一東。虛適復。至紙長。要自。二。過讀。盈把。口占數百封。陳遵為河南守。嘗那須。滄海珠。入懷。如。寄崑崙玉。口占數百封。遺從吏。西召善書吏。於前。治私書。謝京師。親舊。幾。不為致書郵。晉殷羨為豫章太守。因致凡口占數百封。親疎各有意。千里猶對面。唐房玄齡書百餘函。行次石頭。皆投於水中。曰。沉者自沉。浮者自浮。殷洪喬不為致書郵。王筠父生沙陽。一日若人。机識。實宜。委住。每為吾。家書抵萬金。偶得家書。曰。抵得萬金。耳。又杜詩。烽火連。風月寄相思。周弘讓答王褒書。蒼鴈頓。三月家書抵萬金。時留尺素。清風明月。俱寄相。

思非拆簡可致魏王陵面縛水次遥謂司馬宣王曰卿直以拼
知非折簡賢於十部從事
可致故也賢於十部從事
曰得劉公一紙書賢於十部從事
賢於十部從事賢於十部從事
應齊壽於賢於十部從事
寥廓耶賢於十部從事

品題 何澄詩。人處遙隔楚天涯。特向窓前秉燭裁。紫塞未逢南
鴈至。滄江先喜北魚來。一城珍重千金值。万里驅馳尺素累。
多少邊郵驛旅客。錦雲飄下笑盈腮。

大意 尺素 驛梅 鯉魚 契闊 折簡 雲錦
萬金 塞鴈 魚篆 浮沉 空函 泥封

起句 憶從別去音塵杳。別了經年恨闊疎。
今日來書抵萬金。開緘頻讀寄來書。
歲華如箭正堪呼。

尾句 去憑遊客寄。魚无南過鴈。因人問消息。天上多鴻書。
來為問家書。看取北來魚。有使報何如。人間少鯉魚。

雲間千里鴈。燈火封函篆。沒羽江山遠。
足下一封書。江山隔鯉魚。來書日月遲。
兩處共瞻千里月。三洲水淺魚來少。
十年不寄一枝梅。五嶺山高鴈過疎。為寄去詩越倚樓。

結句 夜雨挑燈定何日。尺書封恨寄悠悠。
幾多纒纒故人情。聞說故園烽火隔。
杳无黃犬帶書來。

寄書

事實 尺素 尺素書長跪讀尺書。中竟何如。上有加餐食。下有長衣。

相飛翼 尺素書長跪讀尺書。中竟何如。上有加餐食。下有長衣。

故人在無海。可以寄遠書。不惜寄書遠。故人今在死。

品題 揚春熙詩。憶自長亭別。幾春送曉雲。樹絕交隣。相逢不見。
幾迴獨立增惆悵。兩地相思。泪滿巾。

僕陽傳寄。李天植。新登進士榜。國今日君名黃榜成。不
知彷彿阿誰英。文章功業中。无得多少。高官不記名。
又寄家書。一首新詩。愁裏得。數空白髮旅。
中添多番。歸信无憑。準便有鴻翎。筆怕枯。

大意 數幅 得信 海角 一函
經年 開讀 天涯 千里

起句

憑憶知心隔海濤

年時自寄音書後

燕鷗去處却天遠

聯句

殷勤特把錦牋裁

每向長江問鯉魚

欲寄知音問水居

結句

兩行燈下淚

雁卷三秋字

密信傳千里

起句

一紙嶺南書

魚沈一紙書

芳牋燦五雲

起句

離重蒙記憶

不書無寄處

青蠅為吊客

起句

塞外蟬丸在

中夜不眠時

黃犬附家書

起句

途中郵置且休沉

隨風雁翼脩程遠

百書不如一見面

起句

為客正當無鴈處

儲疾一升悲世事

幾日歸來兩鬢心

起句

故園誰道有書來

城愁三尺看君書

半客笑談嘲遠志

起句

千里一城勞驛使

七歲弄筆今八十

故人書札寄當歸

起句

莫教投汨石頭城

錦鱗吞釣不吞書

旅况無人肯遠書

新刊校正僖補圓機活法詩學全書卷之十二

仕官門

仕官

事實

瓜期左傳齊侯使連稱管至父戍葵丘曰瓜期巧官選潘安仁

事實

出昔讀汲黯傳至司馬安四至九卿未嘗不拙官冠涉乎知

事實

慨然廢書而嘆曰嗚呼巧誠有之拙亦宜然拙官冠涉乎知

事實

之年八徙官而一進階再免一除名一不拜職蝨處視

事實

遷者三而已雖通塞有違抑亦拙者之效也蝨處視

事實

傳獨不見群蝨之處樞中遊乎深縫蝨處視

事實

行不敢離縫際動不敢出樞中以為得繩墨也然葵丘火流

事實

焦城城都群蝨處於樞中而不能出也人之羅網舍隨楚主朝

事實

君子之處或內何異乎蝨之處視中乎人之羅網舍隨楚主朝

事實

宿未決宮見蜘蛛焉四面縈羅網有重觸之而死者退而不得

事實

出焉舍乃嘆曰吾生亦如是耳仕宦人之羅網也豈可淹歲於

事實

是掛冠而退五世尚書何尚之子偃偃子戢戢子昌寓昌寓

之後有僧綽號尚書侍郎侍中儉歷吏部尚書子承相儉父陳三世為國師僧虔為太子舍人沈約云自開闢以來未有爵位如王氏之盛也州縣徒勞人後梁竦曰大丈夫居世生當封侯書足以自娛州縣之職徒印壘壘綬若若石顯為中書人勞人爾後交疏無所受印壘壘綬若若石顯為中書人貴名宗結為黨友民歌曰牢耶石耶五鹿客耶印何壘上綬若石耶言其無官據勢

大意

網蟲 鵬程 青山 瓜期 五斗 折腰 揮徑 魚鉞

起句

石壁城頭夜軌閑 白頭忽有印壘壘 軟紅塵底晚催班 符牒如山退食遲

聯句

利祿蠅頭泥壁 心雖如筆正 髮雪人間壽 笑我青山故 年華蟻夢槐 孰為真漢相 腰金世上榮 鏡君茜綬新 未換銀青綬 却憶假齊王 徐行未必遲 詩書下旅亭 惟添雪白頭 頭童齒豁老將至 悠悠未了三千牘 十升入仕魚吞餌 婢膝奴顏常自傷 碌碌翻隨十九人 禮法抄人處處棍

榮傳銀帳花聯萼 彩動朱袍雁越行 鵬鵬變化絕離海 鸞鶴程途本在天 折腰五斗幾干直 去國十年三徑荒 一戰得侯輸妄尉 長身捧米愧侏儒 柴頭白日長安遠 着脚青天蜀道難 不信宦遊情味惡 半生常在別離中

魚佩玉鱗光照地 鵲銜瑞帶勢冲天 生計若為甲二頃 飢顏翻媿宦二千 百年身世愧安國 千古人情羨頡頏 致身要識真男子 涉世羞為賤丈夫 隨月有錢勝賣藥 終年無事抵歸山 相逢盡道休官去 林下何曾見一人

魚綴白金隨步履 鵲銜紅綬繞身飛 功名何似挽九牛尾 富貴真成一鼠肝 疾門舊說炎如火 陋巷今猶冷似冰 年光過眼如車轂 職事羈人似馬街 半白不差垂領髮 軟紅猶戀屣車塵

貴顯

事實

垂三組

前漢楊僕為主爵都尉又為榜三獨座

三獨座

前武帝特詔御史中丞與

司隸校尉尚書令會同並專依冰山楊匡忠權傾天下進士李

國忠以速榮頭豕曰爾輩謂揚公之勢可倚如泰山萬石君

君及四子皆二千石人臣尊寵舉集其門號為萬石君 鳴珂

里 張嘉貞為相。任金吾衛將軍。昆弟每上朝。一榻致勞。歲時宴

于家。以一榻致勞。出入禁闥。霍光擁昭立宣。出王帶金魚。開門

間誰來。無非御大夫。不入葉宰相。名德相望。與唐盛衰。世家之

盛。古未。門若沸羹。盛門若沸羹。海市蜃樓。天寶遺事。張昌義

之寵。請如市。甲第奢侈。李湛曰。此海朱輪十人。時乘朱輪者

十。貂蟬盈。劉向疏。今王氏一姓。乘朱輪華轂者。二三載。崔家

崔巖諫議大夫。其群從數十。冠蓋駟。相與弟太。鳳閣王

子。詹事。光祿卿。俱列。榮。號。三載。崔家。又張儉事。鳳閣王

氏。王徽曾祖。擇從。昆弟四人。曰易。從朋。從

言。皆自至。鳳閣舍人。人號。鳳閣王氏。

品題 氣繞巍峩。金闕瑞光浮。黃扉紫閣。類君止。華轂朱輪。任往遊。

若論人生真富貴。衣旒還羨帝王流。

大意 通籍 十輪 萬石 西戟 朱門 魚帶 要路 車如龍

聯句 錦騎朝隨。御鞍金腰。裏人。間真富貴。老。見。腰。金。重。

金蓮夜。賦詩。官。現。玉。蟾。蜍。座上。絕。神。仙。慵。便。枕。玉。京。

月射。霜。華。寒。列。戟。風。傳。鼓。角。霜。侵。戟。孟。涵。喜。氣。春。雲。暖。

燭。烘。影。暖。吹。笙。雲。捲。笙。歌。月。上。樓。簾。駐。秋。光。夜。月。明。

青雲。田。地。神。仙。府。幸。與。諸。侯。老。賓。客。東。山。坡。下。歌。仍。豔。

画。戟。譙。門。將。相。家。更。誼。光。祿。舊。池。臺。北。海。樽。多。酒。不。空。

新。築。沙。堤。兄。拜。相。籍。通。上。界。神。仙。府。城。上。赤。雲。呈。瑞。氣。

始。分。茅。土。弟。封。侯。身。見。甘。泉。侍。從。臣。眉。間。黃。色。見。歸。期。

事實

門閥 冠。雲。霄。世。卿 汲。黜。之。先。有。龜。於。古。之。術。選。選。華。胃。同。

事實

昌。萬。為。吏。尚。書。有。姓。閱。求。官。者。昌。萬。閱。君。是。七。葉。珥。貂。左。太。

事實

誰。後。對。曰。閱。子。鸞。昌。萬。掩。口。笑。曰。選。選。華。胃。七。葉。珥。貂。左。太。

事實

張。藉。舊。業。七。世。肉。侍。敬。癡。主。忠。信。自。著。勳。功。上。將。傳。國。後。嗣。

事實

世。名。忠。孝。比。世。累。世。宰。相。華。嶠。漢。書。東。京。楊。氏。累。世。宰。相。三。漢。

事實

肉。侍。何。其。盛。也。累。世。宰。相。名。族。然。表。氏。車。馬。衣。服。極。為。奢。僭。能。

猶魚有氷

蜀先主曰孤之有氷也

徒步至相

公孫弘起徒步至丞相開東閣延賢人

一言取相

前漢田千秋上急奏訟宋太子寃立拜大鴻臚數月為丞相無他材能術學特以一言寤意旬月取宰相

何相見之晚

丰父偃徐樂嚴安俱上書言世務書奏上召見三人謂曰公皆安在何相見之晚也

願垂名竹帛

後漢御禹傳光武安集河北禹拔冀北渡海禹得效尺寸垂功名於竹帛平光武因留宿問語

假羽翼

唐馬周遷中書令帝以飛白書賜之曰齊鳳冲霄必假羽翼朕朕之寄要在忠力

羅念庵詩早折天香第十枝冲霄必假羽翼

國史風流喜論詩玄德自來諸葛佐劉邦天授子房

頭垂竹帛功名在

萬戶封侯作帝師

魚水

龍雲 附驥 熊飛 前席 一言寤 萬戶侯 零落溝中斷 賈生前席待

龍雲

附驥 熊飛 前席 一言寤 萬戶侯 零落溝中斷 賈生前席待

鵬鷲在秋天

萬戶侯 聖代也知無棄物 白雪任教春事晚 青天終放月輪孤

無後張鷟犯斗槎

朱門食客自三千 屠龍使便謀身拙 盡誦功名與恩違

龍飛清渭逢何暮

後昔南山歌短褐 何時北闕請長纆 河北已無劉越石 新豐誰識駱賓王 傳將已為三傑躬 肯身尚為六木尚書

龍飛清渭逢何暮

後昔南山歌短褐 何時北闕請長纆 河北已無劉越石 新豐誰識駱賓王 傳將已為三傑躬 肯身尚為六木尚書

龍飛清渭逢何暮

後昔南山歌短褐 何時北闕請長纆 河北已無劉越石 新豐誰識駱賓王 傳將已為三傑躬 肯身尚為六木尚書

龍飛清渭逢何暮

後昔南山歌短褐 何時北闕請長纆 河北已無劉越石 新豐誰識駱賓王 傳將已為三傑躬 肯身尚為六木尚書

龍飛清渭逢何暮

後昔南山歌短褐 何時北闕請長纆 河北已無劉越石 新豐誰識駱賓王 傳將已為三傑躬 肯身尚為六木尚書

龍飛清渭逢何暮

後昔南山歌短褐 何時北闕請長纆 河北已無劉越石 新豐誰識駱賓王 傳將已為三傑躬 肯身尚為六木尚書

龍飛清渭逢何暮

後昔南山歌短褐 何時北闕請長纆 河北已無劉越石 新豐誰識駱賓王 傳將已為三傑躬 肯身尚為六木尚書

龍飛清渭逢何暮

後昔南山歌短褐 何時北闕請長纆 河北已無劉越石 新豐誰識駱賓王 傳將已為三傑躬 肯身尚為六木尚書

龍飛清渭逢何暮

後昔南山歌短褐 何時北闕請長纆 河北已無劉越石 新豐誰識駱賓王 傳將已為三傑躬 肯身尚為六木尚書

龍飛清渭逢何暮

後昔南山歌短褐 何時北闕請長纆 河北已無劉越石 新豐誰識駱賓王 傳將已為三傑躬 肯身尚為六木尚書

龍飛清渭逢何暮

後昔南山歌短褐 何時北闕請長纆 河北已無劉越石 新豐誰識駱賓王 傳將已為三傑躬 肯身尚為六木尚書

龍飛清渭逢何暮

後昔南山歌短褐 何時北闕請長纆 河北已無劉越石 新豐誰識駱賓王 傳將已為三傑躬 肯身尚為六木尚書

薦達

叙事 大戴禮記曰 古者諸侯貢士 一適謂之好德 再適謂之賢 三

適謂之有功 乃加九錫 不貢士 一則黜爵 再則削地 三而黜爵 地

去矣 爵地俱 削盡也 諸侯所以貢士於天子者 進賢勸善者也 天

子聘求之者 貪義也 治國之道 得賢則治 失賢則亂 故月令季春

之月 開府庫 出幣帛 周天下 勉聘名士 禮賢者 有貢者 復有聘者

以為諸侯貢士 庸者貢其身 盛德者貢其名 及其幽隱 諸侯所遺

龍飛清渭逢何暮

後昔南山歌短褐 何時北闕請長纆 河北已無劉越石 新豐誰識駱賓王 傳將已為三傑躬 肯身尚為六木尚書

失天子之所昭故聘之也周官小司徒之職三年則大比考其德

行道藝而興賢者能者此薦達之制歷代行之以至於今

賢 推賢 記儒行 儒有內稱不避親外舉不避庸 尚書曰帝曰疇

庶績順是 庶者將登用之也 誰能 亮采 輝曰咨四岳有能奮庸熙帝

齊 函 陳壽益部耆舊傳曰嚴羽字子翼仕郡功曹刺史辟為徒

辭者 庶取吏 利賓 周易曰明國之 翹車 逸詩曰翹車來招我

之 賁帛 漢書曰以安車蒲輪徵枚乘 勵有志 圖 雁統為部力曹

惡人多 校十得五 猶可以崇 迄世教使有志 自勵 推轂士 前漢

時宗 莊為大司農 每朝 侯上 問未嘗不言 天下長首 其 能

舉善 問焉 曰 羊也 可於是 羊舌職 死矣 晉侯 問 孰可以代之 曰

善矣 稱其 雖不為 誦立其子 不為此 舉其 備不為 黨建 一官而

薦白屋 韓子曰趙武薦四十六人皆就賓位其無私德者若此

舉直諫 漢書曰武帝詔丞相御史列侯中二千 進奇謀 魏無知

平 漢主以為 亞將 絳侯 讚之 云 盜嫂 受金 深王 疑以 證無知 對

曰 臣之所言者 能也 陛下 所問者 行也 今有 羣生 若已 之行 而

無益於 勝敗之 數 陛下 何 取用之 乎 今楚 漢相 拒 臣薦 之 行 而

奇謀之士 顧其 計誠 足以 利國 耳 盜嫂 受金 安足 疑也 貢天朝

虞預 晉書曰 何植 字 元幹 為 弘農 郡守 有 楊 器 生 薦宰相 趙穆

為 郡吏 植 一見 便待 以不 臣之 禮 遂 貢之 天朝 薦宰相 別傳

曰 汲郡 修武 趙君 年三十七 四 薦宰相 不就 元康 五年 本 式百

守 羊伊 以為 四科 之 貢 實 畫 國 表 遂 林 與 激 喻 以 光 歲 貢 式百

察 化九服 何法盛 晉中興書曰 桓溫 上 疏 薦 誰 秀 曰 竊 聞 巴西

類風 軌訓 蠶俗 幽 除吏八百 周 崔祐 南當 國 所 薦 基 推 其人 未

言 吾 幾 失 子 矣 言 之 不 可 以 已 也 如 是 遂 如 故 知 薦 士 如 薦 爰

凡薦士於天子。增輝日月。漢書陳蕃胡廣上疏薦徐孺子等。用言如轉環。

德行純備。若使權登三事。必能翼宣盛美。而增輝日月矣。山公啓事。書用人皆先密啓。

然後公奏舉無失。壽為冀州。桃李盡在公門。史張柬之有宰相。甄拔三十餘人。或為侍中。

材薦夏官侍郎姚崇。監察桓彥範。太平州敬暉。數人率為名臣。或謂仁傑曰。天下桃李盡在公門。仁傑曰。薦賢為國。非為私也。

願備一藥石。以自資也。肺脂腰腴。以供滋膳。參木芝桂。以防疾。病門下充。為味者多矣。願以小。人充備一藥石。反衣狐白裘。

仁傑笑曰。君正吾藥龍中物。不可一日無也。傳揚輿說。車騎將軍史高曰。以將軍之幕府海內所仰。而所舉。不過私門。寡各乳母子弟。富貴在身。而烈士不舉。是為狐白之。裘而反。

無惜齒牙餘論。園謝眺好獎人。才會稽孔閭。粗有才華。衣之也。無惜齒牙餘論。未為時所知。孔珪常令草議表。以示眺。嗟今良久。手自折簡。駕之謂珪曰。此子用之。則為王者師。為左。聲名未立。應共獎成。無惜齒牙餘論。曰如鑄者。用之則為王。非信。拾遺常與布衣張鑄為友。表薦之曰。如鑄者。用之則為王。非信。者師。不用則窮谷。一吏可玄宗。擢為拾遺。不數年。為將相。非信。無可與計事。必欲爭天下。非信。無可與計事者。

橫飛一鶚在秋天。誰識彌衡義氣堅。推轂只因求壯士。解駮曾為惜名賢。登庸佐主安邦國。舉善為官鎮郡鄩。非是秋門。馬得近君前。大意。推賢。鵬程。解駮。飛章。先容。公舉。聯句。老驥思千里。近水樓臺先得月。自古士逢知己少。饑鷹待下呼。向陽花木易為春。况今人覓薦書多。結句。楊雄更有河東賦。但用東山謝安石。為吾談笑艷胡沙。名譽。韓范。范仲淹與韓琦。必欲收復靈夏。邊上謠曰。軍中有一。天。韓范。西賊聞之。心膽寒。軍中有一。范。西賊聞之。驚破膽。天。下士。史新垣衍謝魯仲連曰。李北海。李邕早有重名。後生均望風。為李。黃金諾。前漢曹年生謂季布曰。楚諺云。得黃金百斤。不。北海。黃金諾。如季布一諾。足下何以得此聲於梁楚之間哉。草。木知名。張萬福為豫州刺史。德宗謂曰。先帝改爾名。正者。泰山。北斗。唐贊自韓愈沒。後其言盛行。景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

橫飛一鶚在秋天。誰識彌衡義氣堅。推轂只因求壯士。解駮曾為惜名賢。登庸佐主安邦國。舉善為官鎮郡鄩。非是秋門。馬得近君前。

大意。推賢。鵬程。解駮。飛章。先容。公舉。聯句。老驥思千里。近水樓臺先得月。自古士逢知己少。饑鷹待下呼。向陽花木易為春。况今人覓薦書多。結句。楊雄更有河東賦。但用東山謝安石。為吾談笑艷胡沙。

名譽。韓范。范仲淹與韓琦。必欲收復靈夏。邊上謠曰。軍中有一。天。韓范。西賊聞之。心膽寒。軍中有一。范。西賊聞之。驚破膽。天。下士。史新垣衍謝魯仲連曰。李北海。李邕早有重名。後生均望風。為李。黃金諾。前漢曹年生謂季布曰。楚諺云。得黃金百斤。不。北海。黃金諾。如季布一諾。足下何以得此聲於梁楚之間哉。草。木知名。張萬福為豫州刺史。德宗謂曰。先帝改爾名。正者。泰山。北斗。唐贊自韓愈沒。後其言盛行。景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

景星鳳凰。韓愈與李渤書。朝。學皆仰之。如泰山北斗云。

若景星鳳凰之始見爭先觀之為快名者公器白居易云古人云名者公器不可

時之富貴為造物者止無與之乎况詩人造物深已造物深已王壺清詩

命意而如陳子昂此社于美十拾遺而已造物深已陳博常戒

門人神放曰子他日遭逢明主名動天關名者古今美器造物

者深已之天地間無完名子名將有物賦之放晚節修飾過度

管產滿豐鎬名震四夷裴慶各震四夷使外國者其君長必

遂夜清節問唐年狀天子用杏其威名德望比郭

分陽常為為時重輕上度出入中外以身繫國之書名竹帛脩

天下重輕安危時之重輕者二十年書名竹帛脩

羨若乃書名竹帛銘功鍾鼎此雅三陽開泰國朝揚崇陽浦揚

量之所蓄豈典文章相妨害哉三陽開泰士奇為三陽開泰

暴公子威名前漢暴勝之為直指使素聞雋不疑三陽開泰海蓬吏

帶盛服至門上謁勝之開閣延請望見不疑容貌尊嚴不冠其

偉勝之躡履起迎不疑據也曰竊伏海濱聞暴公子威名禮矣

今乃承顏接詞凡為吏太剛則折太柔則廢威之以刑日下荀

施之以恩然後立功揚名末終天祿勝之敬納其戒日下荀

鴻鶴謂曰今日相見可勿作常語陸壘首曰雲間雀能向否

日曰下荀鳴鶴陸壘曰既開青雲觀日維何不張爾子快爾矢張

日前何遲日本謂是雲龍駭今乃山鹿野稷微等失是以必

遲下座盛名為難居唐房琯名儒多言房琯德器有王佐才

振原瑄以忠義自奮片言悟主而取宰相以良以過向見管夷

入者周遠所長遂無成功然盛名之下為難居也向見管夷

吾晉王導傳桓彝初過江且朝廷微弱憂懼不樂往見隱若

敵國前漢周亞夫為大將得劇孟喜曰隱若敵國也又吳漢

貌勇鷲有智謀諸將鮮能及者天下想聞風采霍光傳政自已出田夫野老皆

大章

泰山

敵國

威名

時輕重

于南人

天下士

野老知

韓范老身驚

西賊道亡身

金城

威名

時輕重

于南人

關 未開水府珠先見
不海曹城劍自燁

士望

有疎未識孔人舉
泰山北半千年在
柳氣春風四座傾

事實四豪 史列國公之魏有信陵趙有平原齊有孟嘗楚有春申
皆藉王公之勢競為游俠鷄鳴狗盜無不賓禮皆以取

重諸侯顯名天下搢堅而荆州李曰典韓荆州書白開天下談
游談者以四豪為稱首

但願識韓荆州何人景慕一至於此耶豈不以有周公
之風躬吐握之事使天下豪俊奔走而歸之登在門則去譽

十倍韓朝宗為荆州登龍門後漢李膺字元禮以聲名自高
州刺史故稱韓荆州

皇公 周多栖筠初封替皇縣子喜而樂人攻巴之風塵表物
短為天下士歸重不敢有所兵稱贊皇公云

神姿高徹王戎謂其如蓬林瓊樹即是風人物權術圖今天下
塵表物顧愷之稱其炭上清時壁立萬仞

文章司命人物之權衡經品題便作什士而君侯何惜階前
三天之地不使白揚肩吐氣敷地青雲耶此同太山比毛下

講官第一 國朝劉明山東寿光人性詞直善談經在講筵日久
當時講官稱為第一上雅重之呼為東劉先生云

品題 四豪門下客三千名望當時禮亦然珠履掛如鷺浪留表
列坐似蟬聯荆州久慕知風範東閣相期論蘭菊人物堪衡

賢黃不也須
月日評焉

大意 能門 荆州 權術 四豪 吐握
北十 東閣 接容 一顧 品題

取 士望堂堂丞相府 進堪負荷斯文貴 曩日士曾宗郭太
人材落落李膺門 退亦流傳後世名 他時戎欲傳陳蓋

干謁

叙事前漢書有謁者自書刺言爵里

事實 欠登門 姚鶴上田相詩似龍鱗已足唯是欠登門日裏照猶
濕泥中目未昏乞銀防蚊穴望禾寫金盆他日能為

甫公田累世通家 孔融字文舉十歲見李膺語門者曰
報此恩 君通家子弟膺問之融曰先君孔子也

人李老君同德比義而相 獻璞遭刑 文王止以為欺
師友則融典君累世通家 獻璞遭刑 文王止以為欺

文王死子武王立和復 獻王又以為欺 則其下足
王立和復欲獻之恐復被書乃抱璞而哭晝夜不止

以血城王遺問之於是和隨使獻王 携袂登門 唐子西上
士使剖之果得美玉乃封陵陽侯

之教授通義也有少年書生唐某者誦書不甚多屬文不甚工
碌上落落無可稱者一日持一軸書掉一寸舌草衣

圓幾名法 士望月三卷

九

九

九

登門危言高論不顧忌諱公一見而掃門求見

見其相曹參家

會無以自通常獨早掃齊相舍人門外舍人伺之得勃曰願見

曳裾王門前漢鄒陽曰今臣畫智異於易精極處則無國不刺

字漫滅後漢補衡尚氣剛傲好矯時慢物建安初自荆州北遊

文司馬達乎衙曰卿欲十處九遠詩上鄒陽都尉宋顯末殊無

後我從屠沽兒輩即十處九遠詩上鄒陽都尉宋顯末殊無

意後吉甫節判貴州有舉子吳武陵詣府投書並不見禮武陵

遂書前詩以獻吉甫厚賂之請為寢默詩云十處九遠

入堂舉矣後漢趙壹為郡計吏至京師造門無得

切伏西州承高風久因舉哭聲涉知非常人操瑟立齊門

乃起迺話大奇之壹為涉所稱各動京師

好羊有求仕於齊者操瑟而往立王門三年不得入叱曰吾

王不好何是加謂丁客罵之曰王好琴而鼓瑟雖工如

於瑟不工於琴齊也銀屏畫不開日門前正珠箔銀屏畫不開

詩卷却拋書袋裏夢見周公不青瑣高議韓魏公知中山李清

臣因題詩下壁云公子乘閑卧絳幃日衣老吏慢寒儒不知夢

見周公不曾說當年吐哺無魏公見之曰吾知此人又笑竟有

東床十謁九不開李觀初為大學官因上言後法不使出通判

之選徘徊自知不是封侯骨夜夜江山入夢來

羅洪先詩布衣寒士父妻京畿仰公侯未睡堂鳥既可識逢

伯樂彈冠終擬遇王陽紅爐頭借吹鬼力彩筆煩書進章

聯句

但得有錢留客醉誰能騎馬倚人門南遊澤國黃塵滿北望都門紫氣多

題句

月明風細水簾開特地移竿上釣臺遊子江南生事微五年京國夢柴扉

題句

先生德業素清修豪氣猶知蓋九州隋珠可忍輕彈雀糖餌何緣得釣魚

掃門

攘袂

登堂

拜塵

投獻

萬卷書生劉魯風

烟波千里謁文翁

平生苦困受寒涼

彩鳳終儀韶

韶

韶

韶

韶

韶

韶

韶

朱絃不入秦

秦

秦

秦

秦

秦

秦

秦

彩鳳終儀韶

韶

韶

韶

韶

韶

韶

韶

彩鳳終儀韶

韶

韶

韶

韶

韶

韶

韶

春生寒谷因吹律
花滿山城為向陽
平原未得收
北海想
但恐酒盡
煩公揮
不得巨
枉教人
世有南
定知下
倘得一
晨昏得
名利

石田惟恐流
銀漢何當
九夫雨露
一道風霜
無錢乞
名紙毛
屋家顧
檢盡寒
慚愧回
西風回
已知海
願借書
名利

結句

但恐酒盡
煩公揮
不得巨
枉教人
世有南
定知下
倘得一
晨昏得

石田惟恐流
銀漢何當
九夫雨露
一道風霜
無錢乞
名紙毛
屋家顧
檢盡寒
慚愧回
西風回
已知海
願借書

暖律頭吹
寒花望
俯仰文
喜看明
侯門見
三十年
嚴霜昨
誰念高
燕谷黍
豈無王

名利

事實

李錐 李崇字世哲性傾巧善事人
亦以貨賂自
世號李錐
富貴有米誰不願
人六國筒姓名香

品題

富貴有米誰不願
人六國筒姓名香
富貴有米誰不願
人六國筒姓名香

大意

鴻毛 蕉鹿 世味公紅塵
人情 青史

起句

名利醉心濃似酒
貪夫衮衮死紅塵

聯句

蝸角虛名小 世味刀頭蜜
鴻毛俗慮輕 官情蕉葉鹿
門外紅塵客 人生水上萍
城中白日忙 相爭兩蝸角
半身利路人及虎 所向利中生計較
一利名餌吾其魚 肯於名上着工夫
蝸角虛名空有 蠅頭微利何須羨
爭如泉石一身閑 不及書中祿萬鍾

結句

蝸角虛名空有
爭如泉石一身閑
蠅頭微利何須羨
不及書中祿萬鍾

放逐

事實

度鬼門 曾直答劉文學人鮮雍中危萬死鬼門關外更千峯
其南多瘴癘夫者罕得生還李德裕與崔州云下
夫丁萬里千知千不還崖州在何處生度鬼門關
既放行吟相澤畔為死書空咄咄
懷沙賦沉汨羅而死
空作咄咄惟徒處不毛
事四字而已
自內職出始安有障屬之嘆罷政守荆州有拘囚之思身出還
既一失意不能堪矧華人旅必致醜地然後快意哉議者以

事實

度鬼門 曾直答劉文學人鮮雍中危萬死鬼門關外更千峯
其南多瘴癘夫者罕得生還李德裕與崔州云下
夫丁萬里千知千不還崖州在何處生度鬼門關
既放行吟相澤畔為死書空咄咄
懷沙賦沉汨羅而死
空作咄咄惟徒處不毛
事四字而已
自內職出始安有障屬之嘆罷政守荆州有拘囚之思身出還
既一失意不能堪矧華人旅必致醜地然後快意哉議者以

國朝發名法

世臣明士卷

上

為開元良臣而卒無嗣豈使心朱

天譴鬼謀 李德裕 潮州著

怒除責大重 雖他美莫能贖耶 述雜序數十篇號
白窮愁志其論真數予自荆楚保釐東周路出方城有設者謂
方城長曰此官居守後二年南行百里則知憾予者必因天譴
藩予者為鬼謀雖 狻鳥為伍 唐吳武陵與孟簡書曰柳子厚
抱至冤固不為恨 狻鳥為伍 唐吳武陵與孟簡書曰柳子厚
拾獨子厚與 青蠅為吊客 吳翻放蕪南方自恨疏餘骨休不
狻鳥為伍 獲罪當長沒海隅生無可與
語死以青蠅為吊客使天下
無一人知已者足以不恨

品題

唐高適詩 差君此別意何如 駐馬嘶 孟 問 蕭 居 巫 峽 帝 德 教
行 淚 衡 陽 歸 鴈 幾 封 書 青 楓 江 上 秋 天 遠 白 帝 城 邊 古 木 疎
聖代即今多雨露 暫時分手莫
莫躊躇 此送友人 賤 嶼 中

大意

去國 三 賦 逐 客 澤 畔 書 空 天 不 悔
投荒 孤 忠 騷 人 海 隅 抱 恨 生 不 悔
憔悴易 靈 均 力 犯 番 蓬 殺 共 危 抱 恨 生 不 悔
非 謔 作 逐 臣 遠 投 魍 魅 獨 為 首 抱 恨 生 不 悔

聯句

落日獨歸鳥 生涯投嶺傲 草色依征路 得罪風霜苦
孤舟何處人 世業隨邊塞 鶯聲傍逐臣 全生天地仁
青山數行淚 汗島同三 鶯 聲 傍 逐 臣 全 生 天 地 仁
滄海一窮鱗 天涯酒一罇 身落南荒瘴海邊

去國 一身輕 餽 葉 地 惡 九 嶺 黎 地 火 丁 身 去 國 六 千 里
高名 了 占 重 於 山 天 濤 兩 腋 玉 川 風 萬 死 投 荒 廿 二 年
餘平 但 知 才 可 忌 班 行 失 上 國 輕 重 事 可 語 入 酬 對 易
先生 當 以 去 為 榮 道 路 不 言 心 是 非 面 無 慙 色 去 留 輕
放 關 筆 下 閉 風 月 臨 路 加 食 好 自 愛 謀 身 拙 為 安 蛇 足
收 斂 胸 中 舊 甲 兵 平 居 握 手 更 何 言 報 國 危 自 探 虎 窟
朝 驅 旌 旆 行 時 令 愁 看 北 渚 三 湘 客 自 倚 聖 明 容 直 道
夜 見 星 辰 憶 舊 官 惡 說 南 風 五 兩 輶 木 其 憔悴 死 荒 陞
人 未 敢 歸 胡 北 路 印 文 生 綠 經 旬 命 自 倚 聖 明 容 直 道
天 教 奪 盡 浙 西 山 現 匣 留 塵 盡 日 封 肯 教 天 子 不 生 還
不 待 言 年 公 議 定 端 能 飽 喫 新 州 飯 天 為 吾 皇 扶 社 稷
漢 庭 行 召 賈 生 還 在 處 江 山 足 護 持 肯 教 天 子 不 生 還
九 死 南 荒 吾 不 恨 逐 客 不 妨 員 外 置 天 為 吾 皇 扶 社 稷
茲 遊 奇 絕 冠 平 生 詩 人 例 作 水 曹 官 肯 教 天 子 不 生 還

退休

事類

致事 記曲禮 大夫 致事 懸安車 漢 薛 廣 德 乞 骸 骨 賜 安 車 駟 馬 歸

三宜

故車懸軍 不 三宜 休 司 空 圖 居 中 條 王 官 谷 有 先 人 田 遂 隱 不
歎 於 漢 相 出 作 亭 名 休 休 曰 量 才 一 宜 休 操 分 二 宜
孫 養 而 贖 一 宜 去 孔 殘 字 君 嚴 穆 宗 立 以 老 自 乞 愈 曰 公 無
三 宜 休 留 資 何 持 而 歸 曰 吾 負 一 宜 夫 尚 奚 願 子 言

退休 記曲禮 大夫 致事 懸安車 漢 薛 廣 德 乞 骸 骨 賜 安 車 駟 馬 歸

祖道東門前漢疏廣與兄子受為太子師傳宣帝時上疏乞骸骨皆許之加贈黃金二十斤皇太子贈以五十金公卿大夫設祖道供帳東都門外送者車角巾歸里書既定遺事

當角巾東洛歸故里為容棉之墟以白解印賦謝靈運詩彭澤令

士而居重位何能不以盛滿受責乎謝靈運詩彭澤令

折腰向鄉里小兒平遂解印去謝靈運詩彭澤令

而歸俄問賦挂冠東門王莽居攝子宇諫莽殺之逢萌謂友人

門將家屬逐謝靈運詩彭澤令

高其志國朝羅倫江西永豐人成化進士擢為首選致仕生

終學者咸稱一峯先生後武宗教皇帝追謚文毅焚章長嘯

吾乃焚章長嘯而去杜甫贈栢李士詩碧山學士焚銀魚

陽五老宋馮平與村街王煥畢世長朱貫成以著德掛冠優游

寒不復有經濟意裴度脫節頰浮沉為自安許不復有經濟意

文章把酒窮書夜相歡不問人間事

品鮮印投簪脫紫纈歸家結社樂平安興來筆下敲詩句閑去

何須較漁唱鷗盟且莫寒

解印焚章致事晚節鷗盟綠野自由

大意掛冠稅駕賦歸歸休魚釣東山真樂

起句辭老競抽簪半酣扶起問司徒天下人情謾自勞

先尋水竹眉南村少時豪氣愛陳登斗印輕拋繫肘金

南比東西無所羈老去真成有髮簪故園風物動歸心

未滿水先退退想裴公野避賢初罷相

閑居勸著潘安賦披中偶悟黑蟬穴歸來掌上忘形友

高卧寧知謝傅心腰下遽揜金虎符名利場邊稅駕人

東郭風烟宜蕙帳重碧盃中天更大簿書叢裏先抽首

南山伎鶴識綸巾軟紉塵裏夢初收鼓笛場中少息肩

胸懷平日窓八達
伎倆只今龜六載
所存舊業唯清白
不負明時有朴忠
會撮指天容我願
鳴夷盛酒盡君歡
人思狡兔藏三窟
我願白鷗同一波
是非莫問門前客
得失須憑塞上翁
歸去松筠三徑足
倘來軒冕一毫輕
欲全晚節當如此
不待秋風始見機
名利重心成老懶
溪山招隱益歸休
謀生待足何時足
未老得閑方是閑
瓶底剩儲元亮粟
杖頭高掛老坡錢
盛衰閱過君應笑
龍辱年來我亦平

七不堪堪堪自
三宜休外更何求
早避喧煩真得策
未逢榮享好收功
後晉年園驛晚鐘
向來軒冕等秋毫
萬事真須稱好好
百年端欲賦休休
白砂碧玉味方永
黃紙紅旗心已灰
居卜剡溪明主惠
望迷烟樹老臣心
官滿便尋垂釣伴
家貧已用賣琴錢
竿頭積鼻清貧在
夢裏槐安舊習空
白日不教書管領
荒園先放水回環
醉累三升王績酒
閑消幾局謝公棋
象管豈同青竹杖
豕冠爭勝白綸巾

東山比日不高臥
北闕欲誰通謝章
伏樵老歸干里驥
白雲閑釣五溪魚
雲泉是處堪為樂
軒冕從來只累人
塵全恐驚黃鶴舉
煙波不負白鷗盟
一時人物存公論
萬里雲山入浩歌
肯將日月供奔走
且放溪山入笑談
戈甲叢中休戰鬪
利名場上謝奔忙
林曲風烟供醉筆
渭川魚鳥識儒衣
身閑當得真天爵
官散無要即地仙
自拋官後春多醉
不讀書來老更閑
五車書已留兒讀
二頃田應爲鶴耕

結局

借問大君紅腐米
猶如故國翠微山
徒勞人取一州職
曠去來兮三徑荒
亡約病身拋甲綬
不辭門巷借漁樵
多少玉堂嘉話語
風流應對謝東山
洛陽處處春如錦
晝日神仙陸地行
拂衣明日西溪去
且放雲山入浩歌

遺愛

數調漁歌新事業
一篙煙雨舊生涯
年到林泉能放曠
今地替綬尚盤桓
可以山中閑日月
帽巾藜杖引雲孫
西花東封都了畢
好來相伴赤松遊
人間桃李栽培滿
換得溪南十畝陰

門前立使修書速
花下留賓壓酒忙
清閑几席同神悅
山野巾裘謾隱倫
欲得舊軒樓蘭劍
買得黃牛教子孫
太平觸處農桑滿
贏取間闌白髮翁
脫却朝衣便歸去
青雲不似白雲高

聖賢

甘棠國蔽芾甘棠勿剪勿伐召伯所茇
日我故桐鄉吏其民愛我必葬我於野哭
桐鄉後世子孫奉我不知相鄉民
商人罷市而哀流涕
三月不聞琴箏之聲
留犢黃犢牛方歲餘生一犢及去在留之
日是爾土所
罷市羊枯死南州為之罷
生由此知名
罷市市巷哭者聲相接
修湖湖築堤民懷其遺

前漢

朱邑病
且死屬其子
子產相鄭卒國人哭
於巷農夫傾郊野哭
蘇子瞻知杭州修
湖築堤民懷其遺

愛下馬陵西京雜記董仲舒墳在長安植桑宋范純仁為襄陽

公因民有罪情輕者使植桑於忠清君 亳州人為宋時道生立

生創祠呂誼為荆州自景德以來慶方的庶十人誣最有童不

歌謠秦五刑大夫百里奚卒秦人流畫像事之姓罷市而往吊

轍漢侯霸字君房為臨淮太守所去見思前漢循吏傳漢世

延壽尹公羽歸延年張敞之屬皆稱其位王成黃霸朱邑龔遂

馬截唐姚元崇牧荆州受代日民擁馬首庶道不使去乘馬

兒賦鞭笞皆截留之阪云東民莫拔援歌管莫凄由紛紛等

何時後來劉陶為順陽長病免人歌之曰悵然立遺愛頌廣人

人指樹而懷吳湊為京兆尹官街樹樹所司置榆以植之湊

樹而懷之日榆非九衢之物丞命易之以槐及槐陰成而

品題當年卓魯與龔黃美政清高姓字香身去立祠崇正道名存

懷召伯詩人敬帝詠其棠甘棠借冠云思畫像噴淚碑

大意合郡留無計相卿留侯遺愛敬神下馬凌

起句勿勿奪父師豈知夫後久猶思攀轅情久駐頭借冠恂

聯句人猶敬子孫截盤疾頰垂重留侯霸墓

三年不改來時政百姓咸懷去後思

會飲

品題僕陽傳飲國子監李仲伍詩折簡從雲至我行即不羈蒲

觴隨舊例艾虎聽新詩壘燭月初午臨毫字問奇由來重然

見交期諾千古

士冠月七卷 十五

漢陽傳飲贈揚崇詩 千里琴書遍 名山待爾迂 梅花當戶立 野
鷄隔池呼 送酒有魚婢 以談多木奴 會看飛雪窗 前日照吾

志氣門

志氣

事實 棄繻 前漢 終軍 西游 入關 閱吏 授軍 繻軍 曰 丈夫 西游 終不
縑生 投筆 後漢 班超 字仲昇 有太志 家貧 為官 備書 久 芳苦 輟
也 立功 異域 以取 封侯 濟世 團段 秀實 及長 沈厚 當雄飛 趙溫 曰
安能 久事 筆硯 乎 能雌伏 安事 一室 後漢 陳蕃 室有 糞不除 薛勤 曰 孺子 何不
能 掃地 乎 安事 一室 酒掃 答曰 大丈夫 當掃除 天下 安事 一室

乎 飲馬 河洛 圖 諸葛 亮 慨然 有 可謂 有志 詩曰 天覆 吾地 載吾
天地 生吾 有意 無不 然 粒升 天衢 不 然 鳴珂 遊帝 都 攬 纒 有
若 然 不 貴 不 升 去 空 作 身 藏 一 丈 夫 可 謂 有 志 之 士 也 攬 纒 有
澄清 之 志 後 寇 滂 為 清 詔 使 登 車 攬 纒 此 中 最 是 難 測 地 晉 顧 和
為 從 事 月 且 當 朝 停 車 未 入 周 顛 遇 之 和 方 捫 齋 夷 然 志 士 朱
不 動 顛 指 和 心 曰 此 中 何 所 有 和 曰 此 中 最 是 難 測 地 志 士 暉
字 文 季 家 世 衣 冠 性 矜 嚴 有 大 志 陰 就 往 候 之 不 見 致 禮 不 受
就 曰 志 士 也 勿 奪 其 節 明 帝 朝 為 臨 淮 太 守 人 歌 曰 強 直 自 遂
南 陽 朱 季 吏 畏 安 事 筆 硯 來 護 兒 有 太 志 常 曰 太 太 夫 當 為 國
其 威 民 懷 其 惠 安 事 筆 硯 討 賊 安 能 區 區 專 事 筆 硯 乎 隋 文 帝

員 故 活 法

士 宦 明 上 卷

六

朝封榮 懸旌萬里 陳湯字子公志氣軒昂漢元帝時同甘延壽

國公 矯制斬郵支 誰向曰懸旌萬里之外揚威崑

山之外自漢以來征伐 乘車出關 郭丹字少卿每懷濟世之志

方外之將未之有也 後更始徵為諫議大夫使 仕必宰相 郝處

乘使者車終不出關 乘高車出關未平中拜司徒 俊少

持節安集南陽果乘高車出關 未平中拜司徒 俊少

好學嗜漢書嘗與高智周等各言所志 相曰大夫惟無仕仕必宰相及可

無心事室中未許風雲滄海鷓鴣直教雷雨起蛟龍 非徒投筆

君休笑異域 封侯建大功 乘風 雄飛 高斗

起句 浩然不屈是男兒 氣衝看匣劍 肝膽一古劍 勲業頻看鏡

聲撼山嶽動 氣貫半生 頽脫撫囊錐 波濤兩浮萍 行藏獨倚樓

聯句 司馬空題柱 七朝殿隱成文霧 萬里思乘破浪風 男子要為天下奇

終軍敢棄繻 清名已在雲霄上 逸氣還充宇宙門 我欲蓬萊頂上行

結句 安得倚天劍 大丈夫四方志 功名不到書生手 坐撫吳鉤惜壯圖

事實 空洞腹 周顛王導嘗拍其腹曰此中何物 萬頃波 郭世說

宗至汝南造素奉高車不停軌鸞不輟輒請黃叔度方爾旬信

宿人問其故林宗曰叔度汪汪如萬頃波澄之不清漉之不濁

品題 吾海叔度汪洋萬頃波風自胸中噴吐傲山河掌上玉推

人龍本是璠璣器 與皇家理四時 二女得之如何有 萬鍾於我亦何如

事實 牛心炙 王愷有牛名八百里駁常望其蹄角王武子

與射賭得之趣左右探牛心作炙一啖而去 韓都御詩獨對湖山酒一觴醒時歌舞醉時狂丹砂不是

品題 年藥紅白難消兩鬢霜身後碑銘空自好眼前傀儡為誰忙

歲名去 卷之七

人生得意須行樂
光景無多有散場

大音

聯句

醉袖舞雩天地窄
詩情任壓海山平
牛腰穩跨竹林前
勁材不啻千鈞弩
豪氣真成百尺樓
詩作馬蹄隨筆走
獵酣鷹翅伴能飛

醉舞 故浪
得意江山詩句健
忘懷日月酒杯深
石鼎夜聯詩筆健
布囊春醉酒錢餘
醉裏功名雙鞞
醉中天地一遠廬
形如摘木因詩瘦
眉鎖蒼山為酒開

雲 酒錢龜
陳雷膠漆輕餘子
莽漢風雲屬少年
李白形骸雖放浪
井州豪傑未凋零
干鍾美酒談鋒底
四海英遊氣槩中
逆旅道途詩思若
元龍湖海酒盃深

豪侈

事實

肉陣 關元遺事揚國忠冬月邊婢妾肉陣
富窟 王元寶以金銀壘為屋以銅線穿錢登花徑中貴泥彈金丸
彈金丸 西京雜記韓嫣好彈以金為丸雨不濕時名為富窟
錦步帳 石崇財產豐積
富窟 王元寶以金銀壘為屋以銅線穿錢登花徑中貴泥彈金丸

借羊秀之徒以奢靡相尚懼以筋沃金崇以蠟代薪借作紫綵步帳四十里崇作錦步帳五十里以敵崇塗屋以椒借作赤石脂武帝常以珊瑚樹賜愷高二十尺許愷以示崇崇以鐵如意擊之應手而碎愷怒以為疾已之寶崇曰不足多恨命左右取珊瑚高三四尺者六七株如愷此者不可勝計愷恍然曰日失晉紀

漿酒蠶肉 爾選鮑宜疏陛下多賜董賢使奴從賓客一食萬錢
玉鳳銜鈴 洛陽伽

五美三萬 洛陽志李德

烹龍魚鳳 瑠鐘琥珀濃小

酒池肉林 圃繼紂尚豪侈以酒為池戀肉為君

胡椒八百斛 元載受

紅錦地衣隨步趨 有詩曰簾日已高三

胡椒八百斛 元載受

胡椒八百斛 元載受

胡椒八百斛 元載受

胡椒八百斛 元載受

文透金鈿次第添香紅錦地衣隨步趨佳人舞
徹金鈿留酒惡時將花藥喚人聞別殿笙歌奏
肉臺盤南唐孫晟

家富驕每食不設刀案使象妓
各抱一器環立而侍魏肉臺盤宋陶穀李士有妾本党
銷金帳宋陶穀李士有妾本党

取雪水煎團茶顧妾曰常家有此景否姬曰彼粗人安識此
景但能於銷金帳下淺斟低唱飲羊羔美酒耳穀亦大慚
步生蓮花齊東昏侯好奢侈以黃金鑿成蓮花列之於地冷妃

步生蓮花潘主奴行其上曰步步生蓮花王叔潘妃小字也

牛僧孺詩曰秋月春風幾度歸江山猶是艸
居非東昏舊作蓮花地空想曾披金縷衣

品題 驕人富貴尚豪華晉代公侯有幾家王鳳衡鈴棋綺戶金龍
出飾此官衙珠簾綠樹真堪玩綉勒金鞍又可誇養有東昏

侯更侈潘妃
足下踏蓮花

大意 錦帳 金鈿 綉勒 珠簾 金丸 金鈿 漿酒
魚龍 羅帶 玉簫 金鞍 綵樹 王軸 翠袖 珠簾

金埒 銀山 連錢 寶金勒 綉勒金鞍 馬頭金匣 駝背錦模糊

起句 擊落馮銀鑿 綉勒金鞍 馬頭金匣 駝背錦模糊

綉被濃香入夜薰 連錢青錦噴迴文

句 桑落氣薰珠翠煖 柘枝聲引管絃高 鐵馬慣牽 邀上客 綉鞵 駝背 走銀車

綉樹轉燈珠錯落 鳳凰嬌度低眉曲 舞香瑞獸金三尺 屏間 珮響 蕙歌 放

鸚鵡連飛燕申盃 歌殘 翡翠 樓頭 月 青障 步殘 蝴蝶 草 幕外 刀光 立 從 官

醉盡 平陽 夢裏 雲 沉水 薰衣 日 翠 堂 錦囊 玉軸 三千 幅

紅珠 斗帳 櫻桃 熟 簾幕 垂 珠 光 不 夜 翠袖 金鈿 十二 行

結句 金鈿 綠 雀 護 千 花 林花 剪 綵 景 長 春

實 一覽成誦 謙謙士四歲能屬文觀書一覽即成誦唐開元中

業號蕭 三歲能誦 國朝姚夔字太章生而穎異失怙母屠未人

夫子 三歲能誦 無教三歲口授孝經論語八歲能書十歲受

正統鄉試第一仕至吏部尚書謚文敏 我家能文 楊南大歲受

受詩易後兄昱器之日此兒顯赫未落已是我家能文 史書十歲

十年當求之千里之外采太宝初拜天子少保封開國公下筆

百紙 國朝孫炎下筆一掃百帝負氣蔑視章句儒門問半面

應奉字世叔嘗過彭城相表賀賀時出行閉門造車山夢入鑿

於內開扇出半面視奉後數年見車匠於路識而呼之夢入鑿

心唐賀知章少年未通夢人持巨鑿破其筭事逆答後莫揚修

出行筭曹操有問外事乃逆為答記較守舍兒若有八疑宿

出依次通之既而果然操恠其速察之知狀乃忘宿

構魏王素累拜侍中博物多識問無不對善目覽手答宋劉穆

朝政外供軍旅史斷如流事無壅滯目覽詞左方右圓隨劉炫

明視日不炫左手畫方右手畫圓口分口占授書舍人性沉敏

時顏師古為侍郎詔詰皆所草定及得文本而敏速過之

或策令叢遽敕吏六七人需筆立侍分口占授咸無遺意下筆

成章魏陳思王植善屬文太祖曰汝倩人耶植曰言出為論下

賦植授縱橫敏贍朱昇為散騎常侍掌机密其軍旅謀議朝

簿領諮議詳斷填委於前屬辭落擢毫擲簡韓詩崔侯文章若

不盡朝為百賦猶鬱怒暮作千詩轉連緊推毫擲簡自不十歲

頃刻青天浮海蜃才豪氣極易語言性往蛟老雜虻蚓

通五經朱善南自豐城人少聰穎好學十歲通五經大義能文

集行吏承寫不給陸贄後德宗狩奉天机物填箱書詔以數百

千世給李士閣筆不得讀書五行俱下後漢應奉少聰明自童及

下而費濡然有餘天曹更行四十二縣錄囚徒數百千人及

書五行俱下為郡天曹更行四十二縣錄囚徒數百千人及

上天看當代子房劉基字伯溫聰明絕人九一公文兵法性理通

紅白上天看當代子房劉基字伯溫聰明絕人九一公文兵法性理通

朝國師稱當代子房

大章

敏贈

才豪

刻燭

七步

脫懸

左方右圓

目數耳聽

思敏

揮毫

五行

通泉

目數耳聽

思敏

揮毫

五行

通泉

目數耳聽

思敏

揮毫

五行

通泉

目數耳聽

思敏

揮毫

五行

起句

擗管殊非脫賦同
蠅頭蠶尾疾如風

聯句

敏捷詩千首
賦作又手速
飄零酒一杯
文如翻水成

清談落筆下千字
白眼羸觴三百盞

結句

倚馬萬言端可辨
何處紅日下丹墀

識鑒

事實

水鑑

司馬徽字德操清雅有知人之
鑒龐德公嘗謂德操為水鑑

水鏡

置樂廣有知人之
鑒衛瑾曰此人之

水鏡見
之瑩然

青白眼

置阮籍善為青白眼
禮俗之士以白眼待之

金背鏡

高倫為吏部
侍郎善鑒人

物帝賜金背
鏡况其清鑒

此是君座

何玄嘗請主尊
也及導蕤文糸錄尚書

事
救時宰相

國朝于謙自少肯相與常僧蘭古春見而尚之曰
此他日救時宰相書過自成誦為文雲行水湧官

至太
生子必相

楊嗣復字繼之於陵始見識於韓臯妻以其
女謂其妻曰吾聞人多矣後貴且壽無若生者

有子必位宰相
既而生嗣復混撫

貌有反相

張九齡曰祿山
皆曰名位皆喻於父楊氏之慶也

卿勿以王夷甫識石勒耶在害忠良竟免

外陋內險

郭子儀
病甚百

其故曰彼外陋內險左右見必笑使後得權吾族無類

行偽

而堅

記開錄神宗將用王介甫訪於大臣爭稱舉之張安道時
為承旨獨言安右言偽而辨行偽而堅用之必亂示下

婿有奇表

陶謙年十四蒼梧太守奇之許妻以女謂
夫入曰彼有奇表長必成材後封溧陽侯當為棟梁

用

杜如晦隋世預吏部選侍郎高孝基異之曰公有應變之
才當為棟梁用房玄齡曰如晦王佐才也必欲經營四方舍

如胸無與
其功者

終當坐此床

李靖在僕射楊素推其床
謂之曰卿終當坐此床

一見大器之

却掃編蘇子容始為南都從事時杜正獻方致仕居南都一見
公大器之為道其平生出處本末甚詳曰子異時所至亦如老

夫願自愛蘇
公唯唯謝之

誤蒼生者此人

王衍常造山濤曰嗟嘆良久既去
目送之曰何物老嫗生此寧馨兒

然誤天下蒼生者
未必非此人也

為龍蛇不可測

李密時東都賊翟讓聚黨
密破之王世充聞之曰

密天資明決為龍
為蛇固不可測也

恨不見聳壑昂霄

隋高孝基稱知人見房杜
曰黃為偉器但恨不見其

聳壑昂霄
霄耳

品題

人生天性在良知。洞鑑胸襟適所宜。真偽可從心上察。賢愚應在眼中窺。何充偉器連王導。如悔高才動嵇康。莫忘金背鏡。權衡輕重任。施為。

大意

藻鑑周知。權衡棟梁。真偽月旦評。澄波洞鑑。水鏡冠冕。賢良青白眼。眼底神珠出。水鏡印殊人物。大鵬視鷄。思莊子胸中水鏡明。青松不換雪霜心。頑韋截珠。懷下和。

曠達

事實

風月主人。海録碎事。為蜀歐陽柳守嘉州。曰青山綠水中。為二千石。作詩飲酒。為風月主人。豈不健哉。衣食無虧。便好休。人生世上。一蟬蟻。石崇不享千年富。韓信空成十代謀。花落。丁春藹。又恨菊開。九月鳴。悲秋。山沐雅趣。

多詩酒。可。榮封萬戶侯。

大意

樂天修潔。鵬鷄卷舒。知命退恬。魚龍出處。富貴人間夢。形骸俱夢蝶。名利兩亡羊。枯木等形骸。百年都付費。隨人作計。魚千里。白雲舒卷。元無意。一笑忽忘形。知命無憂鳥。一天浮世興衰自有期。

聯句

無錢可作身後計。平生不作銀眉事。酌酒且簪頭上花。天下應無切齒人。與世周旋惟酒可。生前富貴草頭露。隨時憂樂以詩鳴。但得有錢留客醉。身後風流陌上花。莫憂世事兼身事。也勝騎馬傍人門。須看人間比夢間。爭如刘阮醉陶。

結句

知幾。但得有錢留客醉。王謝功名有遺恨。須看人間比夢間。也勝騎馬傍人門。爭如刘阮醉陶。

知幾

事實

曲突徙薪。漢書淳于棼。曰客有過主人者。見其竈直傍有積。患主人。默然。俄而失火。隣里救之。得息。於是牛酒謝其隣人。灼爛左於上行。而不錄言。曲突者。入謂主人。曰。今論功而請賞。言曲突徙薪者。亡。恩澤。然。願。棟焚燕雀。顏不變。秦始伐趙。魏者。為上客。主人悟。而置酒請之。棟焚燕雀。顏不變。秦始伐趙。魏皆以為。秦伐趙。於魏。便子順。曰先人有言。燕雀處屋。子用相哺。响响然於樂。自以為安矣。竈突炎上。棟主將焚。燕雀顏不變。不知我之及也。趙破。則患將及也。子以人同燕雀乎。

品題

張子房詩。太定山河四十秋。人心不似水長流。受恩。世間多。少忠良將。服事君王不到頭。

大意

張子房詩。太定山河四十秋。人心不似水長流。受恩。世間多。少忠良將。服事君王不到頭。

品題

張子房詩。太定山河四十秋。人心不似水長流。受恩。世間多。少忠良將。服事君王不到頭。

大意

鷓鴣舞 著龜易見 鴻翔 燕雀焉知

曲突徙薪 惟頭爛額

聯句

漢業未興 王霸在 秦軍總散 魯連歸

吳客謾陳 豪士賦 相漢初笑 越人方

結句

曲突徙薪 人不賞 海邊今作 釣魚翁

知音

事實

明珠暗投 鄒陽請明月之珠 夜光之璧 以暗投入於道 莫不

而為萬乘器者 以左右先為之容也 青萍結綠 李白上韓荆州書 若賜觀 仍請

萍結綠 長價 仲於知已 爾詩外傳 嬰嬰之晉 至中 年見 弊冠反

為者 對曰 我越右人也 為人 臣僕 於中 年見 仗將 歸 嬰曰 何為

侯耶 對曰 吾身不免於凍餒 吾是以為僕也 嬰曰 可得而贖乎

對曰 可 遂解左 驂而贖之 因載而與之 俱歸 至舍 不辭而入 越

石父立而請 絕 晏子使人 應之 曰 子何絕我之暴也 石父曰 士

屈於不知 已者 吾三年為 臣僕 人莫吾知也 今子贖我 以為知

已矣 今不辭而入 是與 臣僕 我者 同也 晏子出 見之 曰 向也 見客

之容 今也 見客 之 驥遇伯樂 長鳴 戰國策 驥 服 鹽車 而上 太行

心 遂以為 上賞 伯牙絕絃 伯牙 下車 攀而泣之 驥於是 俛而噴 仰而長鳴 聲聞

于天 若出 金石 者 何也 彼見 伯樂 之知已也 伯牙 絕絃 伯牙

鼓琴 意在 高山 鍾子期 曰 善哉 巍巍乎 若泰山 俄而 志在 流水

子期 曰 善哉 洋洋乎 若流水 子期 死 伯牙 破琴 絕絃 終身 不復

鼓琴 以為 世 璧與石 列 粹詩 圭璧 無人 知 其與 頑石 聞絃 知雅

無知 有者 曹公 使 蔣幹 說 周瑜 上 先 竟 之 謂 幹 曰 知我者 鮑子 列子曰

曲 吾 雖 不及 夔 曠 聞 絃 賞 音 足 知 雅 曲 知我者 鮑子 管夷吾

與 鮑 叔 牙 友 管 仲 曰 吾 與 鮑 叔 牙 分 財 多 自 與 鮑 叔 不 以 我 為 貪 知 吾 有 親 也 吾 嘗 與 鮑 叔 謀 事 大 窮 困 鮑 叔 不 以 我 為 愚 知 時 有 不 利 也 吾 嘗 三 仕 三 見 逐 鮑 叔 不 以 我 為 不 肖 知 不 遇 時 也 知 我 者 鮑 子 生 我 者 父 母 昔 鮑 叔 有 疾 管 仲 為 之 不 食 不 內 藥 審 臧 患 之 管 仲 曰 生 我 者 父 母 知 我 者 鮑 子 為 之 知 已 者 死 女 為 悅 已 者 榮 鮑 子 死 天 下 莫 知 安 用 水 漿 雖 為 之 死 亦 何 傷 斤 斲 鼻 不 傷 莊子 郢 人 聖 漫 其 鼻 端 若 蠅 翼 使 匠 人 斲 之 匠 謂 無 言 幾 矣 子 昭 二 十 八 叔 向 適 鄭 觀 茂 欲 觀 叔 向 從 德 之 收 日 必 我 明 也 下 執 其 手 以 上 曰 今 子 少 不 勝 叔 向 將 飲 酒 聞 之 言 吾 幾 失 子 矣 矣 言 之 不 可 以 已 也 如 是 遂 如 故 知

品題

等閑拍手 強歌詩 骨肉斯文 是故 知良驥也 思逢伯樂 素琴 况復 遇鍾期 陽春白雪 和之 少流水 高山 識者 奇自古 論交

員 幾 古 去 上 月 三 卷 二十三

稱管鮑芳名
千古到今時

大言

起句

詩句

投璧 揮舞 青眼 朱絃
絕絃 負童 朱絃

劍解 初鳴 匣 豪貴 少青眼
文章多白頭

瘦馬 識駮 駮 赤心 遺白眼
笑面得真拳

杯酒 英雄 君與 朱絃 不入 簾 筆 耳
彩鳳 終 儀 部 漢 聲

負章 越國 計 良 批 世上 豈 無 干 里 馬
人中 誰 得 九 方 臯

撥瑟 齊門 道 轉 非 燕昭 不是 空 吟 馬
支遁 何 妨 亦 愛 鷹

千戈 爛 漫 誰 青 眼 黃塵 多 白 眼
白壁 暗 投 多 淺 劍

歲月 淹 留 已 白 頭 支遁 何 妨 亦 愛 鷹
朱絃 不 絕 少 知 音

按劍 焦桐 擊鼻

黃塵多白眼

碧主絕朱絃

馬因回首雖身價

桐遇知音已半焦

不惜有珠遺按劍

最憐無鼻寄揮斤

白屋可能無孺子

魯連魯連 辭不受 平原君 乃置酒 以千金 為魯連 壽魯連笑曰

聖賢

排難解紛

舞劍蔽公

以翼蔽沛公

譙楚可間出

上擊韓王信

七日用陳平奇計

罪臣各為其主

朱家指無筆歌

獨進忠信事

酒酣舞長劍

侯覽所怨

儉少之不告

魯仲連游趙聞魏王使客新垣衍因平原君說趙王欲令趙尊秦為帝仲連見新垣衍言秦稱帝之害新垣衍不敢復言秦將聞之為却五十里於是平原君欲封魯連魯連辭不受平原君乃置酒以千金為魯連壽魯連笑曰

所以貴於天下之士者為人排難解紛去請火婦還婦曰肉姑以為盜而逐之婦所善里母曰我今令而家及女矣即東歸請火於亡肉家曰昨夜犬爭肉相殺請火治之亡肉家還呼婦還舞劍蔽公前漢沛公見項羽于鴻門羽留飲范增數目羽擊沛公以翼蔽沛公樊噲聞事急直入詐降脫主楚圍荊陽將軍紀

譙楚可間出信乃乘王車黃屋左纛曰食盡漢王得遁去奇計解圍

上擊韓王信遂至平城為匈奴圍於白登朱家脫急前漢季布

七日用陳平奇計厚賂單于闕氏乃解圍

罪臣各為其主耳項氏臣豈可盡誅耶君何不為主言之公如

朱家指無筆歌怨晉謝安為王國寶所譏孝武召相伊飲燕安上赦布無筆歌怨侍坐伊撫筆而歌怨詩為君既不覺為臣良

獨進忠信事不顯乃見有難患安泣下霑襟乃越舞劍解紛

酒酣舞長劍微中排難或排難保納舍藏後漢山陽張

侯覽所怨覽刊章下州郡捕儉儉投融兄褒不遇時融年十六儉少之不告融見其有窘謂曰兄雖在外吾獨不能為君主耶

因留劉之。後事泄。儉得脫走。遂并收。褒融送獄。二人未及所。融曰。保納舍藏者。融也。當坐之。褒曰。彼來求我。非弟之過。請其其罪。更問其母。母曰。家事任長。闔門相濟。後漢趙岐字。邠。京兆郡曹。時中常侍。康衡。兄琦。為虎牙都尉。郡人以進。不由德。輕侮之。岐又數為。康。詔琦。後為京兆尹。果盡殺岐家屬。於是趙岐逃。難四方。自匿。姓。名賣。餅。北海市中。時孫嵩年三十餘。察岐非常。人呼與共載。岐失色。嵩密問曰。視子非賣餅者。岐色動。嵩曰。不有重怨。即亡命乎。我北海。持賞也。闔門百口。勢能相濟。岐以實告。遂與俱。歸。藏岐。復壁中。數年。作厄屯歌。三十二章。諸康殘賊。因赦。免。尾。尾。前漢司馬。過。猛虎處深山之中。百獸。乞。斗升之水。貧。震恐。及其在。陷窮之中。搖尾乞憐。乞。斗升之水。貧。粟於監河侯。侯曰。諾。我將得邑金。貸子三百金。可乎。周曰。昨日。周。來有中道。而呼者。周顧視。車轍。中有鮒魚焉。曰。我東海之波。臣也。君豈有半升之水。而活我哉。周曰。諾。我且南游吳越。激西江之水。而迎子。可乎。鮒曰。君乃言此。曾不如索我於枯魚之肆。耶。奇其言而釋之。下。耶。何為。勅壯士。滕公奇其言。壯其貌。釋而不。斬。與語。大悅。之言。於。上。以為。治粟都尉。

品題

世事如蒸粟。乳中。國家戰敵似相同。並增用計。謀。亭長。項伯。村身。敵。沛公。赤墮。江邊。摧。俊傑。華容道上走。英雄。解。紛。排。推。

皆仁德。魯仲人稱。國土。風。

大意

解圍。舞劍。禦侮。徙突。轍魚。排難。脫急。撫箏。解紛。同舟。奔虎。

聯句

精衛有情填瀚海。焦頭無客知移突。包胥無淚哭秦庭。曳尾何人與共航。黃鶴翅垂同燕雀。青松心在任風霜。佳人已屬沙吒利。義士今無古押衙。

傲戒

事實無忘射鈎

管仲將兵。遮莒道。射桓公中鈎。後魯桓。格。管仲。而送於齊。奇以為相。謂桓公。頭君無忘射鈎。臣無忘。檻。佩常佩弦。後漢范丹傳。西門豹性剛。佩。以。不忘巾車恩。後。馮異朝京師。帝謂公卿曰。是我起兵時。主簿也。為吾披荆棘。底。關中。既。賜。以珍寶。衣服。錢帛。詔曰。倉卒無忘。河北。創業守成。麥飯厚意。久不報。與。稽。有。謝曰。臣願。國家無忘。河北。創業守成。之。難。小臣不忘。巾車之恩。帝復。異。於。巾車。鄉。名。也。創業守成。孰。美。攻。破。乃。降。戰。勝。乃。尅。創業則。難。魏。徵曰。王者之興。必乘。衰。免。覆。骨。暴。殄。天。授。人。與。者。既。得。天。下。則。安。于。驕。逸。人。欲。靜。淫。役。毒。之。世。方。敝。衰。刻。究。之。因。由。此。而。衰。則。守。成。為。難。帝曰。玄。齡。從。

創業守成。孰美攻破。乃降戰勝。乃尅。創業則難。魏徵曰。王者之興。必乘衰。免覆骨暴。殄天授。人與者。既得天下。則安于驕逸。人欲靜淫。役毒之世。方敝衰。刻究之因。由此而衰。則守成為難。帝曰。玄齡。從。

我定天下，身萬死，一生見創業之難，微與我安天下，富貴則驕，驕則怠，怠則亡，知守成之不易，然創業之不易，既往矣，守成之難，方與之，可使煩暑，交清涼，宗廟中，暑溫，遣宮苑使，忘創業之難，當如河上，則可使煩暑，交清涼，宗廟中，暑溫，遣宮苑使，

品類

吳布政詩性急，匆匆惹衛端，但九為事，要心寬，他將言語生，嗔怒，我把情懷，作喜歡，正好是非，奪兩其任，人言語說千般，賢人因甚無煩惱，忍字常常着眼看。

不意

魚爛緣吞餌，爭先徑路机，閑惡傷將，只合三緘口，蝶雄為撲燈，近厚語言滋味長，撲腹徒勞萬卷書。

滑稽

刺舌君今猶可戒，炙眉我亦更何詞，也似哲其正諫也似直其穢德也似隱非夷齊而是柳下惠首陽

為拙柱下，為工飽食，安坐以任易農，依隱玩世，詭時不逢，東方生其雄乎

事實 詆諧 枚臯好詆諧善談 左太冲詩四坐咸同志羽觴不類

俳優 俳優為賦頌好戲 類 給驕侏儒 東方朔待詔公車奉祿

過侏儒皆號泣上問何為對曰東方朔言上欲盡誅臣等上召

問朔對曰臣朔生亦言死亦言侏儒三尺餘月俸一囊粟錢三

百四十侏儒飽欲死臣朔飢欲死臣言可用幸異其札不可用

米之大笑稍得親近大笑纓絕 晏子春秋齊主使淳于髡之趙

髡仰天大笑冠纓索絕曰臣從東來見道旁有穢田者掘一豚

蹄酒一盃祝曰甌婁滿篝汚和滿車五穀皆熟穢滿家臣見其

所持者從而所欲者奢故笑之於是威王樓姬唇舌 前漢樓護

乃益黃金千鎰白壁一五雙車馬百兩 樓姬唇舌 前漢樓護

入短小精辯談論常依名節 樓君知唇舌 談辭如雲 漢

符融遊大孝師事李膺膺每聽其言如懸河注水 晉郭象字子

瀉水而不竭閑
君以文論自娛

品題 多智多能敢取車為奇謀其作五侯師言如流水胸中出語若
懸河口上垂辯論風生声不絕奇談雲擁笑尤嬉無念但索
長安木方朔
人訛是看稽

天章

抵掌 霏屑 雄辯 縱橫 橫舌 談諧 多智 玩世
憑軼 湧泉 高談 告 解頤 談笑 無考 詭時

群听聳
四進驚

聯句

李富千人敵 波瀾口類談玄理
談高四座傾 士本形骸與世違

結句

未饒憑軼背
棹舌下齊城

景慕

希顏

楊子希顏之馬亦驥之乘也慕名司馬相如慕蘭相如效
之歸亦棹心而擗其里人見者挈妻子而去之邯鄲步荀子

折角巾

郭林宗遇雨巾一角墊持人乃
折角巾以為林宗巾其見景慕如此

餘子學行於邯鄲失
其改步匍匐而歸

刮目相待

魯肅謂呂蒙曰今學識英博非復吳
下向蒙蒙曰士別三日當刮目相待曹劉

識面為榮

歐陽文忠公天下之士
得識面者退誇於人

一座無復談

北崔陵李軍將聘梁各
筆畢集陵後至座無

衰俗識紫芝

元

小巫見大巫

吳張紘見陳琳作武庫賦
嘆美之琳答曰僕在河北

誦春樹暮雲

杜甫春

效洛下書生詠

謝安能為洛下

使人不衣自暖

南謝超宗有文辭盛
得各齊高帝時請

一日不見鄙吝生

唐賀知章

餘子鏤鎖焉足錄

陳矯李弼謂陳

策淵源玉篆有札存法吾敬華子魚清修嫉惡有識有我吾敬

謂明府驕而自矜登曰夫闈門雍穆有德有行吾敬陳元方兄

趙元達博聞強記奇才卓犖吾敬孔文學雄姿傑出有王伯時
之器吾敬劉玄德餘子鎖上馬足錄所敬如此何驕之有
月不見鄙吝復萌後漢黃憲字叔度同郡陳蕃周舉常

品題 天下斯文重俊英希賢希聖道心明若瞻韓愈精神爽不見
知章鄙吝各生茂叔胸襟風月霄紫芝眉宇雪水清春山北斗
人皆仰慕蘭相如志竟成

大意 披雲 景星 希鸞 識面 芝眉
仰手 祥鳳 效顰 上隣 陂量

聯句 李邕求識面 蜀夫何處盡 將期寸諾重 磊落千人傑
王翰頭下曉 巴月幾回彎 欲使寸心傾 生存九廟靈

結句 但恐跛踈隨赤驥 逢壺雲氣逼丹青 海外文章傳諫草
青雲飛步不容攀 怪尔肩間多道氣 天南瞻眺識星辰

稱譽

事實 推輓 左襄十四或推之或吹噓 韓薦士詩青 黃金諾 爾漢曹
季布曰楚人諺曰得黃金百兩不如得季布一諾足下何以得
此聲於梁楚之間哉且僕與足下俱楚人使僕將揚足下之名

於天下顧不美乎何足 曲江公 張九齡開元後天下
下踈僕之深也布悅 稱曲江公而不欲 贊皇公 李

裕天下士歸重不敢 華衮 春秋傳晉范甯序下字
有所斥稱贊皇公 之褒寵喻華衮之贈 今之管蕭 張

知孔珪嘗令草讓表以示 無惜齒牙餘論 謝眺好獎人亦會稽孔
之謂理曰此子聲名未立應共獎成無惜齒牙餘論 拔千得

五猶得其半 時人性而問之統曰當今天下大亂雅道陵夷善
人少而惡人多左欲興風俗長道業不美其談則聲名不足企
慕而為善者少也今拔十得五猶得其半而可以崇邁世教使
有志自厲 不亦可乎

品題 男兒立志是豪雄文質彬彬 奮望崇德秀齊稱魯山令九齡
咸贊曲汴公誰誇日下首島鶴我愛雲間陸士龍 一若千金
天下貴齒牙 餘論古今同

大意 推輓 金諾 鷓鴣書 騏驎 凌雲 觀國

聯句 天上張公子 驛驛開道路 千年道統張朱列
雲間陸士龍 鷹隼離風塵 一代文章韓柳間

容質謙冲知德性
文章典雅見高風
堂堂筆陣千人敵
滾滾談鋒四座驚
聞道吹噓借餘論
故教流落得生還
平生不喜藏人善
到處逢人說項斯

高文王字青雲書
丰表金莖月露秋
文章別有凌雲氣
德業豈充觀國貞
令威即是千年物
騃子元非百里才
借問無根漢帝靴
了無有味水精盃

安分

事實 守靜衡門 晉五朝家世明游
心物外守靜衡門

品題 王尚書詩歸去來兮歸去來
千金難買釣魚臺
人間世事只如此
身外功名安在哉
綠醅有情憐我老
黃花無主為誰開
平生報國心如火
一夜東風變作灰

結句 到處逢人說項斯
朱儒自是長三尺
碎統都未敢數金
一心似水唯平好
萬事如棋不著高
衡門靜白無
草舍隨時有竹松

長疑好事皆虛事
却恐閑人是貴人
父歆江總文才妙
自嘆虞翻骨相屯
白雲舒卷元無意
浮世興衰自有期

不得志

事實 賦枯魚 南下慘險 有才在飛不
雷擊其碑 范文正守 範文正守
範文正守

福寺碑使傳于京
值千金繼墨已具
一夕雷轟其碑
時人語曰
有客打禪來薦福
無人騎鶴上揚州
東坡作窮措詩曰
一夕雷轟薦福碑
賣新得冠 江文通年十三孤貧賣薪養母於樵所得蟬冠
羅寅所詩布衣無夢到楓宸
青眼誰憐不遇人
百尺絲綸閑釣渭
犁烟雨苦耕華
長淮未進王孫食
空齋何處蕪荒草

品題 東風桃李一般春
擊堂 月鳥 失馬
驚龍 連寒 書空 遠入意
因鱗 踏斷 兜鉢 與世疎

大意 擊堂 月鳥 失馬
驚龍 連寒 書空 遠入意
因鱗 踏斷 兜鉢 與世疎

聯句 豈歌冷樞馬
壯志初題柱
霄漢愁高鳥
未能探虎穴
笙舞笑醜雞
生志獨轉蓬
泥沙困老龍
莫作飯牛歌
一身多難虎為鼠
老喚敢期千里遠
高才不免為人恥
直道嘗聞與世疎
四海幾人蛇作龍
驚鳥極託
直道嘗聞與世疎
散木不材寧適
虛舟無意在乘流
自知縛虎無音策
驚鳥極託
虛舟無意在乘流
竟坐蜩螗屈井圖
腐襲嘶風氣未降

囊穎露雖徒有苦
崩絳有劍飛空彈
窮途潦倒仍多病
壯志消沈惜少年
橫海長鯨困潢潦
垂天巨翼落樊籠
屠龍莫學元無用
失馬何嗟只自知
我道此時真魏勃
世間何處不齊等
與世違疎其袖手
及身強健且與孟
獨鶴歸何晚
昏鴉已滿林

文章破作一錢真
燈火空煇半世功
清鏡功名兩行淚
浮雲親舊一囊錢
百年素業拋安國
半世窮吟對穎山
鰲傾地軸宜中酒
虎守天關莫上書
敢斷前蹤寫缺金
孔移常帶沈衣寬
自嗟鳥鵲飛三匝
未遂鸚鵡寄一枝

伏老固非千里翼
冥飛自是九霄鵬
嶽嶠歷落同可笑
險阻巖雜亦備嘗
書中藏業黃金盡
鏡裏功名白髮新
畫虎無成終類狗
為龍多苦不如魚
詩稱自手徒為耳
命壓不頭不李何

報恩

事實

結草抗敵 左宣十五魏顆敗秦師于解氏獲杜向秦
也物魏武子有嬖妾無子武子疾命顆曰必為殉
妾疾病則曰必以為殉及卒顆嫁之曰疾則亂吾從
及輔氏之役顆見老人結草以抗村回回嚼而顆故獲
老人曰余析嫁婦人之父也
爾用先人之命命吾是以報
盜馬脫難 史秦穆公亡善馬野人共得而食之者

結局

百餘人吏欲法之公曰君子不以畜產害人吾聞食馬肉者不
飲酒傷人昔賜酒而赦之後秦擊晉三百人其後公為晉與所
圖皆備秦爭死遂出
繆公反土得晉惠公
倒戟禦徒 左宣二初宣子出首山舍于
三日食之舍其半問之曰臣三年矣未知毋之存亡請以遺
之使適之而為之蠶食與肉貴諸秦以與之既而為公介倒戟
以禦之徒而免之問其
絕纓破敵 楚莊王賜群臣酒日暮獨滅
故曰纓桑之緘人也
其冠纓以告王曰今日飲不絕纓者不歡令百官皆絕冠纓及
出火君二年晉與楚戰有一人常在前列五令百官皆絕冠纓及
對曰君乃夜絕纓者也王不暴而
報以國士 中行以衆人待我
誅臣頭血前敵久矣遂克晉
我報之知伯以國士報之
執炙救難 顧榮與同僚宴飲見執炙者
王過執炙以國士報之
坐客問故榮曰豈有終日執炙而不知其味者
不祥 式步說信曰足下何不聽計不用故背楚歸漢漢王授我
上將軍印解衣衣我推食
食我言聽計用肯之不祥
泰山鴻毛 結襖子詩燕南井土吳問
息重計君命泰
活蛇報珠 獲神記隋侯見大蛇被傷而云之
山一薄輕鴻毛
蛇還報以珠其大徑寸純白夜有光

明妃... 一名明月珠... 王忱繡被... 後漢王忱嘗請京師... 舍中

侯珠... 一名明月珠... 王忱繡被... 見一書生金彦... 困憊而視

地... 繡被... 復置棺下... 忱後置大度... 長馬馳入... 中而止

其... 及... 綉被... 人曰... 卿何除德... 而致此... 忱因說書生... 人驚曰

是... 子... 也... 恩... 久... 不... 印龜左顧... 不... 見... 龜... 買... 放... 溪... 中... 流... 左... 顧

者... 數... 四... 及... 綉... 侯... 而... 士... 為... 知... 已... 者... 死... 讓... 述... 道... 山... 中... 思... 焉... 乎... 士... 為

知... 已... 者... 死... 友... 為... 悅... 已... 者... 榮... 今... 智... 伯... 知... 我... 必... 活... 萬... 人... 後... 必... 速... 間... 萬

為... 報... 讐... 而... 死... 以... 報... 智... 伯... 則... 吾... 竟... 魄... 不... 愧... 矣... 活... 萬... 人... 後... 必... 速... 間... 萬

所... 活... 者... 萬... 人... 余... 後... 世... 其... 興... 乎... 門... 容... 駟... 馬... 漢... 子... 公... 門... 間... 壞... 父... 老

令... 容... 駟... 馬... 高... 蓋... 車... 我... 治... 獄... 多... 陰... 德... 子... 孫... 必... 有... 興... 者... 子... 定... 因... 其... 露... 中... 拜... 相... 封... 其... 西... 平... 侯... 孫... 永... 為... 御... 史... 大... 夫... 大

品... 題... 羅... 買... 所... 詩... 使... 君... 恩... 寵... 海... 來... 深... 與... 東... 風... 一... 可... 心... 到... 九... 應... 教... 輕

大... 意... 望... 此... 扶... 輪... 綉... 被... 蚌... 珠... 執... 炙... 吞... 炭... 觸... 槐... 結... 草... 龜... 印... 絕... 纜... 觸... 槐

結... 句... 王... 人... 覆... 護... 具... 何... 曾... 一... 縹... 袍... 吞... 炭... 觸... 槐... 連... 蹇... 困... 麟... 蘇... 潤... 轍... 奄... 留... 老... 驥... 釋... 蓋... 車

報... 應... 殺... 降... 不... 侯... 前... 漢... 李... 廣... 且... 吾... 為... 靡... 四... 守... 老... 嘗... 反... 誘... 降... 者... 八... 百... 人

乃... 將... 軍... 所... 以... 不... 得... 侯... 也... 贊... 曰... 二... 代... 為... 將... 自... 抵... 陰... 遣... 塵... 史... 李... 廣... 之

道... 家... 所... 忌... 自... 廣... 至... 陵... 遂... 立... 其... 為... 哀... 哉... 自... 抵... 陰... 遣... 塵... 史... 李... 廣... 之

法... 弊... 一... 至... 此... 孝... 公... 卒... 太... 子... 立... 公... 子... 度... 之... 徒... 告... 商... 君... 友... 發... 吏... 捕

嗟... 夫... 為... 法... 之... 弊... 一... 至... 于... 此... 偃... 息... 公... 後... 身... 死... 於... 林... 李... 林... 南... 以... 毒... 虎

子... 厚... 文... 以... 為... 強... 奪... 民... 居... 追... 突... 治... 以... 儆... 券... 其... 明... 乃... 已... 不... 下... 二... 年... 子

翠崖州忽自疑曰崖州更涉諒彼如何馮唯唯丁乃換雷州
丁之與馮遂換雷州時語曰若見雷州報司人人生何處不
唯環黃衣人即雀啼環以報生震震生影俱為公
不善之家天帶殃奸謀焉得有植祥程嬰幸撫孤兒在
宜催岸賈亡秦憎惡名千古詩云主忠即萬年香發生宮
多遺怨智者還須有付賢

...

人事門

懷古

半實赤壁賦

赤壁賦固一世之雄如安在哉

故宮禾黍

毛詩黍離周大夫行役至子宗周過故宗廟官

室盡為

六朝舊事

王人南詞六朝舊事隨流水但寒烟衰草綠

燕子說興亡

周詞想

謝隣里

燕子不知何世入尋常巷陌人家相對如說興亡斜陽裏

品題

劉禹錫詩王濬樓船下益州金陵王氣黯然收千尋鐵鎖沉江底一片降旗出石頭八世幾回傷往事山形依舊枕寒流

今逢四海為家日

如意

隋家宮殿鎖清秋

夕陽

英雄

虎擲龍拏

不兩存

起句

曹見雙翅繞

道泉流繞御溝

當年曾見

長空蒼淡孤鳥沒

南國山川舊帝畿

當年曾見

聯句

律事月空明

堂在昔人非

喬木幾興亡

浮雲多改步

當年曾見

遠泉不救中途渴

十年事在何人向在

漢家蕭鼓空

當年曾見

獨木難撐大厦傾

半夜月明朝自来

魏國山河平

當年曾見

當年曾見

當年曾見

當年曾見

當年曾見

當年曾見

事往千年恨短，天荒地老，河山在，

草木暗隨秋氣老，詞客有靈應識我，

疑神宅古河聲裏，一詩豪傑成何事，

望氣臺荒野色中，千里江山半落暉，

今古消沉詩句裏，平臺復道何年廢，

河山浮動酒盃中，錦鏡龍舟此地來，

一時人物三分國，望遠真成廣武嘆，

萬馬旌旗五丈原，得詩空作洛生吟，

一生富貴皆空夢，天地無情吾輩老，

千古英雄只斷碑，江山有恨古人休，

石梁拂雲晴亦雨，

如逐吹浪夜還風，

過客不堪重吊古，英雄一去豪華盡，

滿山風葉面餘哀，唯有青山似洛中，

湘水不沉忠義氣，千古悠然竟消不得，

欲盡殘碑倍惆悵，一江寒浪若為平，

中夜悲歌此蒼蒼，思量諸葛成何事，

不是金爐香，

感慨

結句

過客不堪重吊古，英雄一去豪華盡，
滿山風葉面餘哀，唯有青山似洛中，
湘水不沉忠義氣，千古悠然竟消不得，
欲盡殘碑倍惆悵，一江寒浪若為平，
中夜悲歌此蒼蒼，思量諸葛成何事，
不是金爐香

情隨事遷

劉伯溫詩：柳柳江亭，情隨事遷，感慨繁之矣，向之所欣，
俯仰之間，已為陳迹，猶不能不以之興懷，

大旨

感時，心折，攬鏡，惆悵，愁容，往事，
恨別，骨驚，圍砧，飄零，歸興，流年，
對東風，淚滿衣，唯覺少年心，不得，
江山，雖是昔人相，當時感舊已替，
淚，沾襟，東鶴連岩雪，烽火蒼茫外，
梳頭，滿面絲，愁入半夜，

起句

恨別，骨驚，圍砧，飄零，歸興，流年，
對東風，淚滿衣，唯覺少年心，不得，
江山，雖是昔人相，當時感舊已替，
淚，沾襟，東鶴連岩雪，烽火蒼茫外，
梳頭，滿面絲，愁入半夜，

結句

感慨文通心欲折，謝公哀樂感中年，
逝者如斯未嘗停，天寒酒薄難成醉，
後之視昔亦猶今，地迥臺高易斷魂，
諸量東海水，可憐一寸心，惆悵東欄，
看取幾深愁，中有萬斛愁，人生看得幾清明

兒童問我悲何事 人昔共遊今孰在
此意他年汝自知 樹猶如此我何堪
又老當時二十年

閒適

品題

王蒙詩 綠楊堪繫五湖舟 袖拂東風上小樓 晴樓遠浮雲
嶂出春江晚 荒花白雲亦古今 我愛陶元亮 知里人 睡馬少游

不召平生 一盃酒
相逢花下醉時休

大有

花徑 風月 去書
水村 江山 詩酒
花氣風前樹 苔徑閑搜句
簫聲水上弄 茅簷坐看山
青山開 花日供吟筆
黃鳥初書 松風拂醉茵
柳絮青 越東行 畫竹
江帶白雲流 引睡臥看書

駢句

雅趣 步履 得意 詩長好
雅趣 步履 得意 詩長好
相逢 酒不虛
萬籟息長夜 寸心如死灰
細數落花因坐久 緩尋芳草得歸遲
共閑作伴無如鶴 與老相隨祇有琴
人得交遊是風月 天淵圖國即江山

大有

萬籟息長夜 寸心如死灰
細數落花因坐久 緩尋芳草得歸遲
共閑作伴無如鶴 與老相隨祇有琴
人得交遊是風月 天淵圖國即江山

大有

萬籟息長夜 寸心如死灰
細數落花因坐久 緩尋芳草得歸遲
共閑作伴無如鶴 與老相隨祇有琴
人得交遊是風月 天淵圖國即江山

大有

萬籟息長夜 寸心如死灰
細數落花因坐久 緩尋芳草得歸遲
共閑作伴無如鶴 與老相隨祇有琴
人得交遊是風月 天淵圖國即江山

大有

萬籟息長夜 寸心如死灰
細數落花因坐久 緩尋芳草得歸遲
共閑作伴無如鶴 與老相隨祇有琴
人得交遊是風月 天淵圖國即江山

大有

萬籟息長夜 寸心如死灰
細數落花因坐久 緩尋芳草得歸遲
共閑作伴無如鶴 與老相隨祇有琴
人得交遊是風月 天淵圖國即江山

大有

萬籟息長夜 寸心如死灰
細數落花因坐久 緩尋芳草得歸遲
共閑作伴無如鶴 與老相隨祇有琴
人得交遊是風月 天淵圖國即江山

大有

萬籟息長夜 寸心如死灰
細數落花因坐久 緩尋芳草得歸遲
共閑作伴無如鶴 與老相隨祇有琴
人得交遊是風月 天淵圖國即江山

大有

萬籟息長夜 寸心如死灰
細數落花因坐久 緩尋芳草得歸遲
共閑作伴無如鶴 與老相隨祇有琴
人得交遊是風月 天淵圖國即江山

大有

萬籟息長夜 寸心如死灰
細數落花因坐久 緩尋芳草得歸遲
共閑作伴無如鶴 與老相隨祇有琴
人得交遊是風月 天淵圖國即江山

懷歸

事

富竹影搖青鏡夜 風籟聲斷碧苑春
高眠暑夕對樟風 後床獨卧秋風裏
解看蜘蛛結網絲 漢膠新熟米同醉
無限蕭條歲暮心 此狀古案悠悠夢
起向汗頭看劍魚

事

富竹影搖青鏡夜 風籟聲斷碧苑春
高眠暑夕對樟風 後床獨卧秋風裏
解看蜘蛛結網絲 漢膠新熟米同醉
無限蕭條歲暮心 此狀古案悠悠夢
起向汗頭看劍魚

事

富竹影搖青鏡夜 風籟聲斷碧苑春
高眠暑夕對樟風 後床獨卧秋風裏
解看蜘蛛結網絲 漢膠新熟米同醉
無限蕭條歲暮心 此狀古案悠悠夢
起向汗頭看劍魚

事

富竹影搖青鏡夜 風籟聲斷碧苑春
高眠暑夕對樟風 後床獨卧秋風裏
解看蜘蛛結網絲 漢膠新熟米同醉
無限蕭條歲暮心 此狀古案悠悠夢
起向汗頭看劍魚

事

富竹影搖青鏡夜 風籟聲斷碧苑春
高眠暑夕對樟風 後床獨卧秋風裏
解看蜘蛛結網絲 漢膠新熟米同醉
無限蕭條歲暮心 此狀古案悠悠夢
起向汗頭看劍魚

事

富竹影搖青鏡夜 風籟聲斷碧苑春
高眠暑夕對樟風 後床獨卧秋風裏
解看蜘蛛結網絲 漢膠新熟米同醉
無限蕭條歲暮心 此狀古案悠悠夢
起向汗頭看劍魚

事

富竹影搖青鏡夜 風籟聲斷碧苑春
高眠暑夕對樟風 後床獨卧秋風裏
解看蜘蛛結網絲 漢膠新熟米同醉
無限蕭條歲暮心 此狀古案悠悠夢
起向汗頭看劍魚

笑樂酒酣。上自。笑語。歌曰。大風起兮雲飛揚。威加海內兮歸故鄉。安得猛士兮守四方。起。舞。慷慨。泣。數。行。下。謂。沛。公。曰。沛。子。悲。故。鄉。豐。沛。吾。所。生長。極。不。忘。爾。萬。歲。後。吾。竟。鬼。猶。思。沛。也。胡。馬。依。北。風。風。越。鳥。巢。南。枝。

和歸去辭。與。諸。生。講。論。見。宗。師。不。折。腰。和。歸。去。辭。文。載。古。文。堂。上。陶。令。空。情。菊。筵。荒。曉。夢。敲。殘。砧。韻。切。知。心。周。許。雨。聲。長。

名。韞。利。鎖。何。時。解。寒。暑。推。遷。甲。子。年。

歸心。孤雲。長路。登高。望遠。感懷。十年。千里。一。望。盡。

望眼。落日。他鄉。望遠。感懷。十年。千里。一。望。盡。

起句。惟。佳。南。山。一。楚。因。歸。心。日。夜。憶。咸。陽。烟。賣。越。越。人。味。

天地。入。歸。心。決。流。襟。上。血。雪。聲。偏。傍。竹。鮮。紅。豈。驢。馬。

買山。君。自。得。青。燈。十。年。夢。老。侵。長。路。髮。露。從。今。夜。白。

鮮帶。我。猶。遲。白。髮。一。扁。舟。春。蕩。故。園。心。月。傍。故。鄉。明。

湖海。三。年。客。倦。游。行。老。矣。北。鴈。飛。過。愁。寂。歷。妻。孥。四。壁。居。舊。隱。賦。歸。哉。南。雲。斷。處。信。微。茫。

新亭。決。盡。家。千。里。五。更。歸。夢。常。苦。短。愁。邊。日。暮。偏。疑。短。

梁甫。吟。成。髮。一。千。毛。一。寸。容。愁。無。奈。多。夢。裡。江。鄉。未。肯。歸。

盤。無。蕪。味。慙。留。客。長。路。風。塵。空。費。日。故。園。書。札。動。經。年。

燕。入。畫。堂。雖。有。在。長。有。歸。心。懸。馬。首。可。堪。無。寐。枕。單。聲。

千里。關。河。動。歸。興。馬。嘶。北。吹。猶。懷。土。禽。愁。南。枝。也。憶。巢。

家在。夢。中。何。日。到。千。里。關。山。千。里。念。一。番。風。雨。一。番。愁。

春來。江。上。幾。人。還。雙。鬢。客。壁。語。世。交。兩。眉。鄉。思。儘。愁。侵。

霜天。不。盡。孤。雲。遠。去。鴈。過。家。增。遠。望。好。山。歸。路。入。清。吟。

秋意。無。聊。一。鴈。飛。病。中。送。客。難。為。別。夢。裏。還。家。不。當。歸。

未億。江。湖。歸。白。髮。十。年。舊。隱。拋。何。處。一。片。傷。心。盡。不。成。

欲回。天。地。入。扁。舟。故。園。鈎。留。清。夜。夢。幾。年。分。付。白。頭。吟。

平生。離。恨。翠。聲。裏。傳。聞。杜。甫。草。堂。在。想。見。淵。明。菊。徑。荒。

故國。歸。心。應。影。盡。傳。聞。杜。甫。草。堂。在。想。見。淵。明。菊。徑。荒。

黃葉。望。窮。寒。日。暮。一。片。傷。心。盡。不。成。故。園。鈎。留。清。夜。夢。

結局

惟。應。故。山。夢。酒。醒。孤。館。裏。五。更。好。夢。風。吹。斷。

隨。子。到。吾。廬。心。折。大。力。頭。始。覺。心。安。似。故。鄉。

十分春更綠何事
一掬歸心未到家
太行千里青如染
落日闌干有所思
一年春色他鄉盡
迷向東風疾濕衣
極目江山千萬恨
依然相送看黃花
勝處欲歸歸未得
債人歸洛看黃牛

夜宴

故鄉有路不歸去
辜負樽前蟹西齋
家在楚鄉身在蜀
一年春色負歸期
送盡長亭短亭客
只看茫茫局幾時
歸為有客愁歸未得
獨垂斜日望多情

日暮起征衣
直上客城頭
肯逐
專鱸歸興滿江東
何人授我黃金百
買取蘇君二頃田
伊是不歸歸便得
五湖烟景有誰爭

事實

暗花纖月

皇甫功 秋夜宴詩
微夜露 纖月靜開雲

不醉無歸

詩 厭厭夜飲

品題

一刻良宵 抵萬錢 登堂珠履客 蟬聯香風和透 銷金障 花月
光分 蔡玉舫 紅粉歌 聲翻白雪 離繁燭影 醉青年 雖非一鼓

三千樂湛露
厭厭竟未眠

大意

銀燭 更深

更盡 綺幕

秉燭 傳盃

艷歌 妙舞

酒令 詩籌

明畫燭 倒金盃

起句

瑞麟香暖 玉芙蓉
回燭疑輝 到曉紅

燈燭榮煌 醉客豪
捲簾羅綺 艷仙亦

聯句

銀龍銜燭影
金鳳起爐烟

巨觥欣舉白
面燭愛深紅

看劍引盃長
燭影如曉亂

笙歌歸院夜
烽火下樓臺

舞妓頻添 添
歌鬟屢展 展
玉齒歌春 春
銀燈照綠 綠
今罰罷歌 歌
詩成醉墨 墨
投轄主人 人
絕纓疑客 客
酒樽對客 客
書几侵燈 燈
金釵醉舞 舞
銀燭光搖 搖
竹箭水繁 繁
桐花風軟 軟
星子畫 畫
碧雲猶戀 戀
何以夜遊 遊
老來光景 景

不醉亦無歸
金盃兼勸 笙歌沸
銀燭交光 錦綺明
紅燭照庭 燭
黃雞催曉 曉
盃浮細浪 浪
燈結繁華 華
風翻醉眼 眼
雨樹任欹 欹
銀竹酒前 前
露蒸花下 下
東風夜月 月
不負歸時 時

半客年 年
紅燭燭前 前
青檀傳裏 裏
檀枝罷催 催
翠娥猶勸 勸
銀燭未銷 銷
金釵半醉 醉
魚歸未收 收
鳳簫猶在 在
誰道使君 君
綉屏錦帳 帳

月下飲酒

事實

把酒問月

李白把酒問明月詩唯願常如影成三
上花下一

起句

自相親舉盃邀明月對影成三人月既不能飲影徒隨我身我

聯句

相期綠酒對影成三人月既不能飲影徒隨我身我

大意

長嘯 無塵 寒光 素魄 露寒 月冷

結句

來塵表聊為 幽人洗肺肝

起句

當筵歌舞盡吳姬 銀燭迢迢夜未晨

聯句

無入尚素景 露零衣袂爽

大意

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

結句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

起句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

聯句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

大意

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

結句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

起句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

聯句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

大意

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

結句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

起句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

聯句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

大意

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

結句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

起句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

聯句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

大意

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

結句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

起句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

聯句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

大意

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

結句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

事實

把酒問月 李白把酒問明月詩唯願常如影成三

起句

自相親舉盃邀明月對影成三人月既不能飲影徒隨我身我

聯句

相期綠酒對影成三人月既不能飲影徒隨我身我

大意

長嘯 無塵 寒光 素魄 露寒 月冷

結句

來塵表聊為 幽人洗肺肝

起句

當筵歌舞盡吳姬 銀燭迢迢夜未晨

聯句

無入尚素景 露零衣袂爽

大意

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

結句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

起句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

聯句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

大意

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

結句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

起句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

聯句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

大意

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

結句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

起句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

聯句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

大意

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

結句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

起句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

聯句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

大意

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

結句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

起句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

聯句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

大意

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

結句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

起句

素光寒耿耿 素光寒耿耿 素光寒耿耿

字真長為丹陽令嘗云見何次道飲挈榼提壺

令人欲傾家藏次道飲酒温克也挈榼提壺先生方捧榼承樽術益沈

無慮其五斗解醒非擲生之道伶以酒為名飲一石携壺荷鍾

酒肉妻從之伶晚曰天生刻伶以酒為名飲一石携壺荷鍾

五斗解醒婦人之言真不可聽飲酒惟肉陶然復醉携壺荷鍾

上常乘鹿車携壺酒使人荷鍾隨飲不踰限有法飲在武昌諸

吏從容飲常有有限或勸少進飲曰余少忍斷壺中物吳衍好飲

年時常有酒失亡親見約故飲不踰限忍斷壺中物後因醉詎

不獨當年畢吏部酒旗招清歌夜半因留現細舞風前為解邪

同心得有盡寬饒五斗一右墟邊放歌悲世隘螺贏二豪士

洗杓傾濃玉身外唯須醉醉寢寄天遊蚍蜉萬力侯

千鍾扶醉頭流涎見麴車但將豪氣寓融樽玩世唯知酒功聖

肉鼎已膏頰染指一盞能消萬古愁君獨未知其趣車

欲開杜舍多招客曉日着頰紅有暈臣今時復中之

先乞其厨暫補官春風入髓細無聲消磨壯志白駒隙

孟浮桃李歌中月且盡生前有限盃百分散打銀船溢

袖拂梨花夢裏雲年前日月槐河枕十指寬催王節輕

浩歌但竟乾坤窄物外乾坤竹葉盃時復中之徐龜聖

醉寢偏知日月長一月二十九日醉母多酌我次公狂

政思碧樹開心句百半三百六十場痛飲伯仁難有對

難放紅蛾蘸申盃山公倒載群兒哭洋洋大白少鱗木

良醞暫留王績醉新詩無補玉山窮焦遂高談四座驚

結句

醉

事實

千日天帖中山有酒飲者一醉酩酊醉而歸人歌曰山公出

何謂往至高陽池日夕倒載歸酪酞蹇下眠畢卓為吏部比舍

飲泥醉趙達問以曹事曰中聖人王山頽... 中聖人 余題

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

何謂往至高陽池日夕倒載歸酪酞蹇下眠畢卓為吏部比舍

飲泥醉趙達問以曹事曰中聖人王山頽... 中聖人 余題

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

醉飲史淳于髡齊威王召賜之酒問曰先生能飲幾何醉對曰臣

結句 生前且盡一盃酒，身後何須千載名。
果使屈原知此趣，當年不作獨醒人。
軟飽三盃風味好，脫巾和月臥黃昏。

醉鄉兀兀陶陶裏，底事形骸底事無。
粥魚敲落檐頭月，猶在梅花醉夢間。

酌君安得如川酒，醉眼毗睨萬戶侯。
秋宵睡足燈前雨，又是五胡入夢長。

晝寢

中賞 黑甜

歐詩三盃軟飽後，一枕黑甜餘。
困青箱雜記，此人以晝寢為黑甜。

宰子

論語宰子晝寢，子白朽木不可

離也。糞土之晝日眠，後漢邊韶子孝先教授，數有人嘗晝卧，弟

眠鼻息如雷，歸文道士倚床，夢見周公。

宋李清臣少有學問，韓琦守中山，清臣謁其猶

子老吏，辭以方寢，清臣題于壁曰：八公子乘閒卧，絳厨白

衣老吏慢寒儒，不知夢見周公否。魯說當年吐哺無。

清風時覺到窓前，手倦拋書自在眠。尼父曲肱，涵道德，邊韶

起句 便腹蘊書篇，鶯聲喚至日當年。

蝶影翻來夢正甜，昏惰。宰子

人獨鄙北窓，高卧又稱賢。

大賞 曲肱 黑甜 俯騰 高卧 鳴雷 龜息 高枕 散眠 便腹 黃粉 展轉 困眠 夢蝶 雷鳴

起句 公退幽庭寂，掃地燒香閉榻眠。

一枕清風直萬錢，無人肯買北窓眠。

藥奩書篋蔽藜床，靜拂藜床藉蠹書。

聯句 青奴初薦枕，尼父肱初屈。

煙裏金爐翠，北墻風清處。南柯夢熟時，

黃粉亦五堂，半生清苦鬢毛短。

鼻息俱蝶化，蝴蝶夢初甜。

酒濃猶覺春醅困，午簾展風供睡課。

插美力酣午夢長，夜窓宿雨辨詩通。

結句 一枕清風竹影邊，未起庭花數萼凋。

三盃濁酒無餘事，一枕清風任散魂。

夢

事實 水

水參詩洞房昨夜春風起，遙憶美人在湘。槐下異聞集

宅南有古槐，醉夢入槐安國，見玉王曰：吾南柯郡，屈卿為守，凡二十載，后使者送出，一穴遂覺，因尋古槐下穴，乃槐安國又一

穴直上南枝

蝴蝶莊子夢為蝴蝶栩栩然而能罷詩維何維

即南柯郡也蝴蝶也哉然而覺遠遠然周也熊罷詩維何維

熊維曹騰附一昂曹騰復曹懿泯想亦泯忘乾坤孰高下今

古誰華胥覺列子黃帝夢遊華胥氏之國既覺怡然自高唐遊

還宋主高唐賦序曰先主嘗遊高唐晝寢夢一吹黃梁枕中記

婦人曰妾巫山之女也聞君遊高唐願薦枕席開元中

呂翁經邯鄲有盧生同止于邸主人方炊黃夢登天門晉陶侃

深翁取囊中枕以授盧曰枕此榮適如願夢登天門少特夢

生翼而飛上天見天門九重登其八惟一門不得入闕者擊之

墜地折其左翼後都督入州每思折翼之祥而自稱出本傳

萬里江山頃刻遊不馳車馬不登舟高唐雲雨移時散槐國

功名當夜休筆授江淹文藻盛草生靈運句聯優無端富貴

黃梁熟盡在驪陽傳詩嶺鳥呼春夢庭花笑一

盧生一枕收書眠自憐來歷薄未斷世情牽一

枕上漏盡生松南柯蝶化柳破忘形

齋中魂交浴鳥春草槐國神交遠遠適意

筆成花燈生暈倦枕回尤數警日陰陰轉王燭膏冷暗銀鈿

起回東方未肯明東風細細吹蝴蝶飛飛引夢長

紙屏石枕竹方床萬事無非心事憂銷金帳掩水沉烟

手倦拋書午夢長可將齊物羨莊周髻滑金釵落梳邊

忘形空榻榻魂散三千里一枕魂初散現市三竿日

迢志共悠悠神交八百秋三竿影尚留雲壇一梳風

依稀方漏盡悠悠成落落化為漆園吏槐國風何極

彷彿已神交澆書滿抱浮蛆瓮繫下黃梁始炊熟

鷄鳴頻喚舞擲擲橫眠夢蝶床枕中蝴蝶却飛還

結

黃梁猶未熟脩成殘午夢假饒化作飛胡蝶

一枕了平生何謂一黃驕花落花開我詩年

午夢不知春已去夢裏何曾知是夢幽窓謾殆相思夢

誤隨蝴蝶舞翻翻下皆相送各沉吟欲化西園蝶未成

古今一蝶舞翻翻覺後人才作夢看

不寢

事實

曉漏遲白居易詩短寒鉤盡聲長曉

圓

幾法去人事門生卷四十一

品題

獨倚危欄夜氣清，柳庭初上月三更。連床蛩韻催詩急，隔院書聲聽耳明。漏末不成胡蝶夢，愁多怕聽杜鵑啼。詩

大意

周南次第癢，衾寒，燈殘，百虫聲裏坐，夜色共娟娟。追咎前非四十年，雞拙應失曉，舌語苦爭秋。空砌寒蛩韻，孤燈碎落花。鰥魚不獲目，驚鵲未安枝。

起句

夜色共娟娟，百虫聲裏坐，雞拙應失曉，舌語苦爭秋。

聯句

疎柳一枝烟，自知吟更苦，高枕遠江聲，薄寒侵瘦骨。

結句

只將無睡耳，終夜着蛩聲，欲憑歸夢去無因，長松休送雨聲來。

早起

驚鳥啼月，不堪聞，家在南斷音信，薄寒侵瘦骨。

在家

黎奉人詩，室掃金鯨試動敲，一場好夢枕邊拋。殘星幾點在

大意

月落，燈殘，鳥啼，披襟，煙重，雙髮，星稀，披梳。

起句

月落燈殘，鳥啼披襟，煙重雙髮，星稀披梳。

聯句

西郊雲起白漫漫，樹露繁於雨，溪雲動以人。

結句

餘花帶露迎，曉星稀有數，殘月淡無輝，浪難海落月。

幽事

幽事相關，常早起。

大意

月落，燈殘，鳥啼，披襟，煙重，雙髮，星稀，披梳。

起句

月落燈殘，鳥啼披襟，煙重雙髮，星稀披梳。

聯句

西郊雲起白漫漫，樹露繁於雨，溪雲動以人。

結句

餘花帶露迎，曉星稀有數，殘月淡無輝，浪難海落月。

幽事

幽事相關，常早起。

大意

月落，燈殘，鳥啼，披襟，煙重，雙髮，星稀，披梳。

起句

月落燈殘，鳥啼披襟，煙重雙髮，星稀披梳。

聯句

西郊雲起白漫漫，樹露繁於雨，溪雲動以人。

結句

餘花帶露迎，曉星稀有數，殘月淡無輝，浪難海落月。

幽事

幽事相關，常早起。

大意

月落，燈殘，鳥啼，披襟，煙重，雙髮，星稀，披梳。

起句

月落燈殘，鳥啼披襟，煙重雙髮，星稀披梳。

聯句

西郊雲起白漫漫，樹露繁於雨，溪雲動以人。

結句

餘花帶露迎，曉星稀有數，殘月淡無輝，浪難海落月。

幽事

幽事相關，常早起。

大意

月落，燈殘，鳥啼，披襟，煙重，雙髮，星稀，披梳。

起句

月落燈殘，鳥啼披襟，煙重雙髮，星稀披梳。

結句

臨階短髮梳，和月
傍岸衰容先帶水。
岩無乘馬奔程客，
應有聞雞起早人。
于山萬山星斗落，
一聲兩聲鍾磬清。
睡意不知窓已白，
半疑殘月半疑霜。

歌枕洞房燈欲滅，
捲簾庭宇鳥初飛。
鴈影參差半汀月，
鷄聲啾啾數家村。
行人模稜畫中影，
高木夭矯空際雲。
山下幾多迷路者，
人間方夢太樛安。

戶內燈光雖冷落，
庭前月影尚依稀。
壽面自烟昏落日，
嶺頭殘曉混泥鷄。
貧賤人忙亦是歸，
富貴夢短短為空。
略入小橋霜夢過，
豆花深處草正鳴。

起

事實

黃魯直詩彷彿塵寰，
一夢中虛堂。日轉
房櫺向曉。

品題

王進士詩閑恣睡起，
澹忘言寂上。柴爐
畫掩門，東筭斜侵竹。

大言

香篆 柳陰
遊絲 柳影
日影 柳影
香篆 柳陰
遊絲 柳影

起句

睡起東軒下，
無幕陰上不見人。
日斜空影弄將塵。

聯句

蛛網留時絮，
蜂房過晚香。
滄風行絮穩，
長日上花遲。
惱亂客心雙語，
喚回鄉夢一聲蟬。
拿醋力重方投枕，
鼻齟聲豪已撼床。
半皆苔磧行吟處，
一榻梅香醉夢間。

結句

樂日坐清晝，
雨餘樓閣靜。
風晚鳥鵲還，
甚看燕穿簷。
春色澹無主，
客懷渾不語。
塵土莫尋行止處，
烟波長在夢魂間。
一庭鳥跡天篆牀，
本尺簾紋小字寒。

起句

睡起莞坐成獨笑，
教青魚笛起滄浪。
靜憑几几吾何恨，
笑殺穿簾燕子忙。

事實

暇詩詩成自一笑，
故疾逢移帶孔。
旬革帶常移孔，
以手握臂，
挾扶見容。
詔百官問病，
弘遣三
不能見公，
綽謂曰：主使百司，
省疾是謂異力。
以見公卿，
安可耶？
冷子孫傳言，
取弘懼挾扶以出。
苦吟詩瘦

病起

病起

事實

旬革帶常移孔，
以手握臂，
挾扶見容。
詔百官問病，
弘遣三

結句

苦吟詩瘦

起句

苦吟詩瘦

事實

苦吟詩瘦

結句

苦吟詩瘦

起句

苦吟詩瘦

事實

苦吟詩瘦

結句

苦吟詩瘦

起句

苦吟詩瘦

魏崔浩多才思愛吟詠一日病起友人萊人病起灑陽傳詩美賦曰非子病如此乃子苦吟詩瘦也姓蒲不口如何一病馬輪稀起來拂柳依各

事實

短髮清霜疎影伴殘燈夢回北塞魂初香腸斷西川淚暗凝可借世心空自在

大意

蓬頭瘦節醫方扶死 若面矮榻藥裹隱几 似聞藥病已殺机 牛聞蛇妖頓查非

起句

氣和靈府漸氣 休下龜寒且恣支 酒有賢人藥有君 孟中蛇影未應衰 懶拋殘蠹簡 書帷看藥錄

終句

愁焦鬢似蓬 心煩憶紫梨 股脫散貂裘 客印待醫僧 未得驅穷鬼 退飛差宋鶴 宋鶴度風日 子綦閑隱几 終須問太鈞 畏暑甚吳牛 吳牛喘月時 原憲謾扶筇 隔且拽指隨 胆弱秋添絮 衣襟殺竟腰圍減 增寒拘雪霜 頭風曉費梳 粥飲先通鼻現香 卧鎖白日塵疑履 暫無婢女还丹術 仙丸玉七食餘餌 起對青銅雪滿簪 更近中郎素髮年 甜醪銀甌喜細斟

只信詩書端作祟 誰知糠粃亦能肥 石困藤羅共縛虎 竹驚斤斧恐屠龍 病後形容嗟更老 衰面情緒轉多愁 頻舉酒盃平晉楚 略拈書帙近唐虞 醫方靜看無難字 焦尾閑橫有斷絃 多病得閑殊不惡 息心是藥更無方 病客切聞床下蟻 瘵人強蹴棘端猴 有酒不妨連日醉 西風無恙菊花秋 何妨一笑千病散 絕勝會公飲上池

獨坐

事實

與誰語趙象詩云綠暗紅藏起暝烟獨將幽恨上 何日共醉 李太白春日獨坐詩云燕麥青春遊子悲河堤弱柳鬪金枝長 條一拂春風去盡日飄揚無定時我在河南別離久那堪對此

富窓臙情人道來竟下
乘何日共醉新豐酒

品題

石田詩萬理紫思獨坐中爐香深處性靈空
金賤年莫曠人白髮公疎竹書窓因借月墮樵驚屋偶乘風
且米拂簾尋高臥
僕陽傳詩水滲山紫王河迢萬里無雲天
夢竟浮生一咲同
正迢深夜小庭清幾許月明花下聽吹簫

大意

香銷 閉戶 月影 無言 寸心 低首 月落 更寒

起句

簾捲竹風清 松聲 不響 萬慮 揚眉 更寒

聯句

應門試小童 竹密風敲王 萬籟息長夜 滄溟服刺樹

結句

山鳥暮過庭 坐上有閑客 書未庭虛無過客 人閉心靜自觀書

事實

明月滿庭誰共語 清風入戶自生涼 荷生無人堪共語 碧池池上笑春風

夜坐

事實

蕭子範詩寂冥對寒窓滿疎曉夜竹蟲聲亂

品題

劉伯溫詩殘缸比壁翳還明坐擁衾調閱五更雲捲星河垂
永夜霜飛鼓角靜嚴城飄檣莫計餘生事老病都非舊日情
想像故園馮夢到 愁來轉使夢難成

濮陽傳與盛柳村詩翠竹蒼烟襯釣磯坐來清話總忘机杯中
酒蕩星辰轉琴裏絃挑山水歸尚平婚嫁君今畢更亮歌談我
不違千里光輝憐月

媛夜深無睡露侵衣 鄰杵 未漏 月色 飲酒 會話 對月

大意

月冷 靜坐 鄰杵 未漏 月色 飲酒 會話 對月

起句

風寒 清談 盤燈 曙鍾 燈光 讀書 吟詩 捲簾

聯句

花影留明月 半庭新月色 夕坐燈無語 王露飄疎幄

林深動急風 一室亂虫聲 無殺酒自斟 銀蟬過小庭
燈閃風微弄 螢光連燭動 雨餘風變竹 梧桐上階影
窓虛月半侵 月影帶河流 夢破月當樓 蟋蟀近床聲
金橙孤耿耿 戶牖知蟾落 鴈橫聲歷歷 開懷對明月
平漏未迢迢 林喧覺雨未 人靜漏迢迢 知已有青山
不覺松間露 清風欲發鴻翻樹 青灯况味貧猶好
來沾身上衣 缺月初升犬吠雲 黃卷心慵老未衰

霜葉越風聲 床頭酒瓮月穿隙 更闌不覺銀蟾落
盆山穿月影 影差差 牆外馬蹄霜滿街 話久方知玉漏長

事實

盆山穿月影 影差差 牆外馬蹄霜滿街 話久方知玉漏長

結句

紛紛落燼看將久
滴滴寒更韻轉長
終約蕭閑對床語
青燈挑盡短檠花

風弄孤燈初入牖
露翻一葉已鳴廊

雙蝶不成飛栩栩
流螢自照字行行

村夜

灑陽傳詩

山場黃昏鳥不喧
漁鉢隱約對孤村
孤登樹杪鳴

寧知夜半人無寐
何事關心未欲言

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

